

全人類のための世界教師



ベンジャミン・クレーム 著 石川道子 訳

表紙の絵はベンジャミン・クレームの油絵の複製であり、
「インボケーション」（一九六四年作）と題される。

この書を敬愛する我が師に捧げる。

オーバーシャドウによる師の臨在が
そのインスピレーションである。

全人類のための世界教師・目次

謝辞 3

著者序文 8

序説 マイトレーヤと覚者方の出現 11

講話 全人類のための世界教師 37

質疑応答 101

差し迫ったマイトレーヤの出現 101

出現のタイミング 104

霊的危機 115

自由意志 124

諸国家——民衆と彼らの指導者 130

”自由”というアメリカの神話 135

カルマ——原因と結果の法則 141

宗教的問題 151

キリストの再臨の話を提示するにあたって 154

自分自身を救いなさい 177

「マイトレーヤは進み出る」 覚者による記事（二〇〇七年一月号） 181

マイトレーヤの手形（写真） 184

マイトレーヤの接近 185

「光の勢力は集合する」 覚者による記事（二〇〇七年三月号） 186

ミステリーサークル 189

伝導瞑想について 192

大祈願 194

新しい時代の祈り 196

語彙集 198

ベンジャミン・クレームの著書 214



ベンジャミン・クレーム

著者序文

世界教師マイトレーヤが完全に公に仕事をするために出現する用意を整えて構えておられる今、この極めて重大な出来事の背景の全体像を本書にまとめた。二〇〇四年八月にサンフランシスコ近郊で行われたシェア・インターナショナル・ネットワークの研修会における基調講話と、それに関連したアメリカとオランダでの質疑応答を中心としている。講話は主にシェア・インターナショナル誌のために、私の師である覚者がマイトレーヤの出現について書かれた一連の記事の注釈である。序説はこの情報に馴染みのない読者のために、出現に関する概観を東京（二〇〇三年）と大阪（二〇〇六年）における私の公開講演に基づいて編集した。本書はこの主題について単に軽く「一瞥」するのではなく、この極めて重大な惑星の出来事から派生する多くの効果について、かなり詳しい検討をしている。

われわれの惑星のハイアラキーの計画された帰還と一九七七年七月にマイトレーヤがヒマラヤの彼の隠遁地から降臨されたことについての詳細、そして、これまでのところ舞台

の背後からではあるが、世界における彼の仕事について説明する。さらにマイトレーヤの臨在がもたらした途方もない変化について、そして間近い将来における彼の計画とプロジェクトについて、優先事項や勧告について述べる。巨大な宇宙の-avatarとして、そして同時に人類の友である兄としてのマイトレーヤについて語る。

マイトレーヤの助言は人類に、二つの行動路線の間の単純な選択を示すだろう。彼の助言を無視してわれわれの現在の生活様式を続け、自己破壊に直面するか、あるいは彼の勧告を喜んで受け入れて、人類のための平和で幸せな将来を保証する分かち合いと正義のシステムを開始し、そしてすべての人間の内的な神性に基づいた文明を創造するかである。マイトレーヤは、われわれがどちらの選択をするかを確信しておられ、われわれのために彼の使命を公に続行することを楽しみにしておられる。

二〇〇七年三月

ロンドンにて

ベンジャミン・クレーム



ベンジャミン・クレーム東京講演会場（日比谷公会堂）

序説

マイトレーヤと覚者方の出現

「以下はベンジャミン・クレームが東京（二〇〇三年五月）と大阪（二〇〇六年）で行った講演を収録編集したものであり、世界教師マイトレーヤの出現にまつわる全体的な背景を示す」

私が話さなければならぬことの多くはすでに知られているか、もし知られていなくても、容易に入手できる情報であります。一八七五年から始まって、この情報はすでに多くの言語に翻訳されて出版されており、それらを読もうと努力する人々には入手することのできるものでした。神智学協会の創始者であった偉大な弟子、ヘレナ・ペトロヴナ・ブラヴァツキーがこの情報を一八七五年から広め始めました。彼女はヒマラヤの山の中で三年間、私がこれから話をする覚者方（智恵の大師方）と共に生活をしました。彼女の仕事は一

九二四年にもう一人のロシアの偉大なる弟子、ヘレナ・レーリツヒによって受け継がれ、『アグニ・ヨガの教え』として世界に提供され、そしてさらに一九一九年から一九四九年の間、英国の偉大な弟子、アリス・ベイリーによってさらなる教えが提供されました。

私はこれらの教えの最新の情報を、覚者方が日常世界に戻ってこられる過程において現在実際に起こっていることを示してきました。私がこのような主張をするのは、私自身の個人的な体験と接触に基づいています。しかしあなた方に私を信じてくださいと頼んでいるわけではありません。私はあなた方に考慮していただくためにこの情報を提供しています。これがあなたにとって妥当であり、合理的だと思えるならば、現在世界で起こっている出来事に、これまでに何年もの間起こってきたことに関連していると思えるならば、一言で言えば、あなたにとって真理の響きが感じられるならば信じてください、しかし、そうでなければ信じる必要はありません。この情報の多くがあなた方にとって不思議な、多分信じ難いことに思えるだろうということを私はよく認識しております。もしそうであっても、私は氣を害したり、あるいは失望することすらありませんので、ご安心ください。しかしもしこの情報が、少なくともあなた方に、そしてあなた方の子供たちにとってより良い未来への希望をもたらすならば、私はとても満足です。

緊張と危機

現在、世界が必要としているものは恐怖の除去と新たな希望です。言うまでもなく、世界はこの数年間、少なくとも冷戦の終結以後、最大の緊張期にあります。この緊張と危機の状況は二〇〇一年九月十一日に始まりました。あの日、途方もない出来事が起こりました。ニューヨーク市にある世界貿易センタービル、ワシントン市の国防総省（ペンタゴン）の建物、そして不成功だったとはいえ、ホワイトハウスへの外国人テロリストによる攻撃です。アメリカに限らず、象徴的に世界の先進諸国に対して行われたあの恐ろしい劇的な攻撃は、アメリカのみならず全世界を驚愕させ、打撃を与えました。それ以後、世界はショック状態にあります。

それはペンタゴンとホワイトハウスによって代表されるアメリカの権力（パワー）に対する攻撃であり、世界貿易センターへの攻撃を通して表された世界の主要先進国への攻撃でした。それは激しいショックを与え、アメリカに対する大きな同情を引き起こしました。しかし、あの攻撃は、世界にとってそれほど驚きであるべきではないと思います。確かに西欧世界に仕掛けられた多くの攻撃の中で、最も大胆不敵で最も組織されたものでした。では、誰による攻撃だったのか。アメリカの政府や幾つかの機関は、オサマ・ビンラ

デインと彼のテロリストグループによる攻撃と見なしました。その結果、アフガニスタンへの攻撃となり、世界貿易センターで九月十一日に殺された数よりさらに多くの一般の無実なアフガニスタン市民が殺されました。そしてその後にアメリカとイギリスによるイラク攻撃が続き、その後続いた占領下で何十万人もの無実なイラク市民が生命を奪われました。

アメリカ、イギリスその他の政府が認めようとしないことは、世界貿易センターやペンタゴン、および計画されていたホワイトハウスへの攻撃には原因があるということです。原因があつての結果なのです。すなわち、カルマです。カルマの法則、つまり原因と結果の法則の結果です。

原因は複雑ですが、非常に簡単にいうと、先進諸国と開発途上国との間にある生活水準の極端な格差です。世界の経済および金融配分に対する傲慢なアプローチが、アメリカ、ヨーロッパ、日本、オーストラリア、カナダなどの世界人口の三分の一が世界資源の八十三パーセントを食欲に浪費し、残りの十七パーセントを世界人口の三分の二のいわゆる開発途上国の間で配分しなければならないような状況をつくっているのです。

この分割は、不公平であり、食欲の結果であり、自己満足感の結果であり、慈悲の欠如

を表すものです。世界の安全にとって途方もなく危険なことであります。開發途上国はこのような状況にいつまでも甘んじていることはないでしょう。彼らは世界資源の自分たちの分け前を要求するでしょう。そしてその方向への最初のステップがアメリカにおける攻撃であり、やがてイギリス、フランス、日本、その他の開發国に及ぶでしょう。すなわち、世界における最大の危険は、イラクとその独裁政治でも、イランの原理主義的イスラム教徒でも、北朝鮮の潜在的軍事力でもありません。最大の危険は、先進国と發展途上国との間の生活水準の大きな格差であります。

人類は、この問題、今日人類を悩ます真の問題を理解するのに本当に長い間かかっています。しかし、この問題を理解しない限り、世界の未来には何の望みもないでしょう。その問題の裡に、すなわち生活水準の大きな違いに内在する緊張の中に、第三次世界大戦の種があります。もちろんその戦争は核戦争であり、それはこの惑星のすべてのいのちを破壊するでしょう。

私は非常に樂觀的な性格の持ち主です。人生の明るい側面に目を向ける傾向があり、世界の破壊などという暗い考えによってあまり憂鬱になることはありません。しかし、もし私がいま知っているこの事実を知らないとするならば、人類が生き延びられるかどうかにか

ついてあまり希望は持てないだろうと思います。人類を悩ます真の問題に私たちが目覚めて、変わり始める時間はもはや十分にありません。人類だけでそれを成し遂げることができるとは思えません。幸いなことに、私たち人類は、援助なしに、導きなしに、独りで置かれたことはかつてありませんでした。世界が始まった初期の頃から、人類の背後には、途方もない洞察と智慧を備えた方々の一団が存在していました。その方々は「世界の霊的ハイアラキー」と呼ばれています。

霊的ハイアラキーの覚者方

彼らは進化の旅路を私たちよりも先に歩まれ、もはやこの地球での転生体験を必要としない点にまで到達された方々の一団です。そして、彼らはこの世界のいわば内界の政府を構成し、人類を導いておられます。私は彼らのことを覚者方（マスターズ）、霊的ハイアラキーの覚者方と呼んでいます。彼らは、私たちが意識しようがしまいが、人類を前進させ向上させている進化の大計画の管理者であり、初期の動物人間の段階から現在の時点にまで人類を導き、保護し、進化向上を刺激してこられました。

これらの覚者方は時には公に活動されたこともありますが、過去九万八千年の間、わ

ずかな例外を除いて、大体において、ヒマラヤ山脈、アンデス山脈、ロッキーマウンテン、カルパチア山脈、ウラル山脈、ゴビ砂漠やその他の砂漠地帯など、世界の辺鄙な山脈や砂漠に住んでおられました。そして主に世界に転生している彼らの弟子たちである男女を通して働きかけてられました。覚者方は何千何万年の間、愛と智慧をもって人類を進化の旅路に沿って導いてられました。

覚者方は、自分たちが進化の一部として（人間の進化とは別に）、人間の日常世界に戻ることが遅かれ早かれ必要となることを五〇〇年前からご存じでした。唯一の疑問はそれがいつか、すなわちそのような霊的巨人たちを日常の世界に迎え入れる用意が人類にいつできるか、ということでした。その準備ができるのはおそらく千二百年か千三百年後くらいではないかと考えられていました。

しかし一九四五年六月、第二次世界大戦の終わり（ヨーロッパ戦線の終わり）に、（少なくとも人類から見ると）完璧なる方々のグループの長であり、リーダーである主マイトレーヤが途方もない発表をされたのです。一定の条件が満たされれば、彼はお一人ではなく、彼のグループである覚者方の一団を引き連れて世界に戻ることを発表されました。

世界にある程度の平和が確立されたら、そして善意と呼ばれるエネルギー（覚者方はそれ

を愛の最低レベルの様相と見ます」が顕現し、正しい人間関係の確立につながるならば、そして宗教団体と政治団体がそれぞれの家を掃除し、秩序を取り戻したら、世界に戻ると言われました。これらのことが完全に達成される必要はなく、私たちの心（マインド）が少なくともその方向に向き始めたら、マイトレーヤ御自身がやって来ると言われました。

マイトレーヤの到来は、二千六百年前に釈迦無尼仏によって予言されました。「この時代にはもう一人の偉大なる教師が、わたし同様の仏陀がやって来るだろう、その方の名をマイトレーヤと言う」と釈迦無尼仏は言われました。その方の巨大な霊力によって人類を活気づけ、鼓舞して、正義と真理に基づく輝かしい黄金文明を創造するだろう、と言われました。

時の初めから、偉大なる教師の顕現はすべて彼らの弟子たちをオーバーシャドウすることによって行われてきました。ヘラクレス、ヘルメス、ラマ、ミトラ、ヴァイアサ、クリシュナ、シャンカラチャリア、ゴータマ、イエス、モハメッドというような方々はすべて弟子たちであり、彼らの師によってオーバーシャドウされました。仏陀が釈迦族のゴータマ王子を通して働かれたように、マイトレーヤはパレスチナの地においてナザレのイエスを通して働かれました。

マイトレーヤは、キリスト原理と呼ばれるエネルギー、愛のエネルギーの体現者であります。マイトレーヤは非常に高度に進化され、非常に清い方なので、愛のエネルギー、すなわち神の第二の様相を（単にその回路となるのではなく）御自身の存在そのものの裡に体現することができなのです。彼はイエスを通して初めて一人の人間の中に神の愛をその完全な姿で示しました。同様に、仏陀はゴータマ王子を通して、神の智慧の様相をその完全な姿で初めて一人の人間の中に示されたのです。

歴史上初めて（これが今のこの時を途方もないものにするのですが）、教師御自身が世界に出て来られます。マイトレーヤは彼の弟子たちの一団のリーダーであり、世界教師の役職を担う方があります。マイトレーヤはイエスを通して現れて、過去二千年間その役職を担ってきました。そしてアクエリアス（宝瓶宮^{ほうへいきゆう}）の時代の世界教師として、次の二千三百年から二千五百年の間も続けて、その役職を担われるのです。

何千年もの間、マイトレーヤはヒマラヤ高所にある隠遁地^{いんとん}に住んでおられました。マイトレーヤは決してこの世界を去ったことはありませんでしたが、私たちの日常の世界に戻って来られたのは一九七七年七月十九日でした。一九七七年七月八日に、この使命のため

に特に御自身でおつくりになられた身体で山を降りて世界に出て来られました。人間のレベルで住むことができる、すなわち人間世界の（粗雑な波動の）レベルに十分に耐えることができる、同時に世界教師としての彼の意識を持ち込むだけ十分に繊細な身体（マヤヴィル・パル顯示体）をおつくりになりました。その身体を新しい風土に慣らすために数日間パキスタンの平地で過ごされ、七月十九日に現代社会における拠点地として選ばれたイギリスのロンドンに到着され、それ以後ずっとアジア系移民社会に住んでおられます。

新しい「時代」の始まり

アクエリアス（宝瓶宮^{ほうへいきゅう}）の時代とは何を意味するのか。天文学の用語で説明しましょう。いま入りつつある新しい時代とは天文学的事実です。私たちの惑星の属する太陽系は黄道帯を巡っており、一周するのに約二万五千年から二万六千年かかります。したがって、約二千百五十年ごとに黄道帯上にある十二星団の中の特定の星団とエネルギー的關係において整列状態に入ります。太陽がその星団と整列するとき、私たちはその特定の星団の時代にある、と言います。

過去二千百五十年ほどの間、太陽はパイシス（双魚宮）星団と整列状態にありましたの

で、私たちはパイシス（双魚宮）の時代にありましたが、その時代は終わりました。太陽はパイシス（双魚宮）星団の影響圏から出て、アクエリアス（宝瓶宮）の星団と整列状態の関係にあり、アクエリアス（宝瓶宮）のエネルギーの影響圏内に入ってきています。パイシス（双魚宮）のエネルギーは一六二五年に後退し始め、アクエリアス（宝瓶宮）のエネルギーは一六七五年に流入し始め、この惑星に影響を及ぼし始めました。

今日、パイシス（双魚宮）のエネルギーとアクエリアス（宝瓶宮）のエネルギーは、人類に関する限り、ほぼ同じくらいの影響力を持つので、それが問題なのです。パイシス（双魚宮）のエネルギーは後退していますが、現在の政治、経済、宗教、社会、科学、教育、文化などにおける制度機構はすべてパイシス（双魚宮）のエネルギーの影響下でつくられました。これらの機構はすべて硬直し、結晶化しています。まだ残っているのですが、それらをもたらしただけのエネルギーはありません。ですからもはや機能しないのです。人類はパイシス（双魚宮）のエネルギーに反応するにつれて、世界を細かい断片に分裂させてしまいました。アクエリアス（宝瓶宮）のエネルギーは日ごとに強力になってきており、人類に全く異なった影響を及ぼします。それは統合のエネルギーです。パイシス（双魚宮）のエネルギーは世界を分裂させましたが、アクエリアス（宝瓶宮）のエネルギーは人類を共に

近づけ、ひとつのグループに融合させ、混合させるでしょう。

各時代の始めには、必ず霊ハイアラキーから教師が一人世界にやって来られて、新しい時代の幕開けをし、人類を高揚させ、活気づけるアイディアを発動されました。そうして進化を押し進め、それを可能にする条件をつくりました。

平和の確立

マイトレーヤの計画は人類を活気づけ、人類の前に差し迫っている大きな危険に目覚めさせ、いかにして自滅を避けるかを人類に示すことです。それは、もし私たちが最初のステップを踏み出すならば、非常に単純である、と言われます。私たちにはたくさんの問題があります。特に環境問題は非常に巨大なので、それを正すのに何年もかかるでしょう。

何にもまして、人類は平和を確立する必要があります。平和がなければ、人類の未来はないでしょう。なぜなら私たちはこの世界を、生きとし生けるものすべてを破壊してしまうことができる核能力を持つからです。どのようにして平和を得るか。それが基本です。次々と国々を攻撃する最近のアメリカ政府やイギリス政府のやり方が、世界に平和をもたらすことは絶対ありません。世界のテロを終わらせることさえできないでしょう。世界そ

のものが変わるまでは、テロ行為は決してなくならないでしょう。

世界に平和を創造し、テロ行為を終わらせる方法は一つしかありません。それは正しい（公正な）世界を創造することです。世界に正義があれば平和はあり得ません。正義がなければ、私たちの誰にも希望はありません。世界に平和を確立しなければ、私たちはすべて死ぬでしょう。世界に正義を確立する方法はただ一つだけです。それは世界の資源をより公平に世界中で分かち合うことです。非常に単純なのに、私たちはそれを行うことを避けようとしています。分かち合いなしには、決して正義はないでしょう。正義なしには、決して平和はないでしょう。平和なしには、私たちに未来はありません。では、どうすればよいのか。

世界の先進諸国は、彼らが作るもの、創造するもの、輸入するものすべてが、すべての人類に属するものであり、世界のすべての国民のために与えられた神の計らいであることを認識しなければなりません。それを買うお金を持つ先進国だけのためのものではありません。より高度に発達した技術を持ち、より高度の産業を持つので、彼らは買うお金を持っています。しかし、彼らは第三世界の国民の活動や資源に対して十分な価値を与えていません。それは傲慢であり、不正直であり、貪欲で、利己主義です。それは変わらなけれ

ばなりません。そうでなければ世界に未来はありません。

ハイアラキーの覚者方は世界資源の再分配について計画を持っています。どのように行うのか。単純です。おそらく私たちが行わなければならないことの中で最も単純なことが、その分かち合いへの最初のステップでしょう。人々は通常全く個人的なやり方を想像します。「分かち合いだって？　銀行に預けてある私のお金を取り上げてインドネシアやアフリカなど、私の知らない人々に送ってしまうのか？」と。全く違います。それは国家的、国際的レベルで行われます。

各国がその国の所有するもの、必要なもの、製造するもの、輸入するものの目録を作ることが要請されるでしょう。そうして各国が自国の必要を満たした後の余剰分を全体としての世界のために、共通のプールに信託として預けることが要請されるでしょう。アメリカやヨーロッパの国々や日本のような特定の商品を余剰に持つ大きな国は、自国で使わないうもの、必要としないもの、余剰にあるものをその共通のプールに提供し、そのプールからすべての国の必要が満たされます。それが世界におけるテロ行為を終わらせるのか。おそらく始めのうちはそうではないかもしれませんが、それが世界に正義を確立するための最初のステップであり、正しい関係を築くために欠くことのできない信頼をつくるでし

よう。

信頼をつくるとき、驚嘆すべきことが可能になります。不可能と思われたことができません。国家がお互いを信頼することができるとき、恐怖なしに互いに話し合うことができます。資源の分かち合いを通して信頼を創造すると、あらゆる問題を次々に解決することができ始めるでしょう。容易に解決できるようになり、世界はまさに急速に変わるでしょう。しかし、そのためにはまず世界資源の分かち合いという最初のステップが必要です。

分かち合いを通して信頼を築くことによって、怒りと憤りでいっぱいの人々の今日のあのひどい状況を克服することができます。彼らは子供たちにまともな生活をさせてあげる見通しが全くなく、その結果、テロ行為に走る者たちも出てくるのです。

マイトレーヤの教え

マイトレーヤの教えは、世界のすべてのものが相互につながり合っていることを示します。これがカルマの法則、すなわち原因と結果の法則の道理です。最近、アメリカの東部地域でマグニチュード4.9の地震がありました。それはあまり大きくありませんが、その地域は地震の起こるような地域ではありません。またカンサス州などアメリカの中央地域一

帯に何百という竜巻が起こり、その幅は六百キロに及び、通過した後に多くの人々を死に至らしめ、破壊の足跡を残しました。

これらは自然の行為、神の行為だと呼ばれています。しかしこの場合、それはカルマの法則の結果でした。イラクの人々の苦難、恐怖や危機、それが中国やその他の地域でSARS^{サーズ}（新型肺炎）として顕現し、ヨーロッパ全体などでは流感の蔓延として顕現しました。これらのすべては、アメリカ政府のアフガニスタンやイラク攻撃によって引き起こされた危機状況によって生じた恐怖の直接的な結果です。神が侵略者を罰するというような問題ではありません。そうではなく、この宇宙にあるすべての原子が相互に連結しているという単純な法則です。ここで起こるところのことは、作用反作用の法則によって必ずそこに起こるようになる何かを作動させるのです。

人類がこの法則を、カルマの法則を、ただ知的アイディアとしてではなく本当に理解するとき、すべての思考が、すべての行動が、人間が行うすべてのことが、一定の動きを、つまり原因を始動するということを認識するようになるでしょう。その原因から発する結果が、良いにつけ悪いにつけ、私たちの人生をつくるのです。

ですから、人生におけるすべての行動が無害であることの必要性が明らかになります。

私たちが行動するとき、その行動の結果が何であり得るかを知らなければなりません。もし行動が破壊的ならば、世界に破壊をもたらします。行動が創造的ならば、無害ならば、それは無害を創造します。世界に創造を、善をつくりだします。

私たちは自分の手に自分自身の進化を握っています。一つ一つの行動、一つ一つの思考が人類すべての思考と行動の一部なのです。そしてそれらが人類すべてに影響を及ぼします。私たちの思考が、その行動の反応として戻って来るまでに、一体どこまで飛んでいくのか想像できません。人類の思考と行動が破壊的であるとき、破壊や攻撃、殺戮、恐怖の想念を創るとき、それによって自然界のエネルギー（フォース）に衝撃を与える想念をつくります。自然界はデーヴァまたは天使界の進化のコントロールの下にあります。そして人間が平衡を欠くと、彼らもまた平衡を失います。地震や台風、洪水や竜巻などがその結果です。

物事をすべてカテゴリーに分けて考え、互いに関連し合わない別々のカテゴリーに入れるのではなく、もっと包括的に考えるようにならなければなりません。すべてはあらゆるものに関連しているのです。すべてが互いに影響し合います。私たちは洞察力を培い、自分たちの生き方についての直観に対して知的な反応を養わなければなりません。もし私た

ちが直観に耳を傾け、心（ハート）に耳を傾けるならば、私たち自身と社会との間に、私たちの国と他の国との間に貪欲な利己的な対立関係をつくらぬような生き方を学ぶことができます。

世界中の人々が例外なく、和合（ユニティ）と呼ぶ感覚を、和合の体験を求め、懂れており、それを目指しています。和合は平衡を意味します。言い換えれば、平衡はすべての人間の基礎をなす和合を反映します。しかし現代世界は、平衡の反対である競争に基づいて築かれています。勝たなければならぬ、他よりも、より良く、より安く、より速く、より攻撃的に何かをなさなければならぬ。ですから皆が競争の中にはまり込んでおり、自分たちの直観が息をする暇を与えず、和合への彼ら自身の願いの感覚を感じるチャンスを与えません。私たちは競争の中でがんじがらめになっています。必要なのは協力です。協力は和合への願望を、平衡への願望を反映します。それこそが進化の道を進んでいくための唯一の可能な本当に創造的な方法です。

それには認識が必要です。私たちは、自分たちに何が起こっているのかについて認識しなければなりません。もし気づいていなければ、私たちは機械のようになり、対立的で破壊的になり得ます。それは私たちが必要とするところのものの反対であり、本来の私たち

である協力的で創造的な人間、他の者たちと協力して創造し、世界の和合を創造することを願う姿の逆であります。例外なくすべての人間が、あるレベルでその理想を持っています。なぜなら、私たちはすべてひとつの人類の一部なのであり、国が異なるだけです。

マイトレーヤの出現

世界教師としてのマイトレーヤは、人類に直接教えを提供することのできる機会を待っています。一九八八年から一九九一年にかけてマイトレーヤは、世界の出来事について一連の予測を提供してくださいました。それらは私たちが発行している月刊誌『シェア・インターナショナル』に発表されました。^{註1}これらの予測の最初の頃のもの一つは、世界の株式市場が崩壊するだろう、そしてそれは日本から始まるだろう、というものでした。その当時、その予測は途方もないように思われました。しかし、それがいかに正しかったかは日本の皆様がご存じです。一九八八年の半ばには、日経平均は四万ポイントでした。一九九〇年にそれがどんどん下がり始めました。その当時、経済の専門家たちは一万八千ポイントまで下がったらお終いだと言っていました。それが一万ポイントまで下がり、その後七千ポイントまで落ちました。現在（二〇〇三年）は八千五百ポイント前後です。日本の

人々から見れば、株式市場は崩壊したのも同然です。お終いです。そしてその結果、ドミノ式に環太平洋のマレーシア、インドネシア、香港、シンガポールの市場が次々に暴落しました。それは日本の株式の暴落の結果として、暴落しはじめました。そしてロシアとブラジルとアルゼンチンに飛び火しました。

アメリカとヨーロッパの株式市場は上がったり下がったりしていますが、なかなか日本で起こったようなところまでいきません。しかし、世界における出来事は非常に緊迫しており、あまりにも緊張が高まり、恐怖が蔓延しているので、マイトレーヤはできる限り早く前面に出てくることを考えておられます。そしてあらゆる機会を利用して、マイトレーヤの出現の情報を伝える仕事をしているグループの人々にますます接近してきておられます。さらに、世界のより広範囲のレベルで多くの人々に姿を現しています。マイトレーヤはあらゆるレベルの人々、普通一般の人々や、政治、経済、社会、科学、教育などの分野における最も役に立つ人々、世界を助けることのできる人々、世界に良い影響力を持つ人々に話をしております。世界をより良い方向へ変容させるために必要な変化を、近い将来、始めていくであろう人々の大きな集団を養成しました。

マイトレーヤは御自分の教えを直接人類に伝える機会を待っています。しかし彼は、初

めのうちはマイトレーヤという名前を使わないでしょう。初めは、アメリカの大きなネットワークテレビに出演し、その後日本にテレビに、そして世界中から招待を受けるようになるでしょう。彼は普通の男として、ユニークな非常に前向きなアイディアを持つ男として、私たちと同じような人間の一人として現れるでしょう。

マイトレーヤは非常に間もなく出現してこれられます。いや、彼はすでに出現しておられるのです。彼は一九七七年以来、地上に出ておられるのです。しかし、これまでのように御身分を隠してではなく、公に仕事を始められるでしょう。彼の考えやアイディア（理念）が一般に知られるようになるまで、地味な形で話をされるでしょう。これらの尋常でない、強力なアイディア（理念）を伝える男を、全世界のための正義を、全世界のための自由を呼びかける男を探しなさい。

十分に大勢の人々が彼のアイディア（理念）に反応し、世界を救い、変容させようと騒ぎはじめるとき（すでにますます多くの人々の関心がそちらに向きはじめています）、政府に対してその行動を変えるように呼びかけるようになるとき、大宣言と呼ぶ日が訪れるでしょう。そのとき、マイトレーヤは初めて自分が本当に誰であるかを認め、それを世界に示すでしょう。マイトレーヤは世界中のすべての人々のテレビの画面に現れるで

しょう。

大宣言の日には、テレビなしでいたくないものです。なぜならその日には、それまでにすでに顔なじみになっているマイトレーヤの顔が、衛星中継で世界中連結されたテレビで見えるでしょう。歴史上初めて、世界教師が全人類の前に公に御自身を提示されるのです。そして私たちが奇跡と呼ぶ途方もないことが起こるでしょう。

私たちはマイトレーヤの顔を見ますが、彼は実際に一言も話さないでしょう。しかしマイトレーヤの思いが、アイディアが、私たちの心（マインド）に沈黙のうちに入ってくるでしょう。そして私たち一人ひとりが自国語で内的にそれを聞くでしょう。ですから日本人は日本語で聞くでしょう。フランス人はフランス語で、ロシア人はロシア語で、オランダ人はオランダ語で、英国人は英語でというように。母国語が何であれ、その言葉は、人々の心（マインド）の内に、あたかもマイトレーヤがあなたに直接語りかけているように聞こえるでしょう。そのときあなたが何をしていようと、魚釣りをしていようと、車の下で修理をしていようと、テレビを見ていなくとも、その声が、マイトレーヤの思いが、アイディアが、あなたの心（マインド）の内に響くでしょう。あなたはそれを切ってしまうこともできます。何か他のことを考えることもできます。あなた次第です。それを聞こうが聞く

まいが、あなたの勝手です。しかし、もし世界教師が何を人類に話しているのかを知りたければ、耳を傾けることをお勧めします。

これは十四歳以上の人々すべてに起こるでしょう。マイトレーヤは世界の長い歴史を簡単に話し、人類が出てきたあの高みから今日の物質主義の中に落ちた状況を示してください。またマイトレーヤのグループ、すなわち霊的ハイアラキーの覚者方の事実を紹介されるでしょう。人類の未来を示し、途方もない科学の驚異の幾つかを描写してください。正義と、正義への唯一の道としての分かち合いの必要を、そしてそれこそが世界に平和をもたらすことを訴えるでしょう。

これが起こっている間に、マイトレーヤのエネルギーが、愛のエネルギーが途方もなく強力に世界のすべての人々の心（ハート）を通して流れ出すでしょう。全人類の心（ハート）の中にそれが感じられるでしょう。「それはあたかもわたしが全世界を抱擁するかのようであろう」とマイトレーヤは言われました。それを実際に肉体で感じる人々もいますでしょう。これがマイトレーヤのメッセージに対して直観的な心（ハート）からの反応を喚び起こすでしょう。肉体のレベルでは世界中で何千人もの人々が病の奇跡的な治癒を体験するでしょう。

この三つの方法で、人々はこの方こそ世界教師 (The World Teacher) であることを、クリスチャンが待望しているキリストであり、イスラム教徒の待望するイマムマーディであり、ユダヤ教徒がメシアとして待っている方、ヒンズー教徒のクリシュナ、またはカルキアバター、仏教徒の待望するマイトレーヤ仏陀 (弥勒菩薩) であり、またすべての人々のためのより良い生活を望む宗教的な関わりを持たない人々によって、待望されている方であることを知るでしょう。

この出来事に対する私たちの反応が世界の将来を決定するでしょう。マイトレーヤは私たちに選択を提示するでしょう。人類は自由意志を持っていますから、選択は私たちが行うのです。端的に言えば、その選択は、分かち合い、正義、戦争とテロリズムの永久終止か、あるいは究極的にこの地上のすべての生命——人間と人間以下の王国すべて——の消滅かです。マイトレーヤはすでにこう言われました、「わたしの心 (ハート) はあなた方の答えを、選択を知っている。そして喜んでいる」と。

註11『いのちの法則』として本にまとめて出版されている。



ベンジャミン・クレーム大阪講演会場（大阪厚生年金会館）

講話

全人類のための世界教師

全人類のための世界教師

「以下の記事は、二〇〇四年八月にアメリカのサンフランシスコ近郊で開かれた伝導瞑想／研修会におけるベンジヤミン・クレームの基調講話を編集したものである」

「マイトレーヤが世界の舞台に出現されて、アクエリアス（宝瓶宮）ほうへいしゅうの時代の世界教師として御自身を世に示されるのを、多くの人々が、この数年間、辛抱強く待った。多くの人々は長い待ち時間を実に厄介だと感じたが、他方、マイトレーヤの臨在と彼の計画を世に知らせるために、せっせと喜んで働き続けてきた者たちもいる、努力がいつかは成功することを確信しながら。すべての者がマイトレーヤを見る日の夜明けが訪れた。知ってか知らないでか、す

べての者が彼を呼び求め、そして彼は約束を守って戻って来られた」

『マイトレーヤの出現』より——シエア・インターナショナル誌一九八七年四月号発表へ註し

「多くの人々は長い待ち時間を実に厄介だと感じた……」

もしあなたがマイトレーヤのことを実際よりもよく知っているとすれば、彼は御自身がすでに戻っていると信じておられることが分かるでしょう。マイトレーヤは、いつ出現するのかというような疑問はすべてばかげたことだと、本当に思っておられます。マイトレーヤはすでに戻っておられるのです。彼が（この活動をしている）様々なグループを訪れるとき——もちろん変装した姿ですが——、グループの人々はそれがマイトレーヤだと気づいています。なぜならその同じ姿の人物が以前に訪れたとき、それがマイトレーヤであつたことがすでに確認されているからです。そして彼はまた同じ姿でグループに現れ、そして彼らの様々な質問に答えています。このような体験を繰り返しているがら、それでも彼らは言うのです。「だけど、なんて長い時間がかかるんだろう。世界の状態がこんなに悪いのに、なんて長い待ち時間なのだろう。一体人々にどう説明すればよいのか?」。マイトレーヤは言われるでしょう——あなたがたは一体何を言っているのか。案じたければ案

じればよいが、案じることは何もないのだ、と。

世界は大丈夫なのです。世界は約束に満ちています。マイトレーヤが世界に出ておられるのです。彼は戻って来られました。待つものは何もありません。計画は良好に進行しているのです。

世界は変化の直中にありますが、私たちにはまだそれが見えていません。当然ながら、私たちは過去数年間の出来事にあまりにも氣を取られすぎています。例えば9・11以来、それに続いたアフガニスタンへの攻撃とイラク侵略、そしてそれはまだ進行中であり、さらにより大きなテロの可能性があります。

9・11以前の十年間は、平安とそしてより良い変化の増大が見られた十年でした。途方もないことがたくさん起こりました——例えば、冷戦の終結という途方もない出来事。それは一九四五年の世界大戦の終結以来、世界に起こった最も素晴らしい出来事でした。人類を覆っていた突然の死の恐怖、その可能性だけでなく実際に起こり得そうであり、すべてが大破壊で終わりそうだという恐怖感を取り払われたのです。多くの人々は破壊されてしまう世界で子供を育てたくないのです、子供を産むことをやめたのです。今や、人々は子供を産みはじめ、それを待望し、子供たちは生きて、新しい文明を築いていけると思っ

ています。

人々は9・11以前の十〜十二年間に世界の途方もない変容を経験しました。それに関与した人々にとつては、それはとてつもない、劇的なことでした——ソ連邦に起こった変化、政治制度の崩壊、より良い、より容易な生活様式を求めた何千万の人々の要求、ロシアの石油業における大富豪の台頭などです。中国では、国民の大部分にそれまで経験したことのない物質的な豊かさを着実にもたらした実績。中国東部の海岸地帯の人々は中国では誰も経験したことのないような生活の質と物質的な豊かさを今経験しています。これは全く新しいことであり、中国の他の地域における途方もない貧困を緩和しました。確かにまだ貧しい所は存在しますが、中国全体としては、以前のようなひどい貧困からは脱却しました。同様に、ロシア人の大部分にとつて生活はよりしやすくなっています——より空虚なものかもしれませんが。

アメリカやヨーロッパなど西洋に住む人々は、相互依存の増大、人類の一体性の認知、世界をひとつとして見ることの必要性、そして本当の変化は世界的スケールにおいてのみ可能であるということを見ました。

過去数十年間における重要な出来事の一つは、何千万もの人々が歴史上初めて完全で対等

な市民であることを許され、自分たちの国の認知された持ち主となれたことです。つまりネルソン・マンデラ氏の釈放と新しい南アフリカの創造であり、これは途方もない出来事でした。それはマイトレーヤの直接の働きの結果です。マイトレーヤがそれを生じさせたのです。

同様に、彼の影響はソ連邦を開放させ、ソ連邦を諸国家のコミュニティに迎え入れ、そして古い、怒った、「否（ニエツト）」ばかりを唱えていた大熊を、諸国家の友好的で協力的な連邦に変容させました。それは途方もない変容です。

それから東西ドイツの統一があります。誰の予想よりも何年も早くそれは起こったのです。もちろん西側の人々の中には、それを新しい責任と見なし、そのおかげで彼らの生活水準（人工的に高くされていた）が低下させられたと思う人もいますが、しかしそれはヨーロッパに新しい安定をもたらしました。ヨーロッパはご存じのように一九四〇年代まで絶えず交戦状態にあったのです。

ですから、マイトレーヤの影響の下で途方もない量の変化が起こったのですが、それを私たちは忘れがちです。苦悩のあまり、あるいは将来への懸念の中で、そして均衡感の欠如のゆえに、私たちは、世界に放出されている強力なエネルギー、尋常ならざる方々の大

きな集団（現在十四人の覚者方）の臨在、そして覚者方すべての長であるマイトレーヤ御自身の臨在のゆえにもたらされた大きな肯定的な変化を忘れがちです。

「マイトレーヤ御自身もまた、人類が彼に出現を求め、すべての者に語ることを要請するのを何年間も待たれた。今、やっとその招待が出されて、彼は、人類が彼を認知でき、受け入れることを確実にするためのステップを取られた。彼を認知することのできるグループをたくさん整えられたのは、理由がないわけではない。あらゆる分野において高い地位と影響力を持ち、そしてマイトレーヤの臨在を知り、彼の計画と関心を知る者たちがいる。彼らはマイトレーヤの言葉を聞き、それが真理であることを信じる。このように用意された者たちは多様な背景と国々から来るが、マイトレーヤと世界に仕える願望においては一樣である。マイトレーヤの計画について詳しい知識を持つ彼らは、マイトレーヤに代わって語り、前方に横たわる仕事について彼らの同僚や市民を目覚めさせるだろう。このような形で、マイトレーヤは彼らを通して働き、より良き未来への道を指し示すだろう」『マイトレーヤの出現』より

隨時、任意の行動を起こす用意があるにもかかわらず、マイトレレーヤは、覚者方と同様に、すべてを細心の注意をもって行われます。一つの計画が成就することを確実にするために何年間も費やし、そして途方もない量の方向づけられたエネルギーを使います。すべてが念入りの準備の下になされるのです。世界中であらゆる人々に、一般の人々に、彼を待望する人々に、彼を見れば認知することのできる人々に、あるいは私の講演会場やその他において、マイトレレーヤは姿を現しています。彼を認知するのは必ずしも容易ではありません、なぜなら彼はいつも異なった姿形で、女性だとか一本歯の老女だとか、様々な姿で現れるからです。おそらく彼は認知することが難しいように装うのでしょう。そのためにかえって認知し得るのです。例えば、美しい衣装で現れながら、ゴムのオーバーシューズとかスリッパを履いているとか、何かちよっと奇妙なのです。そのようなヒントをしばしば与えられるのです。例えば、ある覚者は十九世紀末の衣装を見事に着こなして、長いコート、首にスカーフを巻き、シルクハットをかぶっていました。その帽子のてっぺんから毛糸のくずなどが飛び出していた、というように。

マイトレレーヤに出会い、いつときを共に過ごし、彼の優先事項を示され、世界の必要について彼の話を聞いた男女の大きな集団がいます。一般の人々、王室の人々、権力と特権

を持つ人々、国家元首、世界中の外交官、国家元首に影響力を持つ人々、特使、宗教の指導者、業界や大企業のトップにいるよく名前の知られている人々などです。今や世界には、マイトレーヤの考えやアイディアや計画を極めてよく知っている人々の非常に大きな集団が存在するのです。彼がもっと公になり、人々が実際に彼を見ることができるようになるとき（初めは、マイトレーヤとして紹介されるのではないのですが）、これらの人々は前面に出てきて語るでしょう、「確かにそうだ、この偉大なる教師、世界教師はここにおられるのだ」と。彼らはその人を指して、「この方だ」とは言わないでしょう。しかし「その方はここにおられる、これは彼のアイディアだ」と言うでしょう。これらの人々の中には、たくさんの方の支持者を抱える人々もあり、彼らが語るとき、そのリーダーたちについていく大勢の人々は信じるのです。彼らは思想のリーダーであり、ポピュラーなアイディアのリーダーであり、新聞や雑誌に記事を書くメディアの高い地位にいる人々です。彼らはマイトレーヤに会ったことがあり、彼のアイディアや思考、変化と平和のための必要条件についての彼の分析を知っています。このようにして、マイトレーヤは大きな世論の集積を彼の側に築いているのです。そうすると、一般民衆が大きな広範な世界の世論をつくり、そしてそれが世界を席捲するでしょう。彼らは諸国の政府に対して、変化の過程を始めてマイト

レーヤの教えを実施することを強いるでしょう。

彼をキリストとかマイトレーヤと見る人々もいるでしょう。あるいは単に、人類を鼓舞し、変化への可能性があることを示し、ブッシュ氏やブレア氏のような指導者や古いやり方についていく必要はないことを示してくれる政治・経済の思想家として見る人々もいるでしょう。分割して支配するというあの古いやり方は終わりました。政策をつくり、それを民衆に押し付ける古い政治のやり方は終わりました。民衆の力の顕現によって、政府の仕事は国民の必要を満たすことであることに気づくでしょう。それが政府の役割です。それを少しだけ、あるいはもう少し余計に行う政府もあります。より民主的な政府もあります。政治の過程により多くの参加がある政府もあります。しかし極端に圧政的で、国民はほとんど何も言えない政府もありますが、それは終わるでしょう。

「マイトレーヤの顔は、間もなく世界中の大勢の人々に見られるだろう。テレビのおかげで今日、アバター（大聖）は数え切れないほど多くの家庭に入り込み、簡潔な言葉で人々の心（ハート）に浸透することが可能である」

マイトレーヤの力の秘密の一つは言葉の簡潔さです。それはこれまで限られた数の人々のみ（とは言っても、非常に大勢の人々ですが、世界人口から見れば限られた数）が体験してきたことですが、彼はハートから相手のハートに直接に語りかけます。賢い振りをしたり、議論をしたりするではありません。

彼は自明のことについて人々を目覚めさせているのです。すべての人間が食糧と住居と健康管理と教育を必要とし、そして生活の中に刺激と文化と多様さが必要なことは明らかなのですが、世界中の多くの政府にとっては自明のことのように思えないのです。

それを行うことが政府の責任であり、マイトレーヤがこれらの単純なことを語るとき、ほとんどのキリスト教徒はキリストからそのような話を聞くとは予想しないでしょう。なぜなら彼らは、キリストが宗教について、神について語ることを、あるいは他宗教に対抗するキリスト教の宗教について、アカデミックな宗教、宗教家が語り論じるような宗教について話すことを期待するからです。

マイトレーヤは、すべての宗教団体によっていろいろな名前で待望されていますが、一宗教の教師として来るものではありません。様々な宗教団体にとって、それはとてつもない驚きであり、多くの人々にとっては、彼を認知して、ついていくのが非常に難しいでし

よう。

「間もなく同じような形の出演が繰り返され、それは全世界が彼の言葉を聞き

て応じるまで続けられるだろう」『マイトレーヤの出現』より

マイトレーヤは、出現について一連の計画を持っておられます。マイトレーヤの出現は、ご存じのように、文字通り何年にもまたがり、幾つもの局面を経てきました。各々の局面において、さらに大勢の人々が彼の言葉を聞く機会を与えられました。マイトレーヤは何年もの間、世界中を巡り、人々の前に姿を現し、その地域にアクエリアス（宝瓶宮）からの宇宙エネルギーで活性化した治癒の水源をつくりました。そのような水源が世界中に全部で七七七カ所つくられるということです。

治癒の水源をつくられたときには、マイトレーヤは主にその地域の宗教団体の会合に姿を現しましたから、その場にいた人々の数にこれまでに現れた回数（三百回以上（註））を掛けてみるだけでも、非常に大勢の人々がマイトレーヤの言葉を聞き、彼の関心事、人類の問題に対する彼の解決案、優先事項などを聞いたはずで

「このようにして、世界は、キリスト・マイトレーヤがわれわれの直中におら

れ、われわれを教え、導き、仕え、案内し、奈落の底から引き返す道を示し、新しい世紀の創造を鼓舞するために構えておられることを知るようになるだろう

う」『マイトレーヤの出現』より

覚者は「奈落の底から引き返す道を示す」という言葉を何度も使いました。覚者方の観点からすれば、世界はすでに救われているのですが、人類はそれを知らず、自分たちの最高の意図と最高の関心事を行動に移さなければなりません。そうして、奈落の底から、崖っ淵から、引き返すのです。奈落の底とはもちろん世界規模の戦争です。それは核戦争であり、地球上のすべてのいのちを破壊するでしょう。地球における人類という「実験」は終わるでしょう。

覚者方は彼らの仕事が、すなわち保護と教示と案内という人類への彼らの贈り物が、人類に奈落から引き返し、方向転換することを可能にすると確信しています。それがマイトレーヤの仕事の最後の局面です。

マイトレーヤが公に世界で働かれるとき、まだマイトレーヤという名前を名乗らない間にも、人類をその時点にまで導いていくでしょう。そしてそれが達成されるとき、人々が自分たち自身で方向転換をするとき、マイトレーヤは御自身の本当のご身分と目的を明ら

かにすることができます。覚者方は現在のイラクにおける状況や現政権下のアメリカ全般の状況を変化の過程における一種のシャックリのように見えています。人類を奈落の底に突き落としてしまうような最終的な終末とは見ていません。

ですから、覚者方にとって、これは「最後のゲーム」ではありません。最後のゲームは、人間は終わりの時に近づいていると思ひ込んでいる伝統固執主義者の心（マインド）の中にあるだけです。米国の大統領は伝統固執主義のキリスト教徒であり、神が彼を導いていると信じ込んでいます。彼はイリ्यूジョン（錯覚）の中に生きている、と私は思います。この国（アメリカ）や海外に住む非常に大勢の人々も私と同じように思っています。多くの人々は伝統固執主義の教えに条件づけられており、今の時を「聖なる時」、彼らの教典に書かれている「時」として見ます。そして彼らはクリスチャンの教典を通して「神の宣告」に沿っていると思っています。それは全く違うのですが、彼らはそう信じているのです。そのようなキリスト教徒が何千万人もいます。

何年も前でしたが、この国（アメリカ）の人口二億七千五百万人のうち伝統固執主義キリスト教徒は四千万人いるといわれていたことを覚えています。巨大な数です。この国の宗教団体の中で、それがバプテスト派だろうが、ローマカトリック派だろうが、伝統固執

主義者の力が非常に強いです。それぞれが伝統固執主義の支派を持つので、それらを全部合わせると、アメリカのキリスト教徒の大きな部分を占めることになります。

マイトレーヤは「あなたの目をご褒美に向けておきなさい。そのご褒美は人類である」と言われます。マイトレーヤは二〇〇三年二月にロンドンでの平和行進に姿を現して、学生のようなグループによるビデオインタビューを受けました。私たちのグループの人々が近くにおり、それを見ていました。彼はカリブ海地域の人間で、素晴らしい男性でした。「本当にうれしいよ、こんなに多くの若者が真理のために、平和と正義のために行進しているのを見て、とてもうれしい。このような光景を見るのは素晴らしい」と言っていました。そして彼は、「あなたの目をご褒美に向けておきなさい。ご褒美は人類だ！」と言いました。それから若い男性が彼に近づいてきて、手を取り、彼らは一緒にどこかへ行きました（その若い男性はある覚者の弟子でした^{（註3）}）。

ですから、「あなたの目をご褒美に向けておきなさい。そのご褒美は人類です」。

「最初はおそらく、すべての人間が彼を認知するわけではないということと言

っておく必要がある。すべての者が、彼の経歴と再臨の本当の背景を知るわけではない。しかし、ますます多くの者が、彼の言葉の叡知を知り、彼の臨在の祝福を感じ、彼の言われることが真理であることを心（ハート）の裡で悟るだろう。

彼らは心（ハート）の裡から応え、マイトレーヤをこの時代の大教師として認知するだろう。マイトレーヤは、彼らの心（ハート）の裡に、分かち合つて均衡の取れた調和した世界を再建する願いを喚起するだろう。人間がこの仕事の緊急性を認識するとき、以前には見られたことのないほどの善をなすエネルギー（フォース）が現在の不公正に対して解き放たれるだろう。世界の変容は速やかに進み、人々は同胞として、すべての者の福利のために働くだろう。そうなるであろう。このようにして新しい時代は、マイトレーヤと彼のグループの指導の下に、人類自身によって築かれるだろう。過去の分離は協力と分かち合いに、利己主義と食欲は新しい正義に場を譲るだろう。人間自身の裡からより良き方向への衝動が沸き上がるだろう。それはわれわれすべての裡に備わる神性の証である。その神性が人間の本性であり、マイトレーヤはそれの

顕現の動因であることを示されるだろう。

すでに彼の仕事の痕跡はすべての者に明らかである。古き教理は死ぬ。新しい^{はうき}箒が過去の破片を掃き捨てている。過去の時代の古い人間はなかなか消え去らないが、真理の新しい力（フォース）が彼らの陣容と崩れかけた防壁を打つ。彼らは正義と公正の新しい力（フォース）にいつまでも抵抗し得ないだろう。

う」『マイトレーヤの出現』より

マイトレーヤが世界で公に語りはじめるとき、覚者は彼の影響をこのように見ています。すべての者が彼を認知するわけではないでしょう。彼を反キリストと呼ぶ人もいます。う。彼らは私のことを反キリストの先触れだとか、使い走りだと呼びます。私は長い間そう呼ばれてきました。

マイトレーヤの声

「一日一日と過ぎるごとに、偉大なる主が世界の前に姿を現す日がさらに近づく。今や非常に間もなく、人類は彼らの直中に最も尋常ならざる特質を備えた男が住んでいることを知るだろう。奉仕への能力は類を見ず、『カルマ（因果）

の法則』のみがそれを条件づける。その法則についての知識は、彼の仲間の中でも無類である。何千年の経験から蓄えられた智恵、神の大計画の中に具現

される大目的についてのビジョン……」(一九九四年七月『マイトレーヤの声』より)

このような人物を見るのです。途方もなく秀でた男、わたしたちがこれまでに見たことのないような人間です。世界には、(おそらく他の覚者方を除いて) マイトレーヤのような知識と叡知と長年の経験をもって語ることができる人間は一人もいません。

世界の問題のすべてを、その困難さ、変化のために必要とされることすべてを知り、しかも意味の世界をも知らなければならず、そのためには覚者でなければなりません。地上における人生の意味と目的を知らなければなりません。少なくとも、その時代の人類に、それについての暗示を与えることができなければなりません。キリストであること、あるいは覚者であること、そして人類に語りかけることもさりながら、それを人類が認知できるように行わなければ、何も伝えることはできません。ですから、問題についての理解と問題への解決を、人類にとって現実として感じられるように提示し、それらを察知することができるようにし、人類が彼ら自身の問題として認知できるように、そしてその解決法は理にかなない、納得のいく答えであるように提示しなければなりません。

おそらく、もっと多くの人間が、私たちたちが期待したほどこの情報に飛びつかない理由はこのことだと思えます。なぜなら、私たちたちはおそらくそれを完全に信じられるような方法で、本当に理解し得る方法で、そして彼ら自身の体験の一部として見なされるように提示する方法を知らないからかもしれません。

もし私たちが覚者ならば、特に、もしマイトレーヤであるならば、彼らの心（マインド）に答えを、体験を、そしてその情報を整理統合するビジョンを投射して、彼らにとってそれを現実のものにすることができましょう。それは稀なことであり、私たちは一般的にそれを行うことができません。

だからといって、私たちは試みるべきではないというわけではありません。できるだけ時間とエネルギーを費やしてこの話を伝え、キリスト・マイトレーヤの臨在の事実と彼の優先事項について、変化の必要と起こらなければならない変化の種類について知らせなければなりません。

私たちは、それが人々にとって本物と感じられるように提示しなければなりません。彼らがそれを体験しなければなりません。多くの人々が餓死しつつあるということを彼らに感じさせなければなりません。単なる言葉ではなく、餓死するということはどんなことか

をある程度体験しなければなりません。彼らがそれにより近づいて、いかにひどいものであろうがそれを見ることができるよう、何らかの枠組みに入れて話をしなければなりません。統計的なリストを挙げても彼らの頭を素通りするだけです。数字というものは吸収しにくいのです。二十パーセントの人間が世界の八十パーセントの資源を使っていると言っても、あまり意味をなさないので。それは事実です。ひどい事実ですが、容易に素通りされてしまいます。しかし彼らがマイトレーヤを見て、貧しい、飢えた人々についてのビジョンを得ることができるとき、飢えている何千万の人々についての彼の思いを聞くと、それは身近なものになるのです。マイトレーヤはそのことを話しているのです。ヨーロッパ、アメリカ、日本などの太った中産階級について語っているではありません。一日百円足らずで生活している何千万の人々について語っておられるのです。全く何も持たない人々です。骨と皮ばかりで死んでいく大勢の人間です。

マイトレーヤはわずかなエネルギーで、人々にそのような実感をもたせることができるのです。そして人々の愛と慈悲の思いをその問題に向けさせることができます。ですから、同じことを言っている、人々のマイトレーヤへの反応は、私たちが話すときの反応とは全く異なるでしょう。だからといってそれは簡単だろうと考えるべきではありません

せん。

「人間の心（ハート）に平易に語りかける能力、人間の必要について、そしていかにしてこれらの必要を確保するかについての認識、すべてのものへの関心と愛は限りなく計り知れず、それは人間の想像のあらゆる可能性を超える。英雄が、タイタン（巨大な人物）が人間の直中におり、そしてもうすぐ人類はその方の存在に目覚めるだろう。

間もなく、非常に間もなく、マイトレーヤは人類の中の相当な部分に向かって話しかけ、彼らに御自身の希望と計画を伝え、すべての者のためにより良い世界についての彼のビジョンを分かち予定である。その時以後、彼の出現の過程は急速に進み、そして勢いをつけながら、彼を世界の前に公にしていくだろう。そのようにして、『人の子』は戻る、と告げたその約束を果たし、そしてそのようにして、人間は彼らの救いの時が間近であることを知るだろう。

マイトレーヤは出現して、人間に直接語りかけるための招待を待つ間、何もしていないのではない。彼の臨在がすでもたらした変容は、強力で深い。

そしてこれらの言葉が書き留められ、読まれている間も、さらに深遠な変化が現れることが予想される。

新しい声が人事の中に聞こえはじめており、国家のリーダーたちの中で敏感な心（マインド）を持つ数人によって明確に表現される。この声はわれわれの時代の最も必要とされることをますます表現していくだろう——平和、寛容、過去の過ちの許し、すべての者の利益のための協力と分かち合いである。その声は、人間同胞を愛する者すべてのハートとマインドから発せられるだろう。そして世界の再建と再生への打ち破られることのない要求が出されるだろう。その声は新しい時代の声である。それはマイトレーヤの声である。

平和と正義を求めて盛り上がるどよめきに、あなたの声を加えなさい。そして歴史の中におけるあなたの位置を悟りなさい。新しい時代の世界がつくられつつあり、すべての者の参加を必要とする。すべての者がこの偉大なる仕事に果たす役割を持つ。自分の志向を声高らかに表現するのに、若過ぎるとか老い過ぎているとか感じるべきではない」『マイトレーヤの声』より

世界の必要を声高に語る人々、すでに声高く語っている人々やグループが存在します。

世界に平和を確保するために正義の必要を語るのは私たちだけではありません。何千人、いや何百万もの人々がそうであることを信じています。私たちはマイトレーヤの臨在についての知識を得ており、これがユニークな状況をつくります。しかし大勢の人々が内的にマイトレーヤに応じており、そしてまた至るところに住む人間が人並みの生活をする事ができるように、世界の分配制度を変換させる必要に関心を持つグループが、様々な個人が、政治的グループやビジネスや福祉の分野やNGOにいる人々が存在することを、私たちは理解し、それを念頭に置いておかなければなりません。

私たちの仕事はマイトレーヤがこの世にいることを、そして覚者方が世界に戻って来ていることを広く伝えることですから、それで仕事は終わる、そしてこれらのアイデアを持つているのは私たちのみだと考えがちです。しかし、そうではありません。これらの同じアイデアが、キリストの再臨ではなくとも、同じ政治的経済的アイデアが世界中の何十万の、おそらく何百万もの人々と分かち合われていることを理解し、認知するとき、それが私たちの仕事をずっとやり易くするでしょう。彼らは必ずしも、キリスト・マイトレーヤがこの世におられるということには同意しないでしょうが、それは重要なことではありません。世界は分かち合う必要があり、平和を保持するためには正義が必要であると

いうことに彼らが同意するならば、それが大切なことです。

もしブッシュ氏やブレア氏が、この真理が来るべき時代の出来事の背後にあることを知るならば、世界全体の雰囲気を変えるでしょう。残念ながら、彼らは知りません。彼らは、少なくともブッシュ氏は戦争のみを信じます。対テロ戦争としての戦争です。対テロ戦争というのは非常に人気があります。そしてもちろんイラクへの戦争は対テロ戦争として見られています。本当はそうではないのです。

それは偽りであり、次々とこれらの嘘が暴かれています。アメリカの人々、そして世界一般の人々は、たとえ以前には、それが嘘だと知らなかったとしても、今やそのことを知っています。

このような小人物、良心のない人物、自分たちは間違っていた、そしてその間違いを認めて謝罪するだけの国民に対する敬意すら持たない者の出番は終わりつつあります。もし彼らが過ちを認めて謝罪するならば、それぞれの国における彼らの地位に変容が起こるでしょう。そして彼らは、おそらく国民の心（マインド）をもっと配慮するようになるでしょう。しかし彼らにそれはできません。そうするには傲慢すぎるのです。新しい世界がつけられつつあり、すべての人間の参与が要求されます。すべての人間がそれぞれに果たす役

割があるのです。

「今のうちに、人間が岐路に立ち、どちらの方向に行けばよいのか道案内を待つときには、人は助けを求める叫びを発する。必然的に、その叫びが一定のピッチ（音調）に達するとき、あなた方の兄たちであるわたしたちは反応し、応える。人間は自分たち自身がつくり出した大混乱の中でやみくもにもがき回り、さらなる混沌から彼ら救ってくれる唯一のステップを取ることを恐れている。今日もまた然りである。

この大渦巻の中にマイトレーヤは今まきに入って行こうとしておられる——前方に横たわる任務について完全に意識しながら。マイトレーヤのように計り知れない叡知を持つお方のみが、そのような任務を引き受けることができるのである。

現在の無秩序の状況の中から、マイトレーヤは新しい、より良い秩序を築かなければならない。何千万の人間の苦悩の中から、彼は新しい世界をつくり出さなければならない。

誰が、マイトレーヤの救助の仕事を援けるのか？

誰が、マイトレーヤの大義のために馳せ参じて、兄弟姉妹を助けるだろうか？

今こそ、かつてないほどに、産みの苦しみにある世界に奉仕する機会がある。新しい世界が生まれようとしているのだ

(二〇〇一年十二月『マイトレーヤのお出まし』より)

すべての人間にとって今こそ世界に奉仕する機会なのです、なぜなら今日の問題と、そして問題に満ちたこの世界から新しい世界へ、新しい時代への変容は決して二度と繰り返されないからです。新しい時代^{ニューエイジ}というものはあるでしょう。しかし現在では世界の歴史における、そして人類の歴史における危機点なのです。そして今日の問題は繰り返されることにはないでしょう。ですから、私たちは、いくら何でも関心を持ち、様々な方法で関心を示した者たちは、この時間が短いことを覚えておきなさい。そして全力を尽くして、集中力と意気込みをもって、世界にマイトレーヤと覚者方の臨在の事実を知らせる仕事を果たしなさい。

「偉大なる主は、一人ひとり個々の人生に尊厳と価値を付与しようとしている」

『マイトレーヤのお出まし』より

今日の悲劇の一つは、何千万もの人々が彼ら自身の価値について何も知らないということです。彼らは物の数に入らないのです、そしてそれを彼らは知っています。彼らの人生は取るに足らないものであり、動物とあまり変わらないことを知っています。彼らの意識は成長することを許されず、認識は限られています。彼らは働くために生きています、それも幸いにして仕事があれば、ですが。その仕事は通常機械的で大変で、単なる肉体労働であり、わずかな収入、家族を養うにもおぼつかない収入です。それが世界の数え切れない人間の現実です。中国に十億の人口があり、インドに八億五千万から九億、そして南米やアフリカ、その他の国々の何千万もの人々が貧しい、不快な、物の数に加えられない人生を生きています。社会的地位もなく、彼ら自身の生活や将来についての声を持ちません。彼らは単にチェスゲームでいう「ポーン（将棋の歩に近い）」のような存在であり、人間として存在していないかのように扱われています。言葉のあらゆる意味において、彼らは搾取され、貧困です——経験において貧しく、物質的な意味においても貧しいのです。

マイトレーヤは「一人ひとり個々の人生に尊厳と価値を付与しようとして」おられるの

です。個々の人間に、転生している魂としての体験をもたらし、彼らが重要であることを、すべての魂が重要であることを、他の魂と分離した魂は一つも存在しないことを体験させようとしておられます。現在の状態がどんなものであろうとも、すべての人間が教育と食糧と、住居と医療を受ける平等の権利を持つべきであり、持つようになるでしょう。そして、生きた魂としての彼らの全可能性を成就するでしょう。

それが起こるとき、人々が、魂としての自分たち自身を認識し、自分自身の価値についての感覚、自分が重要であるという感覚が生まれ、自己尊敬の感覚が高まり、人生の中で創造的な力（フォース）となるとき、世界は変容するでしょう。今日、栄養不良で、相手にもされず、この世で極限の最低の存在に追い込まれている何千万もの人々の才能と力量が発揮されることを考えるならば、この地球に起こる変容がいかなるものかを想像することができましょう。

これがおそらくマイトレイヤがなされる最も重要なことでしょう。何千何億の人間に彼ら自身の価値を、自己尊敬の感覚を、そして彼らが重要である事実を、地球上に住むすべての人間には目的があることを教える（賦与する）ことです。目的は彼らが魂であるという事実から生じるのであり、彼らが地上にいるのは魂の目的であり、すべての人間が旅路を、

冒険の道をたどっており、それが私たちすべてに開かれています。しかし今日、大多数の人間にはそれが拒まれています。

快適な生活を送り、洗練された豊かな体験を人生から得ている私たち中産階級の者たちは、喪失感や、何千万の人々を終わりのなき貧困と値しない死に追い込んでいくという認識を、そして希望がないということがどんなことかについての感覚をほとんど持ちません。

これら何千万の人々に自己尊敬の感覚を賦与することができるのは、マイトレーヤだけです。自己尊敬なしには誰も価値あるものを創造することはできません。これらの何千万の人々が豊かさや幸せに、文化と豊かなアイディアに貢献するとき、世界に起こる変化がどんなものか想像できると思います。

「彼は世界から暴力と戦争をなくそうとしている。

マイトレーヤは彼の助力者たちをどこに見つけるだろうか。

応える用意のできている者は誰か？

愛の主を援助する勇氣を持つ者は誰か？

マイトレーヤは、すでに彼が頼ることのできる者が誰かをご存じである」

マイトレーヤは世界における重要なことはおそらくすべてご存じですから、彼が頼ることのできる人々が誰かをもちろん知っておられます。世界の復興のために彼と共に働く用意を、自らの生活の中で何らかのかたちで示している人々をすでにご存じのはずです。この安楽な心地好い環境の中に座っているわたしたちには、世界の大多数の人々の内に開花するだろう変化を感じることは非常に難しいです。世界には六十五億の人間が転生しており、私たちはそのわずか三分の一、おそらく二十億人くらいです。人類の三分の二の人々は私たちが当たり前に思っていることをすることが多かれ少なかれ妨げられています。それを私たちはいつも念頭に置いておかなければなりません。なぜなら、もしそうしなければ、私たちは、（信じようが信じまいが、認知しようがしまいが）いつも自己満足感で働くのです。自己満足感はすべての問題の根本にあるのです。

人は、*“*お金がすべての悪の根源*”*だと言いますが、マイトレーヤはそうではないと言われます。お金は単なるエネルギーです。良いことにも悪いことにも使われます。

本当の悪は、今日の世界のすべての問題——三分の二の人口が極端な貧困の中で生き、さらに何千万の人間が全く何も持たず飢え死にしているこの事実——の根本的な原因は、

私たちの自己満足感であります。もし私たちが無頓着でなければ、このようなことが起こっている世界に、豊かさの中でこれらの人々が飢え死にしている世界に、日々生きていることは耐えられないでしょう。もし私たちが無関心でなければ、そのようなことが起こることを許さないでしょう。それを私たちは覚えていて、伝えていかなければなりません。私たちが話をし、講演をするときの根本的な部分にする必要があります。なぜなら私たちの自己満足感が、世界にあるすべての問題の根源であるからです。

それは私たちの分離意識のしるしです。自己満足感は分離意識から生じます。私たちは分離しており、競争によって優位に立ち、その優越感が私たちに「良い」生活を可能にさせるのです。しかし私たちは、世界の三分の二の人々が極端な貧困の中で生き、そして死んでいくとき、「良い」生活はできないのです。罰を受けることなくそうすることは不可能です。その結果（罰）は、例えば犯罪であり、様々な大災害であり、石油のために戦争を起こす政府です。それは大災害であり、私たちが無頓着ゆえに可能なのです。私たちが当たり前に思っていることを、すなわち毎日の食糧、休暇、教育、医療などを、当然のことにできない何千万の人々の必要を私たちが認知しないからです。

これが、キリスト・マイトレーヤと共に働くということの本当の土台です。何が重要か

と言え、それが重要です。苦しむ人々と共に苦しむことのできる人々のみが本当にキリストの力（パワー）と愛を体験することができなのです。そして彼は応えることのできる人々が誰かをご存じです。それは利他的であり、無関心の反対の人々であり、認識を持ち、言葉のすべての意味において人生に関わっている人々です。彼ら自身のちっぽけな人生のみではなく、世界のいのち、世界と自分を同一認できる人々です。自分たちの家族とか友人のみではなく、六十億の世界の人間、その三分の二が極端な貧困の中に生きているその世界と自分を同一認する人々です。マイトレーヤが召集することができるのは、そのような人々です。彼らはこの状況を認知しており、そして熱心に変えようとしています。

「彼のマントラは、恐れるな！ やがて、すべてが新たになるだろう。やがて、すべてが光のもとへ戻るだろう」『マイトレーヤのお出まし』より」

「彼のマントラは、恐れるな！」。なんとというマントラ（言葉）でしょう。恐怖ほど人類を抑制するものではありません。恐怖は人間存在に固有のものなのですが、しかし覚者方から見れば、そうである必要はないのです。人々は文字通り恐怖に満ちています。恐怖心はすべての子供の中に、最も小さなころから植え付けられており、その条件づけがほとんど

すべての人間を取り囲む恐怖を煽り立てます。恐れる人々と恐れない人々の割合を私は知りませんが、恐れない人はほんのわずかでしょう。にもかかわらず、マイトレーヤのマントラは、恐れるな、です。

もし恐れているならば、あなたは役に立ちません。あなたは自分を抑制し、行動することを恐れるのです。変化を恐れるゆえに行動することを恐れるならば、あなたは行動すれば起こるだろうことを恐れているのです。それが今日の人類の状態です。戦争は終わり得ることを知っています。知っていますが、わたしたちは恐れるので、それが起こることを許しているのです。

国際連合がブッシュ氏とブレア氏にイラクとアフガニスタンを攻撃することを許したことを、私は本当に驚いています。ブレア氏がそれに同調することができるとは、想像できません。ブレア氏は知的であり、弁護士でもあり、非常に多くの熱心な支持者を抱えています（いや、抱えていました）。それを彼は、自分が世界のプリンスになりたい野心のために投げ捨ててしまいました。

もしブッシュ氏が世界のお城の王様ならば、ブレア氏は皇子です。もしブッシュ氏が世界で最大で、最強で、最も富み、最も影響力のある国の頭なら、そしてもしブレア氏がそ

れに参加して、ブッシュ氏およびアメリカと特別の関係にあるように見られるならば、彼は後継者であるプリンスなのです。なんというグラマー（幻惑）、イリュージョン（錯覚）でしょう。

「あなた方の不幸に満ちた世界に、いまマイトレーヤは歩み入る。あなた方の苦痛と苦悩を彼はあなた方自身よりもよくご存じである。なぜなら、あなた方

の生得の権利である欲びもまたご存じであるから」『マイトレーヤのお出まし』より

これが悲劇なのです。マイトレーヤと覚者方は、人類のすべての生得の権利である欲びを見るのです。苦痛や苦悩の必要はないのです。それは大体私たちが自分自身の上にもたらしたのです。カルマからでなければ、（もし民主国家ならば）私たちが選んだ悪い政府からもたらされたのです。あるいは国民を支配する権力を握った圧政者などの悪い行動からもたらされたのです。

これが人類をひどい状態に置いています——平和を夢見、来年、畑や家に何々をするこゝとができればと夢見、これを植えられれば、あれをやればと夢見る。もう少しお金があれば、この小さな土地を容容させることができ、そうすればあと一人子供が持てるのに、

生活が良くなるかもしれない、等々。

このように考える男女が、わずかなことをするのにもう少し余計なお金を必要とする人々が、ガタガタの住まいをわずかに修繕するのに、あるいは彼らのわずかな土地を、家族を養うには小さ過ぎる土地を少し大きくして、もう少し畑をつくりたい等々、そのように考える人々が世界中に文字通り何千万人もいるのです。

私たちの生得の権利である欲び、マイトレーヤはいつもそれを心（マインド）に置いています。もし私たちがマイトレーヤの心（ハート）の中を垣間見ることができれば、数え切れない大勢の人間の痛み、苦しみ、ひどい苦悩が見えるでしょう。彼らの叫び、ときには死を願ひ、あるいはより良い生活を、もっと愛を、もっと才能を、教育を、家族をいかにして養うかの知識を求める願ひが見えるでしょう。何千万の人々はそのような状態にいます。彼らは日々、私たちが滅多に知ることのないような、苦悩と苦難に満たされているのです。これらは、西欧に住むほとんどの人々が決して体験することのない苦難であり、絶えず続いている苦難です。世界の人口の三分の二の人々の共通の体験なのです。それをマイトレーヤはご覧になるのです。それがマイトレーヤの一瞬一瞬の意識的な認識なのです。あなたが彼の生活を見ることができれば、彼はいつも心（ハート）の中にそれを持

ち歩いていることを知るでしょう。

同時に、マイトレーヤは歓びの感覚を、覚者としての、聖なる存在としての歓びをいつも持っておられます。これらの二つは彼の体験の中に同時に存在するのです。世界のほとんどの人々の苦しみや苦悩は、ほんのわずかなことで、もう少しの食糧で、もう少しのお金で、もう少しの建材で、何千万の人々の生活を変えることのできるものが何であろうと、簡単に変えることができることを知っておられます。

「その歓びを彼はあなた方に十分にそして完璧に取り戻させるだろう。そのことのために、マイトレーヤはあなた方の中におられる」

『マイトレーヤのお出まし』より」

彼は私たちに、いかにして魂としての私たち自身であるかを示すために来られます。魂の特性は歓びであり、終わりのない、足かせのない歓びです。歓びの顕現と体験を妨げるのは、私たちの恐怖心です。人生の恐怖、死の恐怖、変化するかもしれないすべてについての恐怖です。変化への恐怖が人類を満たし、そして同時にすべての人間が変化を願い、より良くなることを願います。しかし変化がより良い方に行くのかどうかをどうして知る

のか、それが問題です。変化のためだけの変化ではなく、私たちはより良い変化を欲するのです。人々は変化がより良い方向へのものであることを知らなければ、変化から逃げ出します。

マイトレーヤの仕事は人類に、彼らが願っている変化はより良いものであることを示すことです。その変化は世界の大多数の人々の生活をより良くするでしょう。

もちろん非常に金持ちで非常に権力を持つ人々の多くは、そのような恩恵を得ないでしょう。マイトレーヤの到来を彼らへの警告のしるしとして見、マイトレーヤの顕現が一般に知られるのを妨げるために必死に戦うでしょう。今それは起こっており、何年間も起こっていました。

この情報が十分に広く知られて、三千万の人間がキリストの再臨の話を聞くに至るまで、三十年もかかったのは理由がないわけではありません。三千万人のうち、約二千万人がオープンマインドで、それが本当かもしれない、本当であってほしいという期待をもって、楽しみにしています。彼ら自身はそれが本当だと言える勇氣はありません。なぜなら、その確信がないからです。しかし、もしそうならば素晴らしいなあと思えるだけのオープンマインドを持っています。また、これを本当に信じて、そのために働き、彼らにとってこ

れが現実である人々は約二百万人います。たくさんの人々です。しかし世界の人口と比較すると、非常に少ない数ですが、十分です。

マイトレーヤはずっと昔、『アグニヨガの教え』の中で言われました。「十人の真の人間がいれば世界を救うことができた時代があった。それから一万人でも十分でない時代があった。わたしは十億の人間を召集する」と。私は五十六年ほど前に、私の師に尋ねたことがあります。「マイトレーヤは彼の十億の人間を召集しましたか?」。すると覚者は言いまして、「十五億人だ」と。現在では、世界に分かち合いと正義を呼びかける彼の召集に反応する用意のある人々が十五億人以上になっているでしょう。すべての人間である必要はないのです。同じ確信を何百人もの人々の内につくるのに釣り合った数の人間が必要であり、そしてそれが何千人になり、何百万、何千万になる、その効果的に望ましい結果を得るための十分な数が十五億を超えているのです。マイトレーヤは人類の反応を疑っておりません。

「マイトレーヤをあなたの心（ハート）の裡に受け入れて、あなたに奉仕してもらいなさい。彼をあなたの友として、大昔の兄として知りなさい。彼に導いてもらいなさい。教えてもらいなさい。かくして、あなたは自分の神性へと成長

するだろう。

あなたがマイトレイヤのお顔を見る時がやって来た。彼の愛の微笑みがあなたを彼の側に招くだろう。あなたの愛が何千倍にも拡大されるのを知るだろう。それを彼の大義への奉仕に献げ、あなた方がその一部である大計画の中に入りなさい」『マイトレイヤのお出まし』より

今この部屋にいるあなた方は、すべて何らかの方法でこの計画に仕えるために転生してきたのです。ほとんどが、マイトレイヤのための道を整えるという直接的な意味で転生してきたのです。あなた方のほとんどはこの事実を知っていると思いますが、全部ではないかもしれません。

「旅券は過去のものとなるだろう。来るべき時代には、人はいかなる国へも自由に入入りできるようになるだろう。マイトレイヤの臨在によって産みだされる信頼感是非常に大きく、すべての扉は開かれるだろう。そして互いに高め合う素晴らしい交流が、民衆の間で起こるだろう。このようにして、人類は、兄弟同胞が自分たちとほとんど変わらないことを見て、彼らを知るようになり、愛するようになるだろう」(一九八八年六月『偉大なる主、お出まし給う』より)

なんと素晴らしいことでしょう。検査をされたり、靴を脱がされたりする必要はないのです。あのギロチンのようなX線の中を通る必要はないのです。ただ空港や駅に行つて、切符を見せればよいのです、もし切符が必要とされるならば。

「数週間のうちに（編注）これはかなり以前に書かれた、マイトレーヤの公の使命は始まるだろう。本気で世界に仕えることを願う者たちを、彼に引き付けるだろう。彼の周囲や近くにいる者たちが地盤を整え、彼の教訓や教えの輪郭を示すだろう。一定の飽和状態が達成されたとき、マイトレーヤ御自身が世界の舞台に登場されるだろう。」

すでに、諸国家の政策方針はマイトレーヤの影響によってつくり直されている。社会的に高い位置にある者の多くが、すでに彼の存在を知り、彼の公の直言を待っている。このようにして、マイトレーヤは静かに働き、カルマ（因果）の法則の下に、人類の未来に影響を及ぼしている。

未来は人間にとって信じ難い約束をほらむ。大宣言の日から、この世界を変容させるプロセスが始まるだろう。そして人間を最高のレベルの達成へと連れ

て行くだろう。

その日には、あらゆる所にいる男女が神の愛を体験し、それを自分たち自身のものであるとして知るだろう。彼らの心（ハート）を通して、マイトレーヤのエネルギー（光線）が流れ、全く新しい理解を彼らの裡から呼び起こすだろう。彼は分かち合いと正義を呼びかけるだろう。そのようにして導かれ、鼓舞されて、人間は最大に応え、マイトレーヤの賢明な勧告の下に世界をつくり直すだろう。

マイトレーヤが御自身を現すのに今まで待つておられたのは、理由がないわけではない。やっと今、人類は自分たちの家（世界）を整えるために歩み出しはじめている。このようにして、やっと今、マイトレーヤは前面に出てきて、導くことができるのである。

大宣言の日に、マイトレーヤは人間の未来図を描き、今日、人類種族が直面する選択肢を示されるだろう。人間の選択は分かち合いしかないと示されるだろう。なぜなら、他はいずれも、この惑星を長い間支えることはできないのだから」『偉大なる主、お出まし給う』より』

私たち、すなわち世界人口の三分の一を占める先進国の人間は、この惑星の資源を誤用し、裸にしています。今日、世界は、西洋諸国による管理の下で、もはやあまり長いこと維持することはできません。汚染が世界の空気、大地、河川、そして海までも覆い尽くしています。私たちが生きるために必要な酸素を供給する、（いや供給してきた）原始雨林の巨大な部分が裸にされています。私たちはこの惑星に住むのに適さないものになっているのです。たとえ世界の資源を分かち合うことが問題ないとしても、現在のような資源の誤用が続けば、必然的に世界はあまり長く続かないでしょう。

私たちは、すべてが生きることがするために分かち合わなければなりません。しかしそのためには、もっと簡素に生活することを学ばなければなりません。生活をより簡素にし、この惑星にかける負担を少なくし、より賢いやり方をしなければなりません。世界の生態系の均衡がマイトレーヤの主な関心事の一つでしょう。そして人類が現在のような生き方を続ければ必然的に起こる結果を、彼は最も高いレベルから示してくださいましょう。それに関しての行動の必要が科学者たちに明らかにになり、彼らを通して世界の諸国政府にも明らかになるでしょう。ある程度、これはすでに起こっていますが、十分ではありません。

アメリカとイスラエルの行動

「過去の悪を克服するために、すべての人間が必要とされていることを知るべきである。分割や分離は大昔にその根を持ち、それが捕えているものを容易に放棄しないだろう。であるから、一人ひとりが、キリストを助け、変換の仕事を助けることを自分たちの任務と見なして、世界の再建に最善を尽くしなさい。」

間もなく、世界はその直中に壮麗なる輝きを見るだろう。間もなく、人間はマイトレーヤのお姿に歓喜の涙を流すだろう。間もなく、彼らは救助の仕事で自分たち自身で担い、人間の真の和合を確立するだろう。かくあるだろう。かくして人間は、長い間心に抱きながら、今まで見つけることのできなかつたあの兄弟同胞愛を、ついに知るだろう」『偉大なる主、お出まし給う』より」

人類は前進しているのではなく、かえって逆戻りしていると思うかもしれませんが。9・11のような、あるいはイラク攻撃のような大惨禍があるたびに、私たちは逆戻りしているような気がします。人々は私に手紙をよこします——「これはマイトレーヤの出現に影響を与えますか？ 彼の出現を遅らせましたか？」。実際、答えはいつも「ノー」です。これら

の出来事は何でもないわけではなく、確かに人類に影響を与えます。9・11の出来事は最近の歴史において類を見ないような影響をアメリカに与えました。これは極めて異常です、なぜなら9・11の攻撃は二つの都市の二つの建物のみ、すなわちニューヨークのツインタワー（まあそれは二つの建物とも言えますが）とワシントンにあるペンタゴン（国防総省）の建物、それに不成功に終わったホワイトハウスへの攻撃だけだったのですから。そして三千人あまりが殺されました。それはあつという間に起こった大きな出来事でした。しかしそれ以前の何年もの間に、海外でのアメリカに対するテロの攻撃、IRAによる英国でのテロ、スペインにおけるETAの攻撃などで失われた人命に比較すると、そんな大きな数ではありません。絶え間なく起こるテロの攻撃、何年間も毎月のように起こる絶え間ない攻撃に比較すれば、それほどのことではありません。人々はそれに馴れてしまうのです。もし攻撃が完全に破壊的なものでなければ、人々の日常生活の重要な部分を破壊するのでなければ、人は絶え間ない攻撃に本当に馴れてしまうのです。

しかし9・11は、アメリカの人々に途方もない心理的な影響を与えたようです。そしてそれが現政権によって煽られ、釣り合いを欠いて拡大されました。ですからそれを忘れることさえ許されません。イスラエルが、ユダヤ人大虐殺（ホロコースト）を何がなんでも人類

が決して忘れてはならないものになっているのと同じです。彼らはそれを彼らの痛みと苦しみ
の大きなシンボルとして高く掲げ、パレスチナ人に対する極端な報復を許しているの
です。イスラエル人はホロコースト——信じ難い、あまりにもひどい出来事——を彼らに起こ
ったことのデモンストレーションとして世界の前に掲げます。至るところに住むユダヤ人
は——イスラエル建国前に何百万のユダヤ人に起こった出来事ゆえに——日々、あの恐ろ
しい出来事の追想の中に生きてきました。しかし他の民族も、ジプシーやポーランド人や、
ハンガリー、ルーマニア、ロシアの人々が何百万人も同じようにして同じような場所で死
にました。しかしロシア人やポーランド人やジプシーから、あるいはルーマニアや東ヨー
ロッパの国々の国民からはそのような哀悼の声を聞きません。

私は死のキャンプの重要性やその恐ろしさを過小評価しようとしているわけではありません
。しかし人類は、人間が他の人間に対していかに恐ろしいことができるかということの
描写として、永遠にそれを高く掲げていくことはできません。それはユダヤ人とそして特
にイスラエル政府の大きな間違いだと思います。世界は彼らの体験を、彼ら自身の自己憐
憫の目を通して以外に見ることは決してできないのです。彼らがパレスチナ人に対する彼
ら自身の非寛容さと非妥協的態度についての現実を直視することを妨げています。災難を

受け、苦しみを、何年にもわたって本当の一瞬一瞬の苦難を知る人々の中では、ユダヤ人がおそらく賞を勝ち取るかもしれませんが、それはパレスチナ人にとっては重要性を持ちません。ホロコーストがイスラエルに、パレスチナを冷酷なやり方で抑圧することを許しています。そしてそれは世界全体にとって非常に大きな危険をはらみます。

アメリカ人はなぜ人々が彼らを憎むのか不思議がります。9・11の直後、アメリカは世界中の同情を集めました。三千人の人命を失ったアメリカに対して、世界は温かい思いを寄せました。亡くなった人々すべてがアメリカ人だったわけではありませんが、一瞬のうちにツインタワーで三千人くらいの人々が亡くなりました。しかしアメリカ政府はその状況を利用して、テロへの戦争を起こしました。テロは特定の国だけではなく、世界中に散在し、それに対して戦争を挑むことはできません。それは幻想です。しかしそれはアメリカ現政権が、テロ活動を援助したり、それをけしかけていると感じる国々に対して戦争をしかける権利を与えます。

しかし、アメリカ政権自体がテロ活動を助け、けしかけているのです。彼らはイスラエルを支持します。イスラエルに対して、武装のために年間三十億ポンド（約六十億ドル）もの援助をし、イスラエルの軍隊はあの地域で最強の軍隊となり、世界でも最強の軍隊の一

つです。核爆弾を保持しています。イスラエルが核爆弾を所有すべきではないと考える者はいません。なぜイラクが核爆弾を所有することが許されなかったのか。もしイスラエルが大量破壊兵器を持つことが許されるならば、なぜイラクが大量破壊兵器を持つことが許されなかったのか。現アメリカ政権がイラク攻撃について提供した理由の一つは、イラクに対する国際連合の決議のうちの十九が実施されていないということでした。イスラエルは六十三の国連決議を破っているのです。なぜか？ アメリカが安全保障理事会でそれらの決議に拒否権を発動し、決議が実際に実施されることを許さないからです。

残念ながら、アメリカで権力を握っているのは、そのような政府です。パレスチナの抑圧を援助し、けしかけていながら、同時に、イスラエルと共に、パレスチナの国を樹立することを助けるふりをしています。この問題に対する解決策として、そしてパレスチナ国の創造のためにパレスチナに提供された可能な限りの最良の提案とは、キャンプデービッドでの提案でしたが、それは当然ながらアラファト氏によって拒絶されました。なぜならそれは不公平で不正な協定であり、そのためにそれは決して長続きしなかったでしょう。基本的に不正であり不公平なものは決して長続きしないでしょう、なぜなら必然的に国民がそれに反抗するでしょうから。マイトレーヤがアラファト氏にその協定に署名しないよ

うに助言されたのです。シャロン氏がアラファト氏をひどく嫌う理由はたくさんありますが、これがその一つです。そしてアメリカがアラファト氏をはずして、彼の代わりに首相を据えつけようとした理由です。

パレスチナに彼らの故国の四十パーセントくらいしか与えない協定に署名することは、パレスチナ人にとって不可能です。一九六七年のイスラエルによる先制攻撃までは、ヨルダン川西岸地区はヨルダンの国王のものでした。マイトレーヤはヨルダンの故フセイン国王に（一九九〇年四月にロンドンでマイトレーヤが主催した会議の席上で）ヨルダン川西岸地区の支配権を放棄してパレスチナの人々のための国土にするように頼みました。ヨルダンの善良な国王はその提案に同意し、ヨルダン川西岸地区が、ガザ地区と併せて、パレスチナ人の国になることが可能になったのでした。

それ以後、ヨルダン川西岸地区の大部分がイスラエル人の入植者の住宅建設によって削り取られてきました。それらの安全を守るために周りに壁と小規模の軍隊を駐屯させた建物の巨大な密集です。そしてそれらをつなげるためにヨルダン川西岸地区全体にわたって道路がつくられてその地域を分断しており、パレスチナ人に与えられたのはヨルダン川西岸地区の約四十パーセントです。それが現実であり、だからマイトレーヤはアラファト氏

に協定書類に署名しないように助言されたのです。それがこれまでに提案された最高のものだったのです。入植建設は今でも次々に続いています。それはヨルダン川西岸地区を完全に徴収し、パレスチナ人を彼らの土地や畑から分断し、彼らが生計を立てるのを不可能にしています。そしてさらにイスラエルは壁をつくっています。それは、パレスチナ人のテロリズムと彼らが呼ぶところのことへの仕返しという名目で、冷淡に、職業的に行われています。パレスチナ人は、何らかの賠償をあるいはイスラエルが自分自身に欲している自由の形だけでも得るために、彼らがなし得る唯一の方法を使っているのです。

初期のイスラエルがパレスチナ人にテロリズムを教えたのです。イスラエルはテロによってつくられた国家です。スターンギャングとかイーグン・ゼヴァイ・ルーミ等のギャング組織が幾つもありました。彼らは、英国に対して、パレスチナに対して、テロリストとして戦い、そしてイスラエルとして知られる地域を勝ち取ったのです。パレスチナ人が、彼らが自分たちの国と呼ぶことのできる少しばかりの国土を死守するために戦っているのと同じように、彼らはあるとき、そのために戦い奮闘したのです。それは非常に不公平であり、イスラエルの建国の背後にはアメリカ政府の重みとアメリカのドルの力と軍隊があったのです。その状況が持続する限り、世界に平和は決してないでしょう。パレスチナに

平和がなければ、全体としての世界に平和はないでしょう。

イラク戦争は中東におけるより広範囲の戦争、二つの対立する勢力（フォース／エネルギー）、光のフォースと闇または悪のフォースの間の戦いの一部です。悪のフォースは一九三九年から一九四五年にかけての世界大戦のときの枢軸国（日独伊）のパワーを再び複製させました。現在の状況の中に、そのような極度の悪の三つのポイント（中心点）が存在します。一つはこの国アメリカで、ペンタゴン（国防総省）を中心に行っています。もう一つはイスラエルであり、そしてもう一つは東ヨーロッパにあります。この三つの点が三角組を構成し、彼らを通して送られるエネルギーのすべてを強化しています。

そのエネルギーが一九三九年から一九四五年にかけて、ヒトラーとムッソリーニと彼らの周りのグループ、そして日本の戦争挑発者を駆り立てた同じエネルギーです（幸いにして今回はより低位の力ですが）。それはこの惑星上の悪の勢力のエネルギーです。それ以下ではありません。それを牽制するには、人類の強さと認識のすべてが必要であり、それにハイアラキー自身の力を合わせなければならない、と覚者方は言われました。それは牽制されるでしょう。しかしその間に、イスラエルは危害を加え続けており、中東をひどい危険にさらしています。そしてアメリカは同様にイラクとアフガニスタンに危害を加えており、

必要が起ればどの国だろうと同じことをする用意があります。

わたしたちが認識していなければならぬ重要なオカルトの（内的な）出来事の一つは、旧ドイツの勢力のかなり多く——陸軍、SS隊、少数の陸軍少佐、中将級——の魂がイスラエルに転生しており、彼らの多くがパレスチナに起きている出来事の背後にいます。シヤロン氏はイスラエルの初期の時代からの古いテロリストであり、彼と同じような、同じ年代のテロリストが何人もいます。彼らはイスラエルという国家を創造するために戦い、威嚇したのです。彼らは今、パレスチナのテロを責めますが、彼らはイスラエルから学んだのです。パレスチナ人には他に何も、何の手段ありません。なぜなら彼らには手作りの鉄砲とエジプトからこっそり持ち込むことのできるもの以外に、軍隊や武器を持つことをイスラエルが許さないからです。あまりにも不公平な状況であり、しかもそれはアメリカの現政権によって徹底的に支持されているのです。

彼らの番はやって来るでしょう。終わりの時のことをやっている人々にとって終わりの時が来ます。

マイトレーヤへの反応

「マイトレーヤの接近がますます近づいているゆえ、彼の臨在に対するあり得るような反応についてより詳しく検討しよう。まず、マイトレーヤの臨在を知らせるために働いてきた者たちは、多くの人々の反応が、彼らが心に描いていたよりもずっと抑えられたものであるのに驚くかもしれない」

（二〇〇一年十月『マイトレーヤへの反応』より）

世界中であなた方のようにマイトレーヤの臨在を伝えるために何年間も従事してきた人々は、多くの人々のマイトレーヤに対する反応が想像してきたよりも抑えられたものであることに驚くかもしれません。

「初めのうちはそうかもしれない。公に使命を始めるにあたって、偉大なる主は彼が助けようとする人々を恐がらせないように慎重に進めなければならな

い」『マイトレーヤへの反応』より」

もしマイトレーヤが出て来られて、私が話をしているように語りはじめるならば、誰も彼に耳を傾けないでしょう。あまりにも人々を狼狽させることであり、誰も彼をキリストとかマイトレーヤとかそのような偉大な人物として認知しないでしょう。」頭が

おかしい男」としか見ないでしょう。

「だから、静かな、しかし心（ハート）に響く語調を探すべきである。時を経るにつれて、より緊急性を帯びた強い主張が適切だろう」

『マイトレーヤへの反応』より

私は自分の好きなことを言えますが、マイトレーヤは、招待されて出席した聴衆に語るのではなく、テレビやラジオなどで語るのですから、人々に背を向けさせないようにすることが大切です。

「時を経るにつれて、より緊急性を帯びた強い主張が適切だろう。彼の人類へ

の呼びかけは、まさに厳しいものであろう」『マイトレーヤへの反応』より

確か、最近あなた方の何人かがパネルディスカッションでこの話を伝えていたとき、そこに変装したマイトレーヤとイエス覚者が座っておられたときのことです（もちろんあなたはそれが誰かをその時は知らなかったのですが）。質問に答えている中で、「彼らは……」と言ってその後を言いよどんでいたとき、その二人のうちのどちらかが「いいから言いなさいよ、その言葉を言ってごらん」と促したのです。それでも言いづらくしていると、「言ってごらん、ファシスト！ ファシストだ！」と促したそうです。マイトレーヤは、始めのう

ちは静かに語りますが、やがてより大きな緊迫感を込めて、よりはっきりと発言するでしょう。

「時が経つにつれて、彼の思考に対して異なった種類の反応が引き起こされるだろう。より伝統固執的な人々は彼のアイディアの多くを受け入れるのに困難を感じるだろう。そしてそれらを耳障りな言葉で非難するだろう。それほど狭量でない人々はそれらを考慮し、評価するだろう。そして後者のグループの中に、マイトレーヤは、喜んで彼の大義を支持する人々を見いだすだろう。彼らはますますその数を増しながら、マイトレーヤに引き付けられて、彼らの声を彼の助言に添えるだろう。

そのように進行しながら、マイトレーヤの教えは、人間の裡から最高の志向を引き出し、人々をこの時代の困難と差し迫った危機に目覚めさせるだろう。そして、今日の問題と危険を永遠に克服する単純な方法にも目覚めさせるだろう。そのようになるだろう。そのようにして人類は、彼らが切望している洞察とリーダーシップにあずかるだろう。そのようにして彼らは人間の生活の仕

組みの中に切実に必要とされる変化を要求するだろう。

もちろん、多くの者が偉大なる主の教えに反対することが予想される。宗教団体は彼ら自身の教義と期待の中に深くはまり込んでおり、マイトレーヤの臨在と彼のアイディアを強く否定するだろう。そして多くの不愉快な非難が彼に對して向けられるだろう」『マイトレーヤへの反応』より

先日、わたしは『けだもの』と呼ばれました。「ジョージさん、あんたの背後にけだもの息が聞こえるよ」と電話をかけてきた視聴者の一人が言ったのです。（ラジオ番組でジョージ・ノーリーという人が私をインタビューしたのですが）そのとき彼はこう言いました、「クレームさん、あなたはけだもののような感じには聞こえませんか」。

「にもかかわらず、多くの者は鼓舞され、信が新たにされ、彼らの最高のものをマイトレーヤの大義に捧げるだろう。

今日の崩壊しつつある構造に非常に大きく投資しているビジネス集塊は、二つに一つの反応をするだろう。マイトレーヤを、彼らが依って立つところのもののすべてに對する敵として見る者たちは最大限の力で彼の助言に反対し、それを妨げようとするだろう。彼を未来の声として、人間にとって唯一の可能な方

法として見る者たちは、彼のアイディアを歓迎し支持するだろう。そして彼らの専門的知識を、ますます増えていく彼の支持者の中に加えるだろう」

『マイトレーヤへの反応』より

ビジネス界では、おそらく三分の一くらいが彼を支持し、三分の二が彼に対立するでしょう。ですから大勢の人々です。

「そのようにしてそれぞれの側は行動し、それぞれの姿勢を取るだろう——未来に対して、人間にとって開かれている唯一の方法に、賛成するか、反対するか。

至るところで一般大衆は彼ら自身のリーダーに従うだろう。しかし徐々に彼らは、マイトレーヤが彼らのために語ることを、彼らの必要を、家族のためのより良い、より一層の安全を願う彼らの志向について語ることを知るだろう。彼らがおぼろげに感じることでできる未来が彼らの生得の権利であり、それは生まれ出ることを待っていることに気づくだろう。そうして、世界の民衆は彼らの声を高めて、偉大なる主に対する支持と賛美を表明するだろう。彼らを啓発し気高くするための教えを求めるだろう。そして彼らを招いている祝福され

た未来へと喜んで導いてもらうだろう」『マイトレーヤへの反応』より

そのようになるでしょう。人々はどちらかの側につくでしょう。偉大なる「裂開の剣」^{れつかいのけん}が働き、未来を迎え入れる用意のある人々、変化を受け入れ、すべての人間が人間らしい生活を、より簡素なレベルであるけれど、すべての人間がより魅力的でより価値あるものと思えるような生活を送れる世界をつくる用意のある人々を選び分けるでしょう。自分たちの特権や権力やお金の終わりを、もっと富をつくり、より一層の権力をつかむための施設の終わりを見る者たちにとっては、それは彼らのための道ではないと思うでしょう。そして彼らはマイトレーヤに対立するでしょう。今すでに彼に対立している人々がいます。

「今日、多くの者は、あなた方の兄たちであるわたしたちが見る人間の将来への見通しに、驚くだろう。危険や緊張、危機や懸念にもかかわらず、わたしたちは、人間がそれらを乗り越えて、新しい時代を創造するだろうということを知っている。試練の時はほぼ終わり、分岐点は切り抜けられ、そして人間は想像を超えた様々な発見の瀬戸際に立つ。

人間が直面する問題は確かに見える。多くの人々の心（ハート）の中にある

歡びを消す不安をわたしたちは知っている。わたしたちは、絶望の中に生き死んでいく数え切れない何百万の人間の苦しみや苦悶を分かち合う。危険や不正義にもかかわらず、希望の精神が今にもその頭を持ち上げて、最も崇高な行為を鼓舞する用意があることを、わたしたちは知っている。なぜならそれは、人間の裡なる神（神性）であり、消すことのできないものであるから。

「漆黒の間は黎明^{れいめい}を告げる徴である」という古くからの格言がある。今日、人間にとってそのごとくである。大混乱と恐怖、当惑と苦悩の直中に、決意と紛争の終結が、人間を未来の約束へと目覚めさせる光の輝きが見える。

すべてが法の下に働き、そして新しい平衡の状態がわたしたちによって創られつつある。外観にもかかわらず、新しいリズムがその威力を示し、この不協和の世界に均衡をもたらすだろう。

マイトレーヤ御自身がこの大なる「法」を行使されて、宇宙に源を発するその力を人間の物事にもたらされる。そのようにして新しい希望が人間の中に沸き上がり、彼らは大計画に沿って自分たちの未来をつくり直すステップを踏み出すだろう』（二〇〇二年九月『マイトレーヤは出現を早める』より）

覚者はもちろん、現在全世界に非常に強力に存在する平和・平衡の霊のエネルギーについて語っています。それ自体としては最も強力なのではありませんが、世界の中で最も優勢なエネルギーです。マイトレーヤが放出されるその他の種々の途方もないエネルギーよりも、このとてもない宇宙のエネルギーがずっと多く世界で機能し、働いており、物事を変化させています。

ご存じかと思いますが、平和・平衡の霊は、正反対でしかも同等である作用・反作用の法則の下で働きます。このエネルギーの影響は、蔓延している憎悪や暴力や危機、先行きに対する懸念や緊張を、その正反対に変容させることです。ですから私たちは、現存の暴力や憎しみ、混乱や不和と全く同じ比率で、それと全く逆の平和と静穏、心（メンタル）的、感情的な落ち着きの時期に入ります。

この力強い、信じられないほど途方もないアバター（大聖）は、マイトレーヤがパレスチナにおいてイエスをオーバーシャドウしたのと全く同じようなやり方で、マイトレーヤをオーバーシャドウしておられ、あの偉大なる作用・反作用の法の働きを通して、日々未来の条件をつくっておられます。それはまだ強力に物質界に降ってきていませんが、今すでに世界を変容させています。それゆえに、覚者方とマイトレーヤは希望を持っておられる

のです。もちろんそれは知識に基づいた希望です。

アバター（大聖）

「何百万の人間が今、大教師を受け入れる用意を整えている」。

（一九八八年十月『アバター（大聖）』より）

これは興味深いことです。「知ってか知らずにか」何百万の人々が大教師を迎え入れる用意がある、と覚者は言われます。三千万の人々がこの話（マイトレーヤと覚者方の降臨の情報）を聞いたことがあり、そのうち二千万人が、それが本当かもしれないというオーブンマインドの期待感で待っているという、そのことを意味しているのだと思います。そしてそのうちの二百万人がこの話を確信しているのです。

「すべての者が今やこの祝福されたイベントを実現させるために協力する。宇宙レベルで、惑星レベルで、『再生のエネルギー（フォース）』はそれが蒔いた種の結実を刈り入れ、マイトレーヤの出現を可能にする条件をつくり出す。法の拘束によって、しばらくの間、彼の使命を公に遂行することを差し控えざるを得なかったが、いま法が成就されつつあり、（カルマの）負債は支払われてお

り、機会がつかみ取られていることを、マイトレーヤは知っておられる。今や彼は壮麗なる輝きの中に現れることができよう。そして多くの者が捧げる愛と奉仕を受け入れることができよう。彼らはそれをマイトレーヤに捧げることを公言しており、その用意ができていることを、彼は知っておられる。

マイトレーヤの恩寵はすでに世界を抱擁している。彼の愛は東西南北すべての側の国家を包む。彼の愛の矢を逃れる者はいない。

日ごとに、彼のエネルギー（光線）が人間を自分たちの真の運命に目覚めさせ、彼らの希望と信頼を新たに呼び起こしている。

遠くまた広範囲の地域から、民衆の代表者が彼の足下に集い、全く新しい智恵が彼らに授けられる。間もなくこの啓発された男女の集団が彼らの体験とその物語を提示するだろう。そして反論の余地を残さず、キリストがわれわれの直中におられることを証明するだろう。何百万の人々がこの約束に耳を傾け、神の代表者を見ることを要求するだろう。その時、多くの名の下に、彼は進み出るだろう。このようにしてすべての信仰の希望を成就するだろう」

『アバター（大聖）より』

私は彼をキリストと呼びました、なぜなら彼がキリスト原理を体現しておられるからです。しかし、イスラム教徒は彼をイمامマーディとして待望し、ユダヤ教徒はメシアを、ヒンズー教徒はクリシュナを、仏教徒はマイトレーヤ仏陀として待望しています。これらの名前はすべて同一人物の異なった名前であり、それは人類にとってまた問題となるでしょう。問題であり、驚きであり、最終的には歓びの源でしょう。なぜなら彼らがこの方を見ると、それがイمامマーディであることを、キリストであることを、マイトレーヤ仏陀、弥勒菩薩、あるいは彼らが待望している方がどんな名前だろうと、その方を見ることがなるでしょうから、人類にとって途方もない体験なのです。

民衆の代表者たち、つまりマイトレーヤがすでに訓練し、「全く新しい智恵」を賦与された人々、啓発された男女の集団が彼らの話を提供するでしょう。彼らはこの方について語るでしょう。彼らはこの方にお会いしたことがあり、知っており、彼の出身について保証できるといふことを語るでしょう——彼らがどの観点からそれを表現しようとも。彼らは一般大衆に非常に大きな影響力を持つでしょう。

「正義と平和と同胞愛を呼びかける彼の言葉にすべての国家が耳を傾け、至る

ところに住む人間の福祉に対する神の関心を公言するだろう。マイトレーヤの声は人々に自分たちの起源と運命を思い出させ、彼らを信において神の足下に連れて行くだろう。

マイトレーヤの任務は良く整えられていることを確信してよい。内的に訓練された彼の弟子たちはこの準備の仕事に長いあいだ携わり、自分たちの種々の役割を十分に知っている。行動への召集がかかれば、彼らは再建の仕事を世界の隅々にまで持ち込み、悲惨を歓びに、分離を和合に、憎しみと悪意を利他的な愛に置き換えるだろう。そのようになるだろう。このようにして新しい時は壮麗なるコースに入り、このようにして人類はマイトレーヤの臨在がもたらす約束を悟るであろう。

すべての者がマイトレーヤの栄光を証するわけではないことは確かだろう。ある者にとっては、神の衣はあまりにも眩まぶしすぎる。しかしほとんどの人は、彼の裡に正義と愛と健全さと自由に対する自分たちの希望と夢の成就を見るだろう。そしてインスピレーション（鼓舞）と目的と啓発と愛を求めて、彼らの目と心（ハート）を彼に向けるだろう。

これを彼は豊かに世に授けるだろう。広大なる「真理の河」なるマイトレーヤは、この水から深く汲み取る者すべてを育まれる。「愛の泉」なるマイトレーヤは、すべての者を彼の心（ハート）の中に抱擁する。過去に比類のないアバターであるマイトレーヤは、人間が自分もまた神であるという認識を持つよう導くためにやって来られる」『アバター（大聖）より』

註1＝ ベンジャミン・クレームの師である覚者からの引用は、最初にシエア・インターナショナル誌に発表され、後に、創刊号（一九八二年一月）から二〇〇三年十二月号までに掲載されたものをまとめて『覚者は語る』と題して本として出版された。

註2＝ 『マイトレーヤの使命』第三巻（313頁～318頁）を参照されたい。

註3＝ シエア・インターナショナル誌、二〇〇三年四月号参照

質疑応答

差し迫ったマイトレーヤの出現

質問 今になって、研修会の講演の主題として覚者がキリストの再臨を提案されたのはなぜですか（これまで何年もの間この情報を伝えて来たのに）。今、マイトレーヤの公的な出現が切迫しているということと関係があるのですか。

答 もちろんそうです。覚者は、マイトレーヤの出現とそれに対する反響、またこの途方もない出来事の創出に従事することの複雑さに関する記事を（過去二十三年間シェ・インターナショナル誌に）書いてこられました。それらの記事はグループにまとめられており、時には類似のアイデアやテーマを取り扱ったものが二つか三つ集合しており、それからまた他の主題について述べています。それが覚者の仕事のやり方です。それはマイトレーヤが私を通して百四十のメッセージを発表されたときの方法に似ています。それについてはマイトレーヤからのメッセージ集（邦訳『いのちの水を運ぶ者』）を読めば分かります。

マイトレーヤは、出現、貧困、分かち合いのアイディアなどの主題を取り扱います。彼はそれぞれについて別々の表現を用いて二、三回語り、あらゆる側面をまとめて一つの状況に関して完全な描写を提供します。それから彼は、何週間もの間、別のテーマについて語ります。その後で、彼は再び、(例えば)最初のテーマに立ち返り、もっと深く論じ、私たちがそれまで考えたことのない、そしてその意味をさらに拡大させるような側面を付け加えます。覚者が一群の教えや情報を発表するときには(確かに自然に行われることですが)、それを一つの統一体と考え、個々のアイディアを別々に取り上げて——そのあらゆる側面を——深く考察し、それから中断して別のアイディアを取り上げて同じことをされます。そのようにして覚者方は広範囲の主題を取り扱うのです。

質問 覚者の記事はこの惑星の悲惨な状態と、覚者の刺激の下で起こっている進歩を、交互に強調しているように思われます。現在、世界ではどちらの動向がより強く現れていますか。

答 現在の世界の強力な動きは、覚者方の刺激の下で起こっている進展です。確かに覚者はそのようなことを行います。彼はこの惑星の悲惨な状態、解決困難な問題について記

事を書かれます。しかし、いつでも肯定的な調子で文章を終えます。彼は常に記事の最後には「時代の切迫した状況にもかかわらず、また、テロ、飢饉、世界に氾濫する不平等にもかかわらず、世界はこれまでになくキリストを迎える準備ができている」というような希望のメッセージで締めくくります。

二千年前には人々はキリストを迎える準備ができていなかったもので、彼は、わずか三年しか滞在できませんでした。今回、彼は二千五百年間滞在され、世界の変容を鼓舞します。それはまさに非常に興味ある時代でしょう。

すべての記事を取り上げて印をつけて数えるならば、現在起きている進展に、より強い強調が置かれているのが分かるでしょう。大きな変化が現在進行しています。これまでに起きたような変化は通常なら百年はかかりました。しかし今は十年ぐらいで起きています。時にはほとんど一夜にして起きるのです。

一つの例は南ア連邦のアパルトヘイト（人種隔離政策）の終焉です。アパルトヘイトがどのくらい続いたか、それがどんなに制度化されていたか、アメリカでは想像できますか？しかし今では、アメリカのすべての黒人が、特に南部では、必ずしも安全で受け入れられていると感じているわけではありませんが、四十年または五十年前——例えば一九五〇年

代中ごろの恐ろしい時代、つまりマッカーシー時代——と比較してみると、非常に大きな変革が起きています。同様に南ア連邦でも状況は全く異なりました。

出現のタイミング

質問　今はマイトレレーヤが前面に出て来られるには難しい困難な時ではないのですか。

答　これだけ年月を経てもなお、今回「キリストの再臨」というテーマを覚者が選ばれたのは、今やマイトレレーヤが出てきて任務を始める機が熟してきたという意味に違いありません。今はマイトレレーヤにとって大変なひどい時期だと思うかもしれませんが。確かにある意味ではそうです。受け入れる態勢ができていて、マイトレレーヤが話していることに耳を傾け、それを実践することが出来る人々に会うことと、ラジオやテレビに登場して懷疑的な聴衆に話しかけることは、全く別なことです。マイトレレーヤが懷疑的な態度に恐れをなしているということではありません。全くそうではありません。そのようなことはあり得ないでしょう。

質問されるすべてのことへの答えを知っているだけでなく、尋ねている人の心にどんな質問を置いたらよいのかを知っておられるマイトレイヤのような方にとっても、初めのうちは困難かもしれません。インタビュをする人は、尋ねるつもりがなかった質問を思わず尋ねてしまうかもしれません。幾つかの質問事項を書き留めていたにもかかわらず、別の質問を思いつくかもしれません。ですから多分、私たちが予想するほど困難ではないのかもしれませんが。

それでも、非常に多くの異なった国々、多様な社会システム、同じことについても違った受け止め方をする多様な考え方、多様な価値観を持った巨大な世界が相手です。

彼は初め、マイトレイヤとは呼ばれないでしょう。しかし、もしインタビュをする人が賢明な人なら、この人は尋常な人間ではないと思うかもしれません、特に、尋ねるつもりがなかった質問を思わず尋ねたりしたときには。マイトレイヤは、自分が受ける質問への答えを知っておられるのですから。

人はよく、どうなるのだろうかと私に尋ねます。マイトレイヤはこういったすべてのことについて世界に語りかけなければなりません。彼はどのように乗り越えていくのでしょうか。覚者が言われるように、そして私もこれはかなりの的を射ていると思うのですが、長

年にわたって多少なりともこの仕事を続けてきたこの皆さんのようなグループは落胆することになるかもしれません。いずれにしても、マイトレーヤのアプローチが穏やかなこと、強調が足りないこと、あらゆる「切り札」を出す——あなた方が考えるような——機会がなかなか来ないことに多少驚くことになるでしょう。

マイトレーヤはできるだけしばしば自分の姿をメディアの前に現すことに関心を持たれるでしょう。もちろん初めのうちはより困難ですが、マイトレーヤにはマイトレーヤなりのやり方や手段があります。彼の出現はますます頻繁になり、ついには世界中のテレビやラジオで定期的に放送されるようになるでしょう。

質問　マイトレーヤは、今日でも出て来ることができけれども、一般に知られるようになる最良のタイミングを待っておられるということでしょうか。マイトレーヤを引き止めているのは何でしょうか。

答　マイトレーヤは、一般に知られるようになる最良のタイミングを待っておられます。マイトレーヤは、御自分が言わなければならないことが、最も良く、最も早く受け入れられる最良の機会を、タイミングを待っています。

世界には依然として、マイトレーヤや彼のアイディアに全く関わりたくないと思う膨大な数の人々がいます。すべての宗教グループには原理主義者たちがおり、彼らを合わせるに巨大なブロックになります。キリスト教原理主義者たち、イスラム教原理主義者たち、ユダヤ教原理主義者たちのことを考えてみてください。ある程度はヒンズー教徒についても、そして仏教徒についてもさえも言えます。膨大な数の人々であり、彼らは真正面からこのリアリティー（現実）に向き合わなければなりません。彼らは初めのうち、マイトレーヤをキリストやイマム・マディーとは見なさないでしょう。

最良のタイミンは、経済制度が崩壊することによって西欧社会が経済的に挫折し、初めて現実が目覚める時です。私たちは非常に長い間、非現実的な世界で生きてきました。今までと全く同じように、今後も古いやり方を続けていくことができるものと、私たちも、私たちのリーダーたちも考えています。もっと競争し、もっと貪欲に、同じようなやり方で、今後もうまくいき、勝利するだろうと考えています。もはやそうはいかないでしょう。世界人口の三分の二が貧困状態で生活しているとすれば、経済システムはうまく機能していません。貧しい人たちにとって経済システムがうまく機能するよう努力しなくても、彼らはやっていけるだろうと考えるとしたら、全く現実を目をつぶっていることになりま

す。マイトレーヤはそのことを明らかにさせるでしょう。

近い将来、経済機構が崩壊し、欧米で株式市場が破綻すれば、マイトレーヤは直ちに出現されるでしょう。それによって私たちは現実に戻されるでしょう。それが、つまり崩壊によって生じる現実感覚が、マイトレーヤが待っておられる要素の一つです。現状の経済制度ではうまくいかなことが分かるでしょう。私たちはそれがうまくいっていると思っていました。一部の人たちにとってはうまくいっているように見えました。しかし、私たちの自己満足ゆえに、その経済システムから取り残されている人たちのことを考えようとさえしませんでした。マイトレーヤの主な任務の一つは、このような自己満足に冷水を浴びせ、自己満足に浸っているのは非常に居心地が悪いと思わせることです。

私の会合にやって来たある人はこう言ったのを覚えています。「これは希望のメッセージだと思っていました、気分は最悪です。とても不愉快に感じます。とても後ろめたく恐ろしく感じます」。私は「それは実にいいことです。それがいわゆる愛なのです」と言いました。

そのような自己満足を切り抜けていかなければなりません。もし人々が「ああ、素晴らしい」と感じていたいと思うだけなら、世界は変化しません。キリストは世に出ておられ、

しかもお一人ではないということ、世界は変化を受け入れる準備ができており、実際に変化していくのだということを、人々が知ることが大事です。良い気分でいたいと思うだけなら、世界を助けることにはなりません。なぜなら、そのような人たちは世界で実際に現実に働くことをしていないからです。

質問 マイトレーヤはまだ株式市場の崩壊を待っておられますか。

答 確かに、マイトレーヤはまだ株式市場の崩壊を待っておられますが、もし政治的な事件が十分に危機的であれば、株式市場が崩壊しようとしまいと出て来られるでしょう——もしマイトレーヤが、御自分の（公の）臨在と御自分が言わなければならないことが世界の政治情勢に重大な影響を及ぼすと判断されたとしたら、そうされるでしょう。

質問 株式市場の崩壊前にマイトレーヤが出て来られるという状況はありますか。

答 マイトレーヤを前面に出て来させるような危機はたくさんありますが、彼は「法」（カルマの法則）を知っており、その法に忠実に従おうとされるのは確かです。しかし同時に、法を操作する方法も知っておられます。法の範囲内で法をどの程度操作することがで

きるかを知っておられます。彼はカルマの法則について話されるでしょう。その法則については誰よりも、カルマの法則の詳細を知っていると思える覚者方の誰よりもよくご存じであり、理解しておられます。

もし、世界の平和が脅かされるようなことが起これば、マイトレーヤは株式市場の崩壊を待たずに行動し、前面に出て来られるでしょう。それは非常に危険な状況でなければなりません、その時ですら、彼の行動はカルマの法則を犯してはならないでしょう。彼はこうした微妙な判断を、宇宙的なレベルの判断を下さなければなりません。彼は宇宙的なエネルギーを扱っているからです。

それは単純で一直線の選択肢ではありません。彼が行うことは何でも、多くの宇宙的な可能性を、その行為に資する可能性を、その行為を実行すれば害が生じる可能性を考慮に入れなければなりません。彼は常に大変繊細で微妙な判断を下さなければなりません。彼の仕事は全く単純ではありません。それゆえに私は状況の複雑さを説明しようとしているのです。

世界が本当の危機に瀕した場合、核兵器の使用も含む世界規模の大災厄の可能性が生じた場合、彼は行動することができるようでしょう。私が理解する限りでは、彼はそのプロセス

を打ち破るエネルギーを呼び起こすでしょう。あるいは、全く違ったことかもしれませんが。覚者方が力を用いるということではなく、カルマの大主たちに何かを行うよう促すことかもしれません。それも一つの可能性です。しかしそれをあまり強く考えないようにしてください。

可能なことや不可能なことがいろいろありますが、覚者方に関しては、不可能なことはいないと言えます。物事は常に実現可能だと考えることができます。彼らはとてつもなく強力であり、マイトレイヤというアバターがどれほど強力な存在かを分かっている人はいないと思います。彼はこの惑星上で、かつて一度も行使されたことがないような様々なエネルギーを行使しています。

彼は途方もなく強力な存在ですが、その力を使用するに際しては、法の範囲内で働かなければなりません。

質問 第三次世界大戦が差し迫っているのですか。中東の紛争がそれに関係しますか。

答 いいえ、そうではありません。第三次世界大戦が避けられなくなるほど状況が「熱く」なればマイトレイヤが介入なさるでしょう。現在（二〇〇六年八月現在）の状況は非常に

”熱い”ですが。

しかし彼が介入する必要がある方が望ましいのです。なぜならそれは、人類の自由意志の侵害になりますから。しかし、必要となれば、彼は介入するでしょう。その場合、彼が人類に与えることができるものはしばらく制限されることになり、私たちのカルマがそれを許すまで与えられないことになるでしょう。マイトレーヤが、もし第三次世界大戦を防ぐために、いわばそのカルマ的恩恵を用いるようになれば、それは彼がそうでなければもっと人類のためにできることを行うことが妨げられることになるでしょう。

覚者方は、より広い見解をお持ちであり、次第に物事は明らかに、平和が確立されることを知っておられます。マイトレーヤが言われるように、彼らは、終わりは最初から知られていることをご存じです。恐れてはいけません。しかしそれは私たちが無為であることを意味しません。それが重要な点です。

人類は行動するように鼓舞されなければなりません。マイトレーヤは言われます。「何事もひとりで起こらない。人は行動し、自らの意志を実行しなければならぬ」。理想主義に満ちた人々は、何事かを想像すれば、それはすでに存在するかのようを考えます。神が完全であると知っていれば、それで世界は完全であると考えます。それは愚かなことです。

成熟した大人の思考ではありません。もっと大人になり、世界の病に直面し、それについて何かをしなさい。自分たちの意志を実行するために行動しなければなりません。平和、正義、分かち合い、正しい関係を欲するなら、それを実践しなければなりません。あなたがそれを欲することを知らせなさい。それを達成するために適切な人々を選びなさい。行動するのです。活動的にならなさい。そうでなければ、空想の中に生きているのと同じです。

今は歴史上、他に類のない時代です。二度と繰り返されることはないでしょう。ハイアラキーの覚者方が九万八千年ぶりに世界に帰還してくるのです。彼らのために働く機会があり、マイトレーヤの仕事が容易にし、道を照らし、彼がここにいることを世界に知らせることができのです。マイトレーヤが公に出て来るまで待っているではありません。耳を傾けるすべての人々に、彼が日常世界におられることを、彼の計画を、彼の優先順位——正しい関係、分かち合い、正義、平和——について伝えなさい。この惑星を世話することが第一の優先事項です。私のような人間の言うことをただ聞いているのではなく、これをあなた自身の優先事項としなければなりません。

私たちが皆が行動し、今世界で起こっていること、今は最も驚くべき時代であり、世界の

歴史上このような時はなかったことを伝えなければなりません。この時代に生きていることは途方もない祝福なのです。

世界のあらゆる苦痛や苦難にもかかわらず、人類にとっての途方もない機会は間近に迫っています。

質問　マイトレーヤがすぐにやって来られるというのは、テレビでのインタビューのことを言っておられるのですか。

答　やって来られると私が言うとき、そのとおり、アメリカのテレビでのインタビューが最初になるでしょう。この講話は、覚者がしばしば言ってこられたように、マイトレーヤの出現がすぐに起こるということを示唆していると考えていただいても結構です。すぐに、とは結局どういう意味か、もうお分かりですよ。それは本当にもうすぐなのです。たぶん、あなた方が期待する以上に早いでしょう。この活動を続けていくにつれて、マイトレーヤが出て来られるにつれて、この活動は楽になると思いますか？「今」が楽な時なのです。今後はその反対になっていくでしょう。あなた方は非常に行動的になり、議論に巻き込まれ、あらゆる対立を感じるでしょう。

質問 マイトレーヤのメッセージはアフリカに伝わりますか。

答 マイトレーヤはロンドンの様々なヒンズー教の寺院で暮らしています。彼はモスクや教会にも行かれますが、寺院で暮らしています。何年かある寺院で暮らし、別の寺院でまた何年か暮らします。それらの寺院にいる間に、彼は寺院のスワミ（僧侶・学者）たちに世界の変容についての彼のアイディアを教えます。そして彼らを世界に送り出します。彼らは世界中に行き、自分たちの体験の一部を人々に話し、マイトレーヤの教えを伝えていきます。そうやってマイトレーヤの教えはスワミたちを通して伝わっています。彼らは非常に教養のある、知的な人々であり、ヒンズー教の伝統の中で育っています。これは常に行われています。多くはアジアやアフリカの一部へ、ヒンズー教徒の多い社会で寺院にスワミを必要としている地域に行きます。

霊的危機

質問 人々が彼らの経験に応じて受け入れることができるように、このメッセージを組

み立てる必要があるとあなたは言われます。一般大衆の草の根活動家によく見られる恐怖心に基づいたアプローチの代わりに、人々の魂に触れるようなやり方でもっと具体的にアプローチするにはどうすればよいでしょうか。

答 キリスト・マイトレーヤと覚者方の再臨についての話を伝えるとき、人々の魂に触れずに、その人の魂の体験や直観を呼び起こすことなしに、話をすることは不可能です。試行錯誤が必要です。失敗も成功もするでしょう。あなた自身が魂として働くことに努め、魂の観点から物事を見ようと努めるならば、それは物事を神秘的な見方で見ることは違ひます。魂は神秘的ではありません。それはほとんどの人々にとっては大きな神秘（謎）ですが、神秘的なアイデアではありません。

人々は、魂として物事にアプローチすることを考えるとき、それはとても高度で、神秘的な響きのするアプローチだと考えがちです。そうではありません。このメッセージを伝える上で、あなたは私と同じくらい実際的であることができるし、そうあるべきです。

私の講演会に来て、こう言う人々がいます。「キリストの再臨についての話だと思っていますが、政治と経済の話ばかりですね」。それは両方です。政治と経済は霊的なアイディアです。

現在の世界の危機は霊的な危機です。それは『存在 (Being)』の危機です。人類は自分が誰か、何か、どこから来てどこへ行くのかを知りません。それは全世界にとって霊的な危機です。その霊的な危機が、今日は政治と経済の分野を通して集中しているのです。

西洋に住む私たちが全く関心を欠いているのはそのためです。西洋の倉庫で腐っている食糧を欠くために、アジアやアフリカで何百万もの人々が死んでいるのを知りながら、私たちはその事実に甘んじています。それが霊的リアリティー (現実) です。それに甘んじていられること自体が霊的な過ちなのです。それは単に常識の間違いとか配分や帳簿の間違いで、方程式から彼らが外れていて、食糧がそこに届かないというような話ではありません。そういう過ちではなく、私たちの中に霊的な欠如があることの結果です。

私たちは自分が考えているような人間ではありません。自分が賢明であり、知的であり、誰にでも恩恵があるようなやり方で自分たちの生活や国の生活を運営できると思っています。それは事実ではありません。あなたは賢く知的かもしれませんが。良いアイデアを持っているかもしれませんが。最高の意図を持っているかもしれませんが。しかし、真の意味で、実質的な意味で、霊的でないならば、あなたはこれらの特質、賢明さ、知性、思考を他の人々のために使うことができません。あなたは自己満足するでしょう。こう考えるでしょ

う。「私は大丈夫だ、ここで結構うまくやってきたのだ。この国の何が悪いというのだ？ この国は偉大だ。成り上がり者に教訓を学ばせるために、時々戦争をしなければならぬが、それ以外は、われわれは善良だ」——そしてあなたが世界の一部に過ぎないことを忘れていきます。

霊的であることが真に意味するのは、世界を全体として受け入れ、世界的な観点で物事を考えることです。とりわけ現在、このことが必要とされています。すべての政府は、教育を受けた大衆の圧力の下で、幅広い見解を持ち、単に居心地の良い、友好な、一対一の人間関係という意味だけではなく、政治経済的な意味で正しい人間関係を持つことの必要性を知るようになるべきです。

もちろん、それはどちらか一方という話ではありません。居心地の良い、友好的な、一対一の人間関係は当然必要です。しかし、英国、フランス、アメリカ、日本、その他の先進国はすべて、アフリカやインドの人々に対しても、すなわち一日一ドル以下で苦難している世界の五分の一を占める人々に対しても、当然のこととして同じ感情を持つべきです。世界で十三億の人々が一日一ドルで生活しているのです。そのうちの何百万の人々が毎日、毎時間、毎瞬、飢餓で死んでいるのです。信じ難いことです。

それが起こるのを許していること自体が霊的危機なのです。私たちはそれを単に政治的、経済的な観点からのみ考えがちです。しかし経済と政治のリアリティーは霊的危機なのです。それを核心から見なければなりません。核心は間違った人間関係です。私たちは人類がひとつであるという事実を知らないか、あるいはそのことを全く強調しません。

ひとつの人類、人類と呼ばれるひとつのグループ、人間王国が存在するだけです。それは唯一の王国でもなく、最も重要な王国でもありません。私たちはその一部分を、つまり先進世界のみを重要な人間王国の重要な部分として考えます。

覚者方の観点からは、人間王国は他の幾つもの王国の中の一つの王国にすぎず、重要ではあるが、しかし地球という惑星の進化の一部です。そして地球という惑星も太陽系の進化の一部であり、それがより高位のレベルにも続いています。その中に切れ目はありません。途中で切れ目をつくってこう言うことはできません。「ここで止めよう。ここはアメリカだ。アメリカのことだけを考えよう」。これがアメリカのしがちなことです。アメリカのことだけを考えます。英国も、英国の利益だけを考えます。「それを行うことは、英国の、あるいはアメリカの、フランスの、イタリアの、日本の、ロシアの利益になるのか？」とそれぞれが考えます。

私たちは常に世界の利益ではなく、特定の場所の利益について考えます。しかし、アメリカやロシア、英国の特殊な利益というものはありません。世界の利益、人類の利益があるだけです。そしてそれらが解決されない限り、世界には人類は存続しないでしょう。そのことを理解しなければなりません。

それが魂の語ることです。魂はどのように世界を見ます。人々がそれを知れば、「そうだ、あなたが正しい」と言います。なぜなら彼らの魂が、それは正しいと告げるからです。彼らはそれを魂として見ます。魂として見るのでなければ、それを霊的な危機として見ることがせず、単に経済的、政治的な危機として見なします。確かに政治的、経済的危機ですが、それらは霊的な危機が集中している分野なのです。

質問 自己満足の仕組みについてもっと話していただけますか。

答 自己満足の仕組みは習慣です。あなたは、その外観があまりにも物質的なために自己満足がその必然的な結果であるような国に、生まれ育っています。学校やメディアによって、アメリカがあなたの視野の限界であり、想像力や世界観の限界であるように教育されています。それはアメリカがあまりにも巨大だからです。ここには、毎日アメリカで起

こつた事柄があなたの意識の最前線に置かれるようにする強力なメディアがあります。あなた方は学校で、毎日国旗に向かって敬礼するように育てられています。これはどの国でも起こることではありません。他の国では国旗を多くの学校の生徒に敬礼させたりはしないでしょう。彼らはあなた方を愚かだと思うでしょう。それでもあなた方は、それを当然のこととして受け入れます。またアメリカは他の国々と比べてあまりにも豊かなので、その物質主義的環境の中で、自分は大丈夫だ、海外のことについて考えなくてもよいという気持ちに容易になってしまいます。アメリカは若い国なので、人は自分の足で立ち、自分でどんな人生をもつくれると信じます。それには多くの真理がありますが、極端になると、自己満足感につながり、世界の平和を脅かします。

アメリカは開拓者の国です（でした）。それはヨーロッパ（ちょっと海を渡った場所）——英国、フランス、オランダ、ドイツ、スカンジナビア、スペイン——の一部と世界の他の場所からの他の人々を一緒にしています。アフリカ人は奴隷として連れて来られました。そして独特の混血が生まれました、しかしそれはハイアラキーの計画です。あなた方は皆キリストの再臨とは全く別の目的のためにここにいるのです。

あなた方がここにいるのは、三つの大きな実験が世界で行われているためです——一つ

はここアメリカで、一つはロシアで、そして一つは英国です。この国で行われている実験は、これらの人々、世界中の人々ではなく、主にヨーロッパの人々を一緒にすることです。少しの例外を除いて、彼らはこの巨大な人種のつぼに連れて来られ、融合することを許され、いろいろな混血ができました。最初は半分スウェーデン人で半分スコットランド人だったかもしれませんが、二、三代すると一部はスウェーデン人、一部はスコットランド人、一部はイラン人、ハンガリー人等々になります。それは混血で、巨大な人種のつぼです。この混合の中から、他の何者とも異なるアメリカ人という独特の人種が生まれるでしょう。

ロシアには別の計画があります。そこでの計画は、諸国家のグループを一緒にすることです。ロシアはアメリカよりもさらに巨大で、世界の面積の六分の一を占めます。私たちが知っているロシアというものがあります。モスクワから、飛行機で見ることのできるすべての場所、国から国へ行けるだけ東へ行ったところまで、ウクライナやあらゆる国々に至る南まで、これらすべての場所が、崩壊する前のロシアの一部でした。それぞれが今では独立国となり、連邦国家の一部となっています。その連邦では、これらすべての異なる民族が、徐々に、調和のうちに共に暮らすようになるでしょう。アメリカのように相互

に融合することを求めないでしょう。

英国でも同じことが起こっています。かつて世界中を植民地にしていた英国連邦は、今では独立した国々として世界を覆っています。連邦諸国には巨大な人口がいます。南アメリカ、東と西のアフリカ諸国、西インドのあらゆる国家、北アメリカと南アメリカの数カ国、そしてインド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカです。香港は中国に返還されましたが、常にそうであったように、香港から人々は英国に来ています。

英国には世界中からの人々の大きな集団があります。ある町に行くと、インドにいるような感じがします。あらゆる店、あらゆるレストランはインド風で、とても色彩豊かです。隣の町に行けば全く異なった雰囲気で、英国風です。

これは意図的な世界の民族の混合ですが、融合ではなく、インド人、パキスタン人、アフリカ人が、自分自身のまま、隔離されることなく、はっきりと分かれたグループとして、共に暮らすということです。自分自身の宗教、伝統を保ち、店やカフェやレストランを開き、調和の中で暮らすことです。現在は純粋な調和はありません。目標は、これらの世界の大部分の代表者たちすべてが共に暮らし、調和の中で共に生きることを学ぶことです。マイトレーヤは英国におられるので、おそらくそれが起こるのはより容易でしょう。

これら三つの実験はすべて民族のグループに関わっています。一つはここアメリカのよ
うな混血です。これがアメリカの問題が存在する理由の一つです。アメリカでのように、
多様な民族が大量に一緒になれば、結果的に問題が生じます。しかし徐々に混合が進み、
かき混ぜることが進むでしょう。アメリカにおられる覚者方がかき混ぜています。

これは非常に興味深い実験です。このことを知れば、様々な国における社会生活につい
て、人々の外観についてさえも、多くの問題に答えることができるでしょう。

自由意志

質問 あなたは、マイトレーヤや覚者方と接触し、マイトレーヤによって準備された
様々な分野の指導者について語りました。現在の状況の中でなぜ彼らの仕事はもっと明ら
かになっていないのでしょうか。

答 明らかにっていないというのは本当でしょうか。あなたはどれほど明らかになる
ことを期待しているのですか。あなたはどの分野を調べましたか。あなたが何を期待して

いるのか分かりません。マイトレーヤが世界におり、なぜここにおられるのかについて、私たちが知っているように知っている人々は世界中にいます。彼の到来についてのすべての秘教的背景を知らないかもしれませんが、偉大な教師が世界におり、その人物は、彼らの見方からすれば、キリストであるかもしれないと思っています。その人物は、人類が変化することの必要について、その方向性について明瞭なアイディアを持っているということを知っており、その変化の方向性に影響を与える上で、彼らが役に立つことを知っています。彼らはそれを知っていますが、新聞や雑誌に書くということはありません。彼らがフランスやドイツやオランダにいるとは限りません。南米にいるかもしれません。事実、南米にいます。中国にいるかもしれません。事実、中国とロシアにいます。

ヨーロッパにいる私たちは、重要なことはすべてヨーロッパに起こるかと考えがちです。アメリカ人は、アメリカですべてのことが起こると思っています。もちろんそうではありません。幾つかの事は——最も悪いことや良いことの幾つかは——確かにアメリカとヨーロッパに起こりますが、人類にとって価値あることの多く、あなたが明らかでないという物事の多くは、実際にはますます高位のレベルで、南米の幾つかの国々、中国、ロシアにおいて明らかになっています。これらのあらゆる分野で変化への承認があり、古い共産主義

革命の指導者のようなスタイルではなく、新しいタイプの左翼、民衆と関わる民主的な指導者が南米の幾つかの国や世界の他の地域で前面に出てきています。これは、古い、今や死滅しつつあるソビエト集団の寡頭政治よりも、より健全な方法です。民主主義は現実であり、覚者方の好む社会生活の様式です。

覚者方は、正確には民主的に働きません。ハイアラキーは、その名前が示すとおり、階層組織です。彼らは極めてオープンに、例えばマイトレーヤが他の覚者方よりも多くのことをご存じであることを認めます。なぜならマイトレーヤは他の覚者たちより進化しており、年長であり、彼の側近くの弟子たちが、たとえ第六段階のイニシエートであっても持っている宇宙の側面についての認識を持つておられるからです。それは階層組織（ハイアラキー）であり、より進化した者がより広くより深い知識と智慧を備えていることを、意識そのものの性質から、当然のこととして受け入れています。しかしながら、それぞれの覚者が一定の仕事を担い、彼自身の意識からそれを世界で効果的なものにする限りにおいて、彼らは民主的に働きます。各々の覚者は彼自身の仕事や教えの分野に責任を持ち、あらゆるアイディアが議論され評価されるハイアラキーの合同会議で、彼の見解を主張する民主的な権利を持ちます。

私たちはハイアラキー的な人生観を受け入れ、人々の間にある差を受け入れることを難しく感じます。例えば、オランダ、スウェーデン、ノルウェーのような、非常に民主的な国々は、ハイアラキーというものが存在し、覚者（マスタ^{*}）なる人々が存在するというアイディアを非常に嫌悪します。彼らは、覚者方が私たちに何をすべきかを命じるのだと思うのです。私が長年苦勞して伝えているように、覚者方は私たちに何をすべきかを命じるためにここに在るわけでは全くありません。覚者方はただ助言なさるだけであり、行動の「結果」を明らかにするという意味で教えるにすぎません。私たちがある行動を取れば、一定の結果が必然的に生じ、別の行動を取れば、全く異なった、おそらく好ましい結果が生じるということを教え、そして彼らは私たちに選択を委ねます。私たちが賢明であれば彼らの助言を受け入れるでしょう。彼らは私たちが取ることのできる様々な行動の結果に光を当ててくださいます。それは意思決定をする上で途方もないボーナスです。もし「覚者」とか「教師」とか「指導者」とかがいてくださって、これをするとかのようなことが起こり、あれをすると全く別のことが起こると告げてくださるならば、私たちはどちらの道に行きたいかを知ることができます。それは私たちの欲するところです。私たちには自由意志があります。この事実をいくら強調しても強調しきれません。

私たちは自由意志とは何かを本当には理解していません。私たちはかなり表面的にそれを理解しており、自由意志がどれほど深い特質を持ち、なぜ覚者方が私たちの自由意志を侵すことができないかを真に理解していません。自由意志は進化を可能にする本質的な要素です。自由意志がなければ、私たちは進化しないでしょう。覚者方は進化の大計画を担っているのです、進化に関与しており、人間の進化もその一部です。もし彼らが、進化を可能にするための根本である私たちの自由意志を侵害したら、それは彼ら自身の行動を止めて、人類の全進化を止めるでしょう。ですからそれは絶対に起こらないでしょう。私たちは自由意志がどれほど重要なものかを認識しなければならず、間違ったことをしているのを知りながらそれ（自由意志）に固執してはなりません。

誰かが、例えば教師がやって来て、彼は答えを知っており、同じ場所を歩いたことがあり、あることをすればあることが起こると知っていて、そのことをあなたに告げるとします。もしそれをあなたの大切な自由意志の侵害と受け取るならば、あなたはその特質から恩恵を得ることはできません。

私は、覚者方が公に活動するときでさえ、彼らが世界に存在するという事実を受け入れないだろう人々を知っています。彼らはハイアラキーの指導を受け入れないでしょう。な

ぜなら彼らは民主主義者であり、自分が民主主義者であるという自分の権利に対する監視と感ずるものは、いかなる種類のハイアラキーの監督も受け入れないからです。それは民主主義への固執です。彼らは民主主義を、正當にも、社会生活における非常に高度な重要性を持つものと見なし、それを神格化したのです。それをイデオロギー化し、その周りに壁をつくってしまったので、彼らは成長できません。彼らは彼らの民主主義よりも高度ないかなるものも受け入れることができないのです。

彼らはただの人間であり、限界があります。すべての人間がそうであるように、彼らの進化段階による限界があります。世界の政府の、知的な政治家たちの平均的な進化段階がどれくらいか私は知りませんが、おそらく一・四あるいは一・三五段階くらいでしょう。それでは十分ではありません。彼らはアストラルレベルで働いています。彼らはメンタル偏極していません。ですから客観的な決断ができず、世界に混乱をもたらします。

マイトレーヤや覚者方が訓練している人々は、より高度なレベルから働く人々であり、一・五段階かそれより上であり、そしておそらく第二段階のイニシエートも少数はいるでしょう。彼らはより客観的に物事を見ることができます。狂信的で彼ら自身の特別なイデオロギーの中に浸っている人々もいるかもしれませんが、それでも全体についてのより大き

な感覚を持つでしょう。彼らは、たとえキリスト教の狂信者やイスラム教の狂信者であったとしても、重要な物事についてより大きな寛容さを持つでしょう。

＊Ⅱ マスターという英語には、師匠とか主しゅという意味の他に、召使との対照の意味の主人とか主君、支配者という意味も含まれる。"マスター・オブ・ウイズダム (Master of Wisdom)" の直訳は "叡知の大家" であり、ここでは覺者と訳している。

＊＊Ⅱ 通常の意識の働く座がアストラル体より上位のメンタル体にある場合を指し、進化段階の16くらいから徐々にメンタル偏極に移りはじめる。

諸国家——民衆と彼らの指導者

質問 ドイツのような国が、半世紀もしないうちに、ヒトラーのような邪惡な指導者から、ウィリー・ブランドのような指導者を選ぶまでになったことを興味深く思います。ブランド氏は、将来に向けたモデルとなる経済政策の開発のための真の合意をつくり上げた委員会を率いた人物です。これは、人類が一方の極端から別の極端に肯定的な方向で変わ

ることができるといふことの実例でしょうか。

答 確かにそれは例ですが、あなたが示唆したような意味の実例になるかどうかは分かりません。ヒトラーがいて、それからそう遠くない時期にウィリー・ブランドが出て来たというのは途方もないことです。ブランドは選挙で選ばれたのです。ヒトラーは正當に選ばれたではありません。それは操作された選挙であり、彼は民衆によつて選ばれたのではなくありません。さらに、ウィリー・ブランドは第三段階のインシエートであり、マイトレーヤに要請されてブランド報告書を作成したのです。ウィリー・ブランドは民主的なプロセスで選ばれた指導者であり、民主主義者でした。彼は引退の必要がないのに引退しました。彼の部下に完全なオーブンさを欠いた行動があつたために、彼が責任を負つたのです。それはヨーロッパにとつて大きな損失であり、世界にとつて眞の損失でした。

彼は、マイトレーヤが世界にやつて来られたすぐ後に、マイトレーヤからの接触を受けました。マイトレーヤは一九七七年七月にロンドンに入られ、一九七七年十一月にウィリー・ブランドと接触したのです。マイトレーヤは、彼に対して、経済学者の委員会を組織することを、あらゆる見解、極端な左翼から極端な右翼まで、可能な限り多くの国の著名な男女で構成するよう示唆しました。彼はこの委員会を組織し、合意によつて『ブランド

『委員会報告書』を作り上げたのです。報告書が勧告したのは、資源の分かち合いと経済制度の再構築以外の何ものでもありませんでした——途方もない業績です。ウィリー・ブランドがドイツで権力の座に留まらなかったのは大きな損失です。

興味深いのは、ヒトラーはドイツを一九三三年から戦争の終わる一九四五年まで支配したということです。彼は、交互に働いたブラック・ロッジ（私たちが悪の源として知っているもの）の二人のメンバーの力（パワー）のゆえに、あのような支配が可能になったのです。彼らは文字通りヒトラーの肉体を乗っ取り、その期間中、彼に憑依しました。その悪はドイツ自体の悪ではありませんでしたが、しかし他の国では明らかにそういうことは起こらなかったでしょう。フランスでもイギリスでもオランダでも起こりませんでした。最初に、ムッソリーニのイタリアで起こりました。そのために枢軸国が一緒になったのです。ヒトラー、ムッソリーニ、そして日本の軍国主義者でトライアングル（三角組）が構成されました。そのトライアングルを通してエネルギーが流され、闇（悪）のフォース（勢力）によって強化されました。ブラック・ロッジの大主たちはホワイト・ロッジ（われわれの霊ハイアラキー）の覚者方と同じように、この科学を知っています。彼らは違った目的でエネルギーを利用するだけです。

“国家”としてのドイツは非常に若く、若いゆえに、その国民は人生への反応において高度にアストラル的です。アメリカや他の多くの国々もそうです。ドイツがもつと古い国であったなら、ヒトラーが台頭してくることは許されなかったでしょう。私はそうならなかっただろうと言っているのではなく、そうならなかったかもしれないと言っているのです。国家の未熟さは、このような人物が台頭し、権力を握る機会を与えます。より長い確立された制度を持ち、均衡と抑制が働いていれば、同じような状況になる恐れは低いです。

ヒトラーとウィリー・ブランツの間に、この質問で示されたような関係があるとは思いません。なぜならそれは、その国の準備の度合いと特定の人物の出現に関係しているからです。もし国に何かをする準備ができていれば、それを行う人物は登場します。オカルトの事実は、歴史のあらゆる時代において、その時代の問題に対処できる魂が転生してくるということです。そのような魂（人々）が転生し、訓練を受け、問題に応える準備をして、人類を着実に前進させます。

覚者方の観点からは、人類の発達はかなり着実に進んでいます。私たちはそれを山あり谷ありとして見ます。覚者方にとっては、一九一四年から一九四五年までの戦争は一つの大きな戦争であり、それによって覚者方が世界に戻ることが可能になりました。マイトレ

「ヤは彼の到来を一九四五年に発表しました。悪のフォース（勢力）、つまり覚者方が「物質性の大主方」と呼ばれるものが敗北したからです。物質性の大主方の敗北のために、ハリアラキーは予定を早めて物質界での活動を再開できるようになったのです。

質問 マイトレーヤはどうやってウィリー・ブランドに現れたのですか。彼はマイトレーヤの正体に気づいていたのですか。

答 はい、彼はマイトレーヤの正体を知っており、その仕事をしたのです。彼は第三段階のイニシエートであり、何が起きているかを知っていました。

質問 問題に関して行動するかどうかを決定する国家の指導者と民衆の組み合わせというものが常に存在するのですか。潜在的に指導者は存在したが、彼らのアイディアを実行するのに必要な民衆の特質を欠いていた、その逆に、民衆が指導者を持たなかったりということもあるのですか。

答 そのようなものではありませんが、指導者がいても民主的な政府を支える基盤を欠くことはしばしばあります。指導者が存在しても、国が若く、政治的な成熟性や認識が十

分でないことはあります。そうすると指導者は、ナポレオンのような独裁者になります。彼はヨーロッパを変容させ、それまでに存在しなかった諸国家をつくりました。

“自由”というアメリカの神話

質問 世界はアメリカの魂が顕現するのを待っているとおあなたは言われました。この顕現はアメリカのイニシエートを通してのみ起こるのですか、それとも近い将来、大衆から起こるのでしょうか。

答 それはイニシエートを通して起こります。国家の魂は常にその国のイニシエートを通して表されます。大衆からは、パースナリティーの表現が表されます。アメリカの国のパースナリティーの表現は第六光線の抽象的理想主義と献身です。アメリカ人は本当に彼ら自身の理想に献身します。自由の理想がおそらく最大の理想であり、少なくとも最もよく耳にする理想でしょう。正義についてはあまり耳にしません。なぜなら正義というアイディアは、アメリカの大衆の意識に浸透していないからです。

私の考えでは、アメリカは自由の概念を、自由を超越した水準にまで高めました。それはどんな状況でも、制約なしに、何でも好きなことをする自由です。通常のアメリカ人を見わたすと、この強力な第六光線の特質を見るでしょう。自分のやり方を貫くために、あらゆる障害を押しのかます。その人にとっては、それは間違ったやり方ではなく、理想的なやり方であり、それが自由なのです。

アメリカの大統領は、アメリカの自由がイラクと呼ばれる小さな国家によって脅かされていると言いました。イラクは大量破壊兵器を持っていませんでした。イラクがどうやってアメリカを脅かすというのですか。すべて馬鹿げたことです。なぜこれほど多くのアメリカ人が、イラクが大量破壊兵器を持っていないのに、それがアメリカへの脅威であるという政府の主張に騙されるのか私には理解できません。イラクは決してアメリカへの脅威ではありませんでした。クウェートに対する脅威ではあるかもしれないし、確かにクルド人にとっては脅威でしょう。私は疑わしいと思いますが、イランにとっても脅威かもしれません。イラクがその気になれば、シリアにとつての脅威にもなり得るでしょう。シリアはおそらくイラクが真に脅威となる唯一の国でしょう。イラクと国境を接していますから、それは非常に容易なことです。シリアは大量破壊兵器を持っていません。イラクがアメリ

力の脅威であると信じているアメリカ人は、無意味なことを信じているのです。ブレア首相が英国国民と労働党の約三分の一の人々に対して、英国はイラクによって脅かされていると説得するのもまた、全くばかげたことです。本当ではありません。

「自由」はあまりにも高められたので、もはや自由とは言えないところまで来しました。自由は人間に不可欠な必要の一つです。自由がなければ、真の人生はありません。それは偉大で神聖な特質ですが、正義もまたそうです。正義なしに自由はあり得ず、自由なしに正義はありません。

アメリカ人の自由が“神話”であるというのは、アメリカの一般大衆が、彼らが自由と呼ぶものを信じてはいるが、正義を信じていないという事実に基づいています。私は、アメリカ人のマインドの中では、正義と法律制度が同視されていることに気づきました。あなた方は合法性に非常に関心を持ちます。司法制度はアメリカにおいて非常に発達しています。しかしそれは、法的正義を除けば、正義とは関係がありません。正義とはまた別のものです。正義とは正しい関係に関するものであり、自由もまた正しい関係に関するものです。一方なしに他方はあり得ません。

アメリカのパーソナリティーを構成する一般大衆は、何とかして自由をすべての国民に

とつての優先的な必要と見なそうとし、正義はほとんど存在しないほど後退させられています。この国には二億七千五百万の人々がいますが、四千四百万人が何の医療保証も受けていません。これは信じ難いことです。人口のこれだけ大きな割合の人々が、医者に行くことができず、必要なときに齒医者に行くお金がなく、病気になることを恐れています。なぜなら仕事を休まねばならず、医者に払うお金がないからです。それは嫌悪すべきことです。

このために、マイトレーヤは優先事項の中で、十分な食糧、住居、医療、教育について述べられたのです。これらはすべての人々にとって、当然のものとして、人間の権利として不可欠なものです。国連憲章の中にも書かれています。その大部分はフランクリン・D・ルーズベルト大統領が書いたものです。あなた方はこれを知っていますが、アメリカ人の思考の中に正義の概念に対する強調は全くありません。平等が意味するものを知っています。それを好まないのです。彼らはそれを共産主義、社会主義と呼びます。

マイトレーヤは、どんな国家も一つの車輪で動くことはできないと言われます。国家を一つの馬車とすれば、それには二つの車輪がなければなりません。さもなければ進まないでしょう。社会主義という車輪だけでは動きません。馬車、つまり政治経済構造を適切に

機能させる唯一のものは、社会主義の最良のものと資本主義の最良のものを持つことです。覚者方は、七十パーセントの社会主義と三十パーセントの資本主義が最良の割合であると言われます。

質問 誰もテロの大義について語らないのはなぜですか。

答 理解していないからであり、恐れているからです。なぜなら、テロリズムの背後にさえ大義名分があるのだと考えることは、かなり洗練された見解だからです。人々はテロを恐れており、とりわけアメリカでは、世界貿易センターへの九月十一日の攻撃以来そうです。アメリカ人は心理的に骨の髄まで衝撃を受けました。それは第二次世界大戦以来、他のあらゆる行為よりもアメリカの思考と感情を変えました。これはテロ攻撃であり、テロに対する防御を固めて、それが何であろうと次の手段を講じなければならないという姿勢ではなく、あたかもなにか恐ろしい、全く耐え難いもの、彼らの優越性、無敵性が侮辱されたかのような反応でした。アフガニスタンに復讐しましたが、彼らはテロリストではありませんでした。イラクの人々もテロリストではなく、十年間他の国を侵略したことはありませんでした（十年前には、アメリカではなくイラクの隣国を侵略したのです）。

テロリズムにも大義名分があるという考えを理解するのはとても難しいことです。それは世界に広まっている不正義（正義・公正さの欠如）に関することです。それはアメリカ人にとっては特に難しい考え方です。そして他の国々にとっても、正義は自由と同じくらい現実的で重要であるということを考慮するのは困難です。

質問 アメリカには第三段階と第四段階のイニシエートが何人いますか。

答 答を得ることはできませんが、それには答えません。またアメリカを強調することになるからです。あなた方はアメリカをいくらか忘れるようにしなければなりません。あなた方はアメリカを自分自身の延長だと思っています。私たちの真の延長は世界です。

世界には八十六万五千人の第一段階のイニシエートがあり、二十五万人の第二段階のイニシエートがあり、二千人から三千人の第三段階のイニシエートがあり、四百五十人の第四段階のイニシエートがあり、六十三人の覚者（叡知の大家）方がいます。

カルマ——原因と結果の法則

質問 前の人生でナチス黨員だった人々の多くがイスラエルに転生しているとあなたは言われました。彼らは前の人生と同じパターンの行動を続けているように思われます。圧制と人種差別的な虐待、“選ばれた”グループのために土地を取るなど。カルマの法則は個人の魂がこのようなやり方で学び進化することをどうやって助けるのですか。

答 カルマの法則は、個人の魂がこのようなやり方で学び進化することを助けません。確かに、カルマの法則は、ナチスの軍部とその他の指導者たちを移動させる働きをしました。彼らは前の人生でドイツにおいて行ったように、イスラエルにおいても行動しています。

それは彼らの光線構造のせいであり、そして彼らが似たような状況に置かれたからです。彼らは自分たちをイスラエル人として見ます。彼らは単にこの時代の抱える問題を見るだけですが。彼らにとつての問題は、毎週若い男女がイスラエルにやって来て、バスやカフェの中で自爆し、イスラエル人を殺すということです。イスラエル人はそのことを憎んでいます。彼らはその意外性を憎みます。その意外性がテロリズムの恐ろしさの一つです。

カルマの法則は、どうやって個人の魂がこのようにして学び進化するのを助けるのかという質問は、物事を理想主義的な観点から見た言い方です。カルマの法則は理想主義とは関わりません。カルマの法則は非常に情け深い法則であり、あなた自身が始動させるもので、あなたが始動させた出来事をあなたのところにもってくるのです。あなたが考えるにつれて、想念形態をつくっていきます。あなたの行動が原因をつくり出します。これらの原因が結果をつくり出します。その結果をあなたは体験します。良くも悪くも、それがあなたの人生をつくり出します。それがカルマの法則であり、あらゆる状況における無害の必要性を示しています。人々はそのことを知りません。

これらの人々は、おそらく彼らが殺し、あらゆる方法で抑圧したドイツの何千何万ものユダヤ人たちの関わりで、イスラエルに転生しました。彼らはどんな理由であれユダヤ人を憎むようになりました。可能ならば世界からすべてのユダヤ人を取り除くことがヒトラーの目的でした。彼にそれはできませんでしたが、ナチスはおよそ六百万人のユダヤ人をヨーロッパから抹殺しました。彼らはそれに責任があり、今ユダヤ人として戻って来ているのです。

それは進化するための学びではありません。それは原因と結果の法則であり、すなわち

カルマです。彼らは、自分が以前の転生で非常に憎み、抑圧した人々として生きています。彼らはまた光線構造の特質、つまり彼らが利用するエネルギーも持ち込んでいます。それはドイツで彼らに力を与えたものです。これらの人々はトップ階級の人々ではなく、SSや陸軍で、トップの下にいた人々です。単に少数ではなく、大勢転生しています。多くのナチスがアルゼンチンやアメリカを含む他の場所にも転生しています。

質問 物質性のフォース（エネルギー）を解き放つことと、その回路となった人々のカルマ的影響との間の相関関係について説明していただけますか。反キリストのエネルギーと物質性のフォースは同一のものですか。

答 はい、同一のものです。ヒトラーはもはや転生しておらず、キリスト教徒が煉獄と呼ぶ場所にいます。どのくらい彼がそこにいるか私には分かりませんが、長い間ででしょう。人が下降のフォースと共に働くことにより与えた邪悪な影響と、直接の相関関係があります。世界に与えた影響が大きければ大きいほど、その人のカルマも大きくなります。

スターリンのように、基本的には邪悪ではない人々もいます。第二段階のイニシエートであったスターリンは邪悪ではありませんでした。彼は「灰色」のようなものでしたが

“黒”ではありませんでした。本質的に彼は（ヒトラーと）同じ種類のエネルギーと共に働いたではありません。彼は理想のために働きました。彼はそれがロシアの利益になると考えたのです。

スターリンが個人や何百万もの人々に対して行ったあらゆる悪い行いは、より良い“大義”、彼のアイディアである新しいロシアという大義のために行ったのです。それはヒトラーとその一味を通して働いた明白に邪悪なフォースとは区別できる理想主義です。私はスターリンをヒトラーのグループに含めませんが、しかし彼は灰色です。彼の場合は個人的な力（パワー）の誤用であり、善と悪の違いを認知しないことです。他方、ヒトラー（彼も第二段階のイニシエートでした）は文字通り悪のフォース（勢力）に憑依され、より低い程度でイタリヤのムッソリーニもそうでした。しかし相関関係は常に使用されたエネルギーの量との間に存在します。

第二段階のイニシエートは「暗い側面」に実験的なやり方で触れるかもしれず、好奇心から、ちょっとした刺激を求めて、すべきことではないと知りながら、誘惑に負けてしまいかもしれません。第二段階のイニシエートはかなり高度ですが、しかしまだ完全ではありません。第三段階のイニシエートも完全ではありませんが、第二段階のイニシエートは

キリストの洗礼を受けておらず、完全に光の側に属しません。彼はどちら側であることもでき、どちらからも利用されません。

それが第二段階のインシエートにとっての問題です。彼らは自分がどこに位置しているかを知りません。本当に自分がどちらを欲しているかが分かりません。スターリンは権力を欲しました。彼はロシアの国民のための良い生活を欲しましたが、それを提供する彼自身の能力に取り憑かれていました。彼は、多くの間違った決定をすることなしにはそうすることはできませんでしたが、彼の目的は邪悪ではありませんでした。それが違いです。

それは目的に関係します。その行動の背後にある目的は何か。その目的が邪悪なものであれば、その行動は邪悪なものです。目的は良いが結果が悪いときは、おそらくその過程で使用され活用されたエネルギーはより少ないので、カルマ的結果もより小さくなります。

質問 私たちは人生で以前の行動の結果を経験するのですか。

答 もちろんです。あなたの以前の行動が現在の人生をつくっているのです。それがまさにカルマの働きです。今の人生は過去と現在、私たちが行ってきた行動の結果です。それは過去だけではありません。カルマは私たちが行うあらゆる行為に関わるダイナミック

な法則です。生まれ変わったというだけで、行為を止めることはできません。私たちはすべてをやり直し始め、しかもとても根気強く行います。それが良い行いであれば、良いカルマをもたらします。破壊的な行いであれば、苦痛や苦しみを引き起こします。

これらの人々は苦しむでしょうか。彼らが引き起こした苦しみを、彼らは味わうでしょう。彼らの行いの結果として、他の人が味わった苦しみを何らかの形で体験するでしょう。それは機械的な法則ではありませんが、厳密な法則です。それはあたかも、カルマの大王が、あなたの思考や行動によって使用されたエネルギーの特質を測定し、同じやり方でそれをあなたに戻すようなものです。世界で殺される人々の多くはカルマ的な状況を通っているのです。

質問 新しいカルマは常につくられている、と考えるよいですか。例えば、この人が殺されたのは別の人生で他の人を殺したからだ、と単純に考えることはできないということですね。

答 はい、それほど単純なものではありません。

質問 實際に何が起こっているのか、どうして分かるのですか。分かりませんよね。カルマは常にこの人生で起こったことばかりだとは限りません。誰かがあることをするのは、常にカルマの結果というわけではなく、初めて行っていることかもしれませんね。

答 まさにそうです。それはダイナミックなプロセスです。ダイナミックな状況を扱うのです。誰の意識の中にも、古いカルマと新しいカルマが隣り合って存在しています。もちろん、あらゆることには最初があります。

質問 では、それはどこで終わるのですか。

答 終わりはありません。カルマの解消がなければなりません。例えば、私が知っているある女性は、現在の人生で彼女の父親から性的虐待を受け、それは彼女が十四、十五歳になるまで続きました。それは、前の人生において彼女が父親で、父親が娘であり、（今の娘に性的虐待を受けたことの直接的な結果でした。それはさらにさかのぼって、それ以前の人生で父親が父親、娘が娘であったときの結果でした。三回にわたって関係が交替して継承されたのです。私はあなたと同じ質問を覚者にしました。すると師は言われました。「それはこの人生で解消されるだろう。この人生を越えて持ち越されることはないだろ

う」。それがカルマです。

質問 それは赦しを通して解消されるのですか。

答 赦しはカルマのフォース（力）を緩和し弱める主要な法則の一つです。カルマは法であり、非個人的に働きます。その法を司っている四人のカルマの大王がいます。それは非個人的な法ですが、傷つけられた人の中に赦しがあれば、それは法の効果を劇的に緩和します。完全にではないかもしれませんが、それは赦しの完全さによります。私たちはイエスがなしたような完全な赦しをすることはなかなかできないでしょう。

質問 自分自身を許すことについてはどうですか。

答 それは異なることです。自分を許すことはカルマとは何の関係もありません。それは罪悪感の問題です。

マイトレーヤの主要な任務の一つは、人類から罪意識を取り除くことです。人々は何の理由もなく罪意識を感じています。あまりにも深刻であり、他の人々の問題、他の人々の憎悪、愛のなさ、その他何でも起こることを引き受けてしまうために罪意識を感じるので

す。特に子供たちがそうです。家族が崩壊した子供、父親と母親が離婚した子供は、しばしば両親の破局を自分のせいにして、トラウマをつくりまします。彼らは自分が両親を十分に愛さなかったからだとか、「良い子」ではなかったから、あるいは「悪いこと」をしたからだと思います。もちろん、子供とは何の関係ありません。父や母を責めるのではなく、二人が共に暮らさないことを自分のせいにするのは、子供の敏感さです。

それは自分を許すことに関係します。人々が自分を許すことができないのは、彼らが行為の結果に執着しているからです。過去を変えることはできません。過去は過去です。変えることができるのは、過去に対するあなたの執着心です。例えば、死んだ人に対して、十分に面倒を見なかったとか、親切ではなかったとか、あなたが行ったことや行わなかったことに執着すると、あなたは罪意識を感じます。彼らが死に、あなたは自分が良い人ではなく、もっと親切ではなかったことに罪意識を感じます。それについてあなたができることは何もありません。おそらくそれは真実でさえなかったのかもしれませんが、彼らは死んでしまったので、そう感じるのです。彼らの人生をより良いものにするのができたであろう言葉を、あなたはもう彼らに言うことはできません。

あなたがそれに執着するならば、罪意識に執着することになります。その人にすべきこ

とをしなかったことについて、何年も自分を責め続けることもできません。それは執着であり、否定的なことです。執着はあなたのエネルギーと注目を引き留めます。あなたの心は自由であるべきなのに、そこで固定してしまいます。「しかし私はこうすべきだった……」と感じることに執着するならば、あなたはやはり自由ではありません。おそらくそうすべきだったのかもしれませんが、今となってはそれを変えることはできず、状況は変わりました。あなたは過去を放棄し、なすがままにまかせ、先に進むことを学ばなければなりません。あなたが償うことのできないものにとらわれたり執着したりしないことです。それは過ぎ去ったのです。

質問 おそらくこの執着の感覚が生じるのは、私たちがこれらのことのカルマ的な責任を取らなければならないからではないでしょうか。

答 あなたがカルマの法則を知っているならばそうかもしれませんが。そうである可能性もあります。しかし、もしあなたが、神がいつも指を振りながらあなたを上から監視していると感じているのでない限り、普通はそうではないと思います。あなたがまだ幼い頃にあなたが「悪い子」だったとき、良い子ではなく不親切だったときに、神が監視している

と教えられてきたのです。全世界がこのような空想を教えられています。神には子供たちが嘘をつくの監視するよりもなすべきことがたくさんあるというのに！

宗教的問題

質問 ジュワル・クール覚者は、世界のすべての問題の背後には宗教の問題があると言われました。この問題はどうかやって解決できるでしょうか。長い時間がかかると覚者は言われましたか。

答 それは事実です。長い時間がかかるでしょう。世界のほとんどすべての戦争や紛争の背後に宗教的分割があるというのは真実です。宗教的分割自体に問題があるものではありません。キリスト教徒、ユダヤ教徒、イスラム教徒は何百年も共に平和に暮らしてきました。スペインもその一つでした。宗教的分割はそこにありますが、外的な問題、例えば政治経済のレベルで問題が生じると、宗教的分割が表面化して、他の問題に優越します。それは、多くの人々にとって最強の感情的絆である宗教的信念に関わっています。

インドが分割されたとき、途方もない大虐殺が起きました。パキスタンが建国の途上にあつたとき、大量のインド人（ヒンズー教徒）がイスラム教徒に虐殺されました。彼らはインドの出身で、インド人であることに馴染んでいましたが、ヒンズー教徒ではなく、イスラム教徒でした。そこで、インド人とパキスタン人との間というよりも、イスラム教徒とヒンズー教徒の間に紛争が起きました。それからパキスタンの一部であつたベンガルが巻き込まれ、再びイスラム教徒とヒンズー教徒の紛争が起きました。それからバングラデシュが建国され、同じことが起きました。

政治・経済問題が容易に解決できないときはいつでも、それが宗教的分割に変わります。そしてそれが続くのです。紛争は止んでいます、北アイルランドでは今でもそうです。ナイジェリアやアフリカの他の地域でもそうです。宗教問題は、世界のあらゆる大きな不寛容さの問題に対する解決の最後になるでしょう。人々の宗教的信念は他の何よりも人々に近いものであり、これは人類と神と呼ばれるものとの関係が、私たちが認めるよりも強いということを示しています。それは世界のほとんどの人々の心（マインド）の中で最も強力な想念です。より広い観点を持ち、特定の宗教に加わらないのは、ヨーロッパや他の幾つかの国々の洗練された知識人層だけです。

人生の早い時期に宗教を放棄した人だけがこの立場を取ります。そうでなければ、宗教と同一視される祖国から分離される恐怖が最も重要になります。もっと寛容であることを学ばない限り、これは続くでしょう。

人類には三つの大きな分野があります。政治、経済、宗教です。間違つて扱われると、それは腐敗したイデオロギーと全体主義になります。民主主義、ファシズム、共産主義のような政治的イデオロギーがあります。政治的全体主義は弱まり、衰退しています。

経済的全体主義は現在猛威を振るっています。マイトレーヤが何にもまして強調されるのはこのことです。なぜならそれは他者への鍵であり、他者と関わるのに必要な寛容さの鍵となるからです。最後に消えるのは、今その力と影響力の最高潮にある宗教的全体主義です。頂上までいけば、あとは下るしかありません。徐々にその影響は弱まるでしょうが、それには時間がかかるでしょう。

キリストの再臨の話を提示するにあたって

質問 一般の人々にこの話を語ることに關して、全般的なアドバイスをお願いします。

答 あなた方は話し方についてどうしたらよいかと思索します。つまり、どうしたら人々の注目を捕らえて感動させ、ハートからハートへと語り、先進国と発展途上国との間のギャップについて語る内容を理解させることができるかを知りたいがります。その鍵は、あなたは聞きたくないかもしれないかもしれませんが、数多く実践することです。多く語ることです。もしあなたが年に一度しか語らなければ、話し方を訓練することは不可能です。あなたの持つ様々な特質を訓練することはできません。それらを積極的に機能させることはできないのです。なぜなら、その特質に機会を与えないからです。もしあなたが話をするのであれば、定期的に行わなければなりません。毎日とは言いません。一日おきで十分です！たくさんやればやるほど、ますます上手になります。

質問 あなたの講話を聞いて、愛と慈悲の主であるマイトレヤとは誰かということが、私にとって一層深く明らかになりました。私たちはグループとして、ハートにもっと集中

する方法でこの仕事をするべきでしょうか。

答 もちろんそうです。しかし、それは「今日はハート中心でやろう。昨日は頭脳中心で素晴らしい講演をしたのだが、今日はハート中心の講演をやろう。そうすれば、異なったタイプの人々に触れることができ、ある領域においてより効果的だろう。頭脳タイプの人には効果的ではないだろうが、ハート・タイプの人にとっては……」という具合に選択することではありません。講演をするときにはあなたが持つあらゆるものをを用いるのです。それはハートと頭脳の両方です。より一層ハート中心でということではありません。このメッセージを伝える人はハート中心でなければなりません。それ以外のやり方ではメッセージを伝えることはできません。それは頭(頭脳)を使ってはいけない、という意味ではありません。頭を使って、人々が理解でき、人々に影響を与え、考えさせるために言葉を用いなければなりません。そのためには、あなたの持っている活用できるすべてのものをを用いるのです。「私はなんと言ってもハート・タイプの人間だから、ハートから語ることにしかできません。私がやることはすべてハートから出たものです」などと言っていてはいけません。そのようなことではないのです。あなたはただ語り、あなたのハートが自然にそれに関わるのです。でなければ、あなたはこの仕事をやっていないでしょう。あなたの頭脳

とマインドが関わっているのです。そうでなければ、あなたは語らないでしょう。あなたが語っているときには、あなたのすべてが関わっているのです。

もしあなたが十分集中したレベルから行うならば、直観が働くことが分かるでしょう。直観とは魂の声です。魂が働き出すのです、つまりアイディアの構築のために魂が頭脳の装備を用いているのです。

本当に価値のあるアイディアや思想は、聴衆と共にあなたを、繰り返し同じことを話すことから来る究極の退屈さを乗り越えさせるのです。私は同じことを三十年間もやってきました。しかし人々は彼らが聞いていることはいつも違うと思います。あなたが感じたように話すことです。直観によって語りなさい。もし直観力を用いるならば、本当だと知っているが以前には考えたことも言ったこともないことを自分が話しているのに気づくでしょう。しかし、それを話した途端にそれが本当だと感じるのです。それはあなたの直観が働いたからです。あなたがリラックスしてしかも集中しているとき、頭の中で高位のところで集中しているときにのみ、直観が働くのです。

質問　私たちの情報を人々が理解できる表現に言い換えるにはどうしたらよいのでしょうか

うか。どうしたらもつとリアルに、そして彼らがもつとアクセスできるようにすることができるでしょうか。

答 実際に、ラジオやテレビで語ることです。それは武器であり、世界とコンタクトして話をする方法です。先に言ったように、やればやるほど上手になります。そしてやればやるほど楽しむようになります。もしあなたがそれに興味があれば、興味が持てるように話すことができるのです。あなたがこの主題とアイディアに興味があり、それを自分自身のものにしていれば、あたかもそれがあなたのものであるように、それらを世界に関連づけ、現実に関係づけながら話をします。そうすれば、必然的に聴衆は当然反応するでしょう。自分自身を忘れ、それをやっているのは自分であることを忘れて、ただそれをやりなさい。そうすることを学びなさい。ということとは、しばしばやりなさいという意味です。

これは、世界で最も偉大な話です。世界にキリストが、弟子をオーバーシャドウするのではなく、御自身が完全な肉体で初めて現われるというような重大なことについて話をするのです。これは以前に起こったことはなく、今後再び起こることもないでしょう。覚醒者が世界の背後にあって経験し、生きて来られた九万八千年の歳月の集大成であります。世界の歴史に例を見ない時なのです。

私たちが持っているこのストーリーは、どのグループにもこれまで、（それについて語るという仕事のために）提供されたことのなかった偉大なストーリーです。極めて貴重な素晴らしいものです。それは非常に多くの様々な結果をもたらすものであり、人類の必要に非常に密接に関係しています。様々な事実を組み合わせて、非常に魅力的なストーリーにすることができます。ジャーナリストはそれが好きです。

人々は楽しませてもらうことが好きです。もしジョーク（冗談）を思いついたらジョークを言うことを恐れてはいけません。ジョークは出てくるままにしておきなさい。もし出てきたら掴み取って、話の中に割り込ませなさい。

質問 この話を伝えるにあたって、なぜ無執着がそれほど重要なのか説明していただけますか。

答 無執着の問題は、この情報を世界に提示するこのグループの役割を理解する上で、そして内的にも外的にも、能力の限界まで働き、隔離することなしに無執着であることを学ぶ上でも、中心なことだと思えます。これは、マイトレーヤのハートの中の洞察について私が述べたことの鍵となるものです。マイトレーヤのハートは、何十億人もの人々の

怒り、苦しみ、苦悩、惨めさ、落胆、切望でぎっしりですが、同時に、陽気で、極端に喜びに満ちていることができ、彼が通りで会う人々と当意即妙の交わりをすることができるのです。

例えば、最近の『シェア・インターナショナル』誌に掲載された体験の一つですが、ある女性が六十五セント（約七十五円）を三回要求されました。彼女は少し迷惑に思い始めました。一度目は喜んで与え、二度目は少し抵抗があり、三度目に彼女は言いました。「どうしていつも六十五セントなの？」。六十五セントというのは特殊ですが、それは何とも関係がありません。おそらく六十五セント切手とは関係あるかもしれませんが、それだけのことです。マイトレーヤは言いました（六十五セントを要求したのはマイトレーヤでした）。「それは神からの贈り物なのです」。彼女は言いました。「六十五セントが神からの贈り物ですって？」。彼は言いました。「実際には七十セントなのです」。彼女はその当意即妙な答えを面白く思ったので、彼女はいくらとは言いませんでしたが、少なくとも六十五セントは彼に渡したのです。そのとき彼女は、彼が彼女に、与える機会、与えることを学ぶ機会を提供しているのだということに気づきました。多くのアメリカ人は、与えることが上手です。とても寛大です。しかし、それと同じだけのアメリカ人は、そしてこれは先進国全体

に言えることだと思いますが、寛大であると同時にかなりけちん坊です。けちん坊 (stingy) というのは (イギリス) 英語では、お金を手放すことを好まないという意味です。特に、三度も六十五セントを要求する見ず知らずの人に対しては。マイトレーヤは彼女に、たとえ六十五セントであっても、与えるという機会は贈り物であることを理解させたのです。霊的な見解から見ると、それはあなた自身への贈り物なのです。

人々は、覚者方が豊かに備えているこの特質を十分に理解していないと思います。それはハートの寛大さ、スピリットの寛大さです。彼らは、与えることは神のようなことだと思っけています。もし困窮している人がいれば、その人に与えるということは神のようなジェスチャーなのです。マイトレーヤはいつもこのことを示そうとしているように思われます。何度も何度も乞食の姿で現れ、六十五セントや二ドルを要求します。

私は一度マイトレーヤに会って、二ドルを要求されたことがあります。カリフォルニアのバークレーで、彼はきちんとした身なりの若い男性の姿で現れ、特に二ドルを必要としているように見えませんでした。彼は、バン (小型トラック) にガソリンを入れるためだと言いました。道路を見回しても車はどこにもありません。それでも気にせずに彼に二ドルあげました。しかし、二ドルをあげながら、車のためではないのだらうと思っけていまし

た。二ドルでどれほどのガソリンを買えるというのでしょうか？

質問 再臨を伝える活動をしているグループに対して、マイトレイヤの出現はどのような影響を与えますか。

答 一つには、それはとても高揚する体験でしょう。彼の（公の）出現によって、世界にマイトレイヤが臨在されることを知らせる仕事が終わるのは明らかです。

大宣言の後には、グループの仕事の性質が変わるのは明らかです。確かにグループは途方もない教育の仕事を要求されるでしょう。なぜなら、あらゆるところから来る人々が、色々なことを知ったがるからです。もしあなたがまだ勉強していなければ、勉強しなければならぬでしょう。

大抵の質問は、今日そうであるように、イエスや彼の周囲にいた人々や彼の母マリアのことに關することでしょう。人々にとって関心のあるはずの現在の事柄については質問しないでしょう。彼らは「イエスは本当にマグダラのマリアと結婚しましたか？ 彼らには子供がいましたか？ 子供は何人で、彼らは子供をどのように呼んでいましたか？ 彼らの中の誰か現在転生していますか？」などのような質問をするでしょう。人々はそのような

なことを食欲に質問してきます。ですから、あなた方は多くの仕事を、主に教育の仕事をしなければならぬでしょう。しかしまた、救済しなければならない世界があるのです。グループはその仕事に関わることもできます。

質問 アメリカはあまりに多様で巨大なので、地元の地域での活動への参加をもっと活発にする必要があります。地元地域での活動とグループとして働くことの重要性を論じていただけますか。

答 地元の地域での参加が第一に必要です。それが民主主義です。政治家は民主主義について語りますが、実際にはあまり民主主義はありません。決定するのは彼らであり、彼らが政府なのです。このようにして、あなた方の民主主義は減少していきます。

民主主義は投票を通してのみでなく、参加を通してです。より多くの参加があればあるほど、民主主義は現実のものとなります。そうなるまでは、私たちは民主主義に向かって進んでいるというだけで、世界には真の民主主義はありません。民主主義を欲するならば、参加しなければなりません。それは行動するということです。誰か他の人に参加を任せるということではありません——あなたが参加しなければなりません。地元の地域レベルで

参加すればするほど、あなたはより効果的になります。地元の地域レベルでグループとして参加すれば、地元の地域レベルでの効果ははるかに肯定的なものとなり、国内や国際政治の抽象的なレベルにおけるよりもっと効果的です。一人の人間が政府の行動を変えるのは非常に難しいですが、一人の人間が地元レベルのグループに強い影響を与えるのは不可能ではありません。それは常に起こっています。地域社会で発言する人々、実際的で良いと思われるアイディアを持つ人々が、世界のあらゆる国で人々の生活を変化させています。それは私たちが気づくか否かにかかわらず起こっています。

あらゆる国で、地域レベルで大きな変化が起こっています。ますます多くの人々が彼ら自身の生活について議論しています。東側の、これまで決して真の代表者がなく、参加もなかったような国々でそれが起こっています。ここアメリカでは、代表者はいますが、非常にローカルな意味を除けば、あまり参加はありません。あなた方は地域レベルでの活動を最大に利用することです。教育、地域生活、スポーツなどの分野で参加するという方法で働いているあらゆる種類のグループがあります。

私たちの主題はキリストの再臨であり、スポーツや地域活動ではありません（地域活動も含まれるかもしれませんが）。地域レベルで働けば、あなたが考えるよりも多くの支持者を見

いだすかもしれません。あなたは彼らと一対一のアプローチができます。再臨のアイディアとそれが意味するすべてのことを、世界の変容の観点から人の意識に伝えるのに、一対一で面と向かったの相互交流ほど効果的なものではありません。相手はあなたの話によりオープンになるし、あなたの話はより説得力を持つでしょう——押し付けにならずに説得力を持つことになるのです。

グループと共に働けば、より効果的でしょう。グループ・ワークが将来の仕事のやり方です。アクエリアス（宝瓶宮）のエネルギーは、グループ形式でのみ認識され、吸収され、利用できます。次の数百年を通してグループの成長が見られるでしょう。グループで活動するとき、個々人がグループに投入するあらゆる行動をさらに強化するのです。それは非常に強力な働き方です。

ハイアラキーが何かを始めるときは、いつでもまずグループをつくるのは偶然ではありません。彼らは一人の人間と接触して、その人にグループを与えるか、あるいはグループと接触する手段を与え、それからそのグループが一緒に働きます。神智学協会、アーケン・スクール、そしてマイトレーヤと覚者方の出現のために働いている世界中のグループができたのはそのためです。グループ・ワークがその答えです。

質問 あなたや覚者方は、私たちがこの特定の時期に広報活動として行うことができれば最も効果的だと思われる何か特別なものを考えておりますか。

答 もっと多くの広報活動です。ほぼ同じ活動か、あるいは、同じ活動よりもう少し効果的な活動です。あなた方がだれ気味 (Tagging) だとしたら、間違った旗 (Flag) を掲げていたのかもしれませんが——星条旗が多くあり過ぎる (訳注「アメリカ中心思考」) のに対し、国連旗 (訳注「グローバル思考」) が足りないのかもしれませんが。あなた方は視野を広げて、自分自身のこと、つまり、アメリカのことを考えるのをやめなければなりません。世界について、アメリカが現在世界に及ぼしている影響について考えてください。あなた方は腐敗した政府、危険なファシスト政府を持っており、アメリカにとっても、たぶんイスラエルと東欧の一つか二つの国を除いて他のどこの国にとっても良くありません。世界にとって大きな脅威になっています。

忠誠についての同盟という概念を世界全体にまで広げなければなりません。実際の言い方をすると、それは国連——安全保障理事会ではなく、世界のほぼすべての国で構成される国連総会です。あなた方の政府は、極めて意識的に帝国を建設しようとしています。私は今日、実際にラジオで聞きました。新しい帝国とはアメリカ帝国のことであり、帝国

が順調に発展し、より大きく優れたものになりつつあることをアメリカは当然と受け止めているという事実を、あれほどはつきり認める発言は今まで聞いたことがありませんでした。このように発言した歴史家は、ヨーロッパで帝国を築き上げたナポレオンについて話していました。その帝国はもう存在しません。アメリカは今日、同じことをやっています。米軍基地は世界中に二千以上もあります。どうして二千カ所の外国基地が必要なのでしょう。基地を維持するには税金がかかりますが、アメリカの安全保障のために必要だと政府は考えています。それは実際のところ、安全保障ではなく、覇権を意味します。それはアメリカの勢力圏を意味し、原油や市場など、統制し支配するのに必要だと政府や大企業が考えるものは何であれ、獲得しやすくなることを意味します。外国基地があれば、明らかに当該地域に対する支配権を握ることになります。こうした軍事基地には非常に小さなものもあれば、非常に大きなものもあるし、古いものや真新しいものもあります。軍事基地は絶えずいつも、ブルガリアなど各地で建設されています。ブルガリアで一体何をしているのでしょうか。

あなた方の政府はブルガリアに誰かを派遣し、そしてまず首都ソフィアを見て回り、あの町に病院か学校を贈ります。それによってアメリカとの良好な関係が構築されます。平

均的なアメリカ人はブルガリアがどこにあるのかさえ知りません。しかしこのようにして、必要が生じたときにアメリカはブルガリアの賛成票を要求することができるようになります。ですからイラクにさえもブルガリア人はいるのです。

アメリカの影響力はそのようにして世界中で拡大されています。どこの地域であれ、このような基地があれば、必要が生じた場合にすぐに人員や戦力を増強することができます。米軍基地は全世界を完全に網羅しています。これは世界的規模の「パックス・ロマーナ」（ローマの支配による平和）のようなものであり、ナポレオンのヨーロッパ帝国やかつての大英帝国よりも大きなものです。その帝国を建設している人たちは、帝国は永続し、アメリカの影響力は拡大すると考えているでしょう。しかし永続することはないでしょう。彼らは世界に実際に起こっていることを、私たちが知っているようにには知らないのです。私たちはそれが、はかなく消える夢であることを知っています。

質問 私たちはここにいるように運命づけられており、私たちのカルマはこのグループにいてのことであると言われました。これはすべての人についてですか、それとも少数の人々についてですか。

答 キリストが世界に帰還することに関する情報を大衆に最初に伝える役割を持つグループが存在します。そのグループは（世界中で）四千人から五千人くらいの人々で構成されており、彼らは、カルマ的な関係で現在転生しています。もちろん、キリストの再臨と関係づけられているのではなく、ハイアラキーとの関係においてお互いに関係づけられているのです。彼らは、過去のカルマを克服するカルマ的な機会（そうです、それはカルマ的な機会です）を与えられたのです。それは、キリストのための道を整え、人類の自由意志を侵害せずに私たちの生活に入ってくることでできるように、期待の風潮をつくる仕事を行うことです。キリストの公の肉体的な出現に先立って、キリストをではなく、キリストの言葉、アイデア、関心事を世界に提示することです。その返礼に、彼はグループに祝福を与え、彼らの裡に火をともしられます。そして、それがますます熱くなるにつれて、彼らを進化へと駆り立てます。

それが今起こっていることです。キリストは、彼らに奉仕する機会を、信じられない機会を与えてくださっています。私はおそらくこの言明の持つリアリティーの深さを本当に分かっていないと思いますが、これが現在提示されている機会であり、二度と繰り返されないものであると言うことができます。なぜならハイアラキーは世界に戻っているからで

す。今回は異なったストーリー、異なった状況になっているでしょう。覚者方はこの機会を与えられた人々を知っています。この人々は確かだ、彼らは確かにそれを行う、できる限りの仕事をするだろう。あの人々は静かなやり方で最善を尽くすだろう。あの人々は、さて、それを行うかどうか疑問符はつくが、もしこの機会をつかむだけの良識があれば、彼らはやるだろう、というように。

これがポイントなのです——機会は提示されていますが、自由意志の侵害はありません。それはグループに奉仕の贈りものを提示しています。誰かがそれをしなければなりません。四千人余りの人々は、六十五億人の世界人口から見ればあまり多くありませんが、彼らはすべて何らかのかたちでハイアラキーとつながっています。彼らは皆、弟子たちであるか、あるいは弟子道への志向者たちです。

それは何か共通のものを持っている人々、カルマ的な関係を持つ人々に与えられた機会です。彼らはハイアラキーのメンバーであり（もちろん、低いレベルですが）、キリストの再臨の「ストーリー」とそれに関連するあらゆる部分について人類に最初にアプローチするという計画に奉仕する機会を与えられました。このようなことは、緊迫したこの時を除いては決して行われることはなかったでしょう。これに関わった人々が前世で十分働いて

いたのは彼らの幸運（ただの幸運ではありませんが）なのです。このストーリーを聞き、それについて働く機会を持ち、それを自分のものとした自分をラッキーだと思いなさい。この勇敢なる四千人の一人となったことを幸運に思いなさい！

質問 キリストの存在を知らせるために、あなたのように働いている他の弟子はいないのですか。

答 世界中でこの仕事に関わっている四千人の中で、カギとなったであろう人々が五人いました。ニューヨークに一人、ロンドンに私、ジュネーブに一人、ダージリンに一人、東京に一人おり、全員が最初の提示者として選ばれた人々です。彼らの周りにさらに多くの人々が集まり、それが世界規模の出来事になるはずでした。この情報がニューヨークから東京まで五つの主要な霊的中心から世界中に発せられるという素晴らしい計画でした。しかし、ニューヨークの弟子は、何度か私の講演会にきましたが、この話を信じていません。私がロンドンの弟子です。ジュネーブの弟子は、ニューヨークの弟子と同じく、この話を信じていません。彼らは共にキリスト教神秘家であり、シュタイナーのような人に影響を受けています。シュタイナーはキリスト御自身がやって来られるという計画が最終的

なものとなる前に亡くなりました。シュタイナーは、キリストが肉体で帰還することはできないと強固に主張し、人々のハートにキリスト原理が十分に目覚めたときにキリストが世界にいると断言することができるのだと述べました。それはキリストの再臨の一つの側面にすぎません。シュタイナーの信奉者は、世界に肉体的な人間としてキリストが再臨する可能性に心を閉ざしています。同様に、やって来られる四十名以上の覚者についてはもちろんのことです。

ダージリンの弟子はまだ眠っています。東京の弟子は女性で、彼女自身がマイトレーヤであると信じていますから、あまり良い仕事はしていません。これはハイアラキーの責任ではありません。彼らは単に奉仕の機会を提示するだけからです。弟子たちはすべて自由意思を持ち、その仕事を引き受けない、という権利を持ちます。

私たちがそれを起こさなければなりません。私たちは世界で「騒ぎを起こし」、これが起こっていることを人々に理解させ、希望と期待の風潮をつくり、絶望している人類に希望を与えなければなりません。未来に希望を持たせねばならず、キリストやイマム・マードイや弥勒仏やクリシュナの再臨の話ほど、人々に希望を与えるものはありません。それは人々の精神を高揚させ、不安や緊張を和らげるでしょう。

質問 これは、再臨の話を伝える中での多様性についての質問です。公衆にこの話を伝えることを拒絶した高位の弟子たちが他に四人いるのだとすれば、おそらくこの話はこれまで一つの観点からのみ、つまりブラヴァツキーとアリス・ベイリーの仕事の継続としてのみ伝えられていることになると思います。これについてコメントをお願いします。

答 それはまさに本当ですが、他の四人が高位の弟子であるとは私は言ったことがありません。他に四人の弟子がいると言っただけです。彼らの誰も高位だとは言っていないません。そこに違いがあります。彼らの誰も覚者との接触がありません。もしそうであったら、彼らも私と同じように行動していたでしょう。もし私に覚者との接触がなく、彼らがおそらく受けたようなやり方で情報を受けていたならば、私もまた行動しなかったでしょう。しかし私には、「さあ、出て行きなさい、外へ出て世界にこのことを伝えなさい」と突つつく覚者がいました。

これがどんなに困難なことだったか、あなた方には分からないでしょう。外へ出て世界に伝えるなどというのは全く私の考えになかったことです。そうすることを懇請されなければ、私は決してやらなかったでしょう。ですから私は彼らが出て来ないことを責める気はありません。ですから、この話の大部分がブラヴァツキーとアリス・ベイリーの情報の

継続であるというのは本当であり、私はそれが正しい教えだと信じています。それ以外のやり方で話すことはできなかったでしょう。私はブラヴァツキーとアリス・ベイリーの教えに傾倒しており、それはハイアラキーからの直接の教えであると確信しています。私は自分が真実であると信じるものにしか興味がありません。

それでも、この情報を伝える他のやり方もあるでしょう。あなたは信を持つキリスト教徒かもしれません。このグループの多くの人々は信を持つキリスト教徒であると思います。キリストの再臨としてこの話をすることができるでしょうし、アリス・ベイリーやブラヴァツキーや他の教えに言及する必要はありません。多くの異なったやり方で伝えることができます。私はそうした人々ではないので、他のやり方で伝えることはできません。しかし他のやり方でも伝えることができるということは絶対に確かです。

例えば、イスラム教徒はイマム・マードイの到来を待っています。マイトレーヤがロンドンに來られたころ、二人のパキスタン人がロンドンに送られました。彼らは共に、一人はラホールで、もう一人はカラチで「聖なる人」に会っていました。彼らはお互いのことを知らず、聖者も違う人でしたが、聖者は彼らに同じ話をしたのです。彼らはイマム・マードイの道を整えるためにロンドンに來ることになっていたのです。一人はジャーナリス

トで、政治に関わっていました。彼は言いました。「私にはできません。私には仕事があります。私はジャーナリストで、（暗殺される前のベナジール・ブット氏の父親の）政党のメンバーです。絶対に行くことなどできません」。聖者は何カ月か前に、彼がロンドンに行かねばならないと伝えていたのです。聖者は彼が何年も前に失った物を与え、彼の家族について家族しか知らないことを知っていました。聖者は、大変な物知りであることを示しました。そして、「君が行かないなら、行かざるを得ないようになるだろうよ」と言いました。

同じことが他の男性にも起こりました。彼は弁護士でした。彼は言いました。「私は行けません。法律の仕事があります」。聖者は言いました。「君が行かないなら、行かざるを得ないようになるだろう」

ついにブット氏が殺され、彼に関係したあらゆる人に容疑がかかりました。ブット氏の政党のメンバーが疑われました。そのジャーナリストがどんな地位にあったのか分かりませんが、彼は政党に深く関わっていました。彼にはロンドンのアジア人地区で暮らす兄弟がおり、仕事を辞めてロンドンに行き、パキスタン人向け新聞のジャーナリストの仕事に就きました。

一方、弁護士は、事業に失敗し、破産する前に彼も事務所を畳んでロンドンに行きまし

た。彼らはお互いのことを知りませんでした。私がロンドンのアジア人地区で新聞広告を出したときに初めて会ったのです。その広告には、イマム・マーディが到来し、ロンドンのアジア人地区に暮らしていると書いてありました。その情報は地区全体に広まりました。二人のパキスタン人もそれを読みました。たまたま彼らの兄弟の一人が他の方を知っていました。そこで彼は二人を招待し、お互いに全く同じ体験をしていたことを知ったのです。それぞれが違う街で、違う聖者が全く同じように教えていたのです。それで彼らは私と接触することを決め、私は彼らに会いました。

私は、一九八二年五月に、マイトレーヤがロンドンのアジア人地区にいることを発表し、有能な著名ジャーナリストがマイトレーヤを探そうと行動を起こせば、出て来られるだろうと伝えました。私は多くの外国のジャーナリストがそうするだろうと期待し、これらの男性に、閉鎖的なアジア人地区の案内人となってくれるよう頼みました。彼らは同意しました。

しかしながら、ジャーナリストの男性はマイトレーヤが彼の肩の上に載ってくれるのをただ待っています。他の一人は、イマム・マーディについてあらゆるものを読み、その過程で伝統固執主義イスラム教徒になってしまいました。それから彼はイマム・マーディの

到来についての本を書いています。

この情報を、キリスト教徒、イスラム教徒、仏教徒のやり方で伝えることができます。マイトレーヤ仏はすべての仏教徒に待望されています。日本の仏教徒は、それが五十六億七千万年後だと思っているので、それほど急ぎません。クリシュナやカルキ・アバターとして伝えることもできるし、ユダヤ教のメシアとして伝えることもできます。これらは、知ろうが知るまいが、すべてマイトレーヤのことです。

私はハイアラキー的なやり方で伝えています。これが最も見解が広く、最も真実で、深遠で、最も歪曲が少ないと信じています。あらゆる宗教はある程度は歪曲されています。それらが生まれてから何百何千年も経っており、すべてが歪められています。聖典はいずれもある程度は変色しています。秘教的な教えの中でのみ、真の情報を受けることができます。と思います。

覚者との接触があれば、それが最高です。どんな本も教えも必要ありません。直接語ることができ、それが最良です。しかしそれは稀なことです。非常に稀です。

自分自身を救いなさい

質問 ニューヨークでの講演会で、あなたが「私たちは私たち自身を救わなければなりません」と言うとき大きな拍手が起きました。これは素晴らしい統合をもたらす表現だと思いました。再臨の話を伝える際に、救世主としての世界教師についての懸念や予断を打ち消すからです。

答 この質問には二つの側面があります。一つは世界的な側面で、もう一つは個人的な側面です。マイトレーヤは、人類がこの惑星を救い、人類自身が破滅しないようインスピレーションをもたらすためにやって来ます。教えを通して、その変化を起こすインスピレーションを私たちに与えようとしています。これが彼を「救世主」であると考え大半の人々が抱く期待です。しかし私たちは自分自身で働かねばなりません。ずいぶん前に彼が言われたように、すべての石、すべての煉瓦は人類自身によって築かれねばなりません。「私は大計画の設計者であり、あなた方は真理の寺院の建設者である」

二番目の側面は、個々人に対する彼の関係についてのものです。この場合、彼は救世主ではなく教師です。彼の教えに対する正しい反応によって、私たちは自分自身を救わねば

なりません。他の誰も、マイトレーヤ御自身でさえ、これをすることはできません。

世界教師は救世主ですが、彼は私たちを救うために来るものではありません。彼は教えるために来られるのであり、私たちが自分を救うのです。教えに対する正しい反応によって、つまり、教えを私たちの人生におけるダイナミックなフォース（力）とすることによって、自分自身を救うのです。救うことは知ることです。あなたが真我となり、真我であるとき、あなたは救われたのです。

キリスト教のグループは過去二千年にわたって、救世主がやって来て人類を罪の結果から救うのだと世界に伝えてきました。しかし、それは罪とは何の関係もありません。自己変容についてです。自分自身を変え、救われる過程に入ります。それは段階的なプロセスです。

私たちは教えに対する反応と、とりわけ教えを自分自身に適用することによって、自分を救います。教えを聞いて、教えとしてそのままにしておくこともできます。何百万もの人々がこの二千年間そうしてきたのです。聖書にまとめられたイエスを通して伝えられたマイトレーヤの教えは、説明されて片付けられるか、あるいは当時と同じくらい今日にも関連しますが、実際に適用されませんでした。

教えを適用しないならば、私たちの内部でダイナミックなフォース、変化のためのフォースとならないならば、私たちは救われません。毎日、毎週、毎年、正しく適用されれば、教えは少しずつ私たちを変えます。魂により近づき、もっと魂のエネルギーで満たされ、魂の光で満たされるようになります。より多くの亜原子を肉体に持ち込み、肉体を変えて霊化し、徐々に完成させます。それが自分を救うことであり、魂の似姿へと成長することです。

魂はその器である人間男女を通して自分自身を表現することを求めています、人は教えに反応しなければなりません。そのために教師はやって来ます。私たちに再び『法』、すなわちカルマの法則、再生誕の法則、無害の法則を思い出させるためです。私たちはこれらの法を正しく、ダイナミックに私たちの生活に適用しなければなりません。単なるアイディアとして頭に留めて、何もしないのではありません。もしそれが単に頭脳の中の記憶でしかなければ、何も起こりません。実際にそれを適用して、自分を変えるための酵母にしなければなりません。それは私たちを高め、私たちを変えます。教えに従って変わらなければなりません。

それはそれ自体では知識ではありません。教えのダイナミックさへの本能的な反応です。

それはプロセスであり、単なる言葉やお説教ではなく、暗記するものでもありません。言葉を覚えることは重要ではありません。重要なのはそれが生活の中で活動的なプロセスとなっているか、認識から認識へ、イニシェーションからイニシェーションへ、そして次第に完成へとあなたを導いているかどうかです。それが救いであり、誰も代わりにそれをすることはできません。

マイトレーヤは進み出る

覚者による記事（二〇〇七年一月号）

マイトレーヤの出現はほとんど完了している。彼の公開された公の仕事は本当にもう間もなく始まるだろう。それから、教えの過程と徐々に世界に知られていく過程が始まるだろう。これにかかる時間はまだ明らかではないが、しかし比較的速やかに進むだろう。もちろん、まず初めは、彼の見解と勧告の性質に対して多くの反対があるかもしれない。これは予想されることである、彼の考えは一般的な考え方からあまりにもかけ離れているのであるから。しかしながら、徐々に、マイトレーヤの鋭利なマインドは、環境や社会、経済、政治の事柄についての現在の信条にある欠陥を見抜き、暴露するであろう。彼の言葉の論理とそれについての賢明な理解が増すにつれて、多くの人々に耳を傾けさせ、さらに熟考することを促すだろう。その間、彼の光線が非常に大勢の人々の心に浸透して、彼の単純なことばを真理の啓示にするだろう。誰もまだマイトレーヤの愛あるパワーを知らず、彼の計り知れない智恵を推し量れる者はいない。

彼の大義に何百万という人間が結集し、分かち合いと理解を通しての平和と正義を要求するにつれて、人々は熱狂し、新しい希望と同胞愛と正しい関係への願望によって活気づけられるだろう。彼らはこれまでにかつてないスケールの変化を要求するだろう。政府と権力の座にある者たちはその要求に応えることを強いられ、そして、変化に抵抗する殿堂はいまや力を得た世論の声の猛襲の前に少しずつ崩れ去るだろう。かくして、論理と啓示と、そして彼の愛によって生じる信頼によって、マイトレーヤはすべての人間の心（ハート）に、たとえ知られずとも、存在している善意を活用するだろう。

マイトレーヤはテレビやラジオを通して何百万もの大勢の人々に語りかけるだろう。彼が出てくるたびに伴う彼の祝福を分かち機会をすべての者が得るだろう。かくして、世界中の人々がマイトレーヤのメッセージを知り、心（ハート）の高揚を経験するようになるだろう。彼の身分（アイデンティティー）について多くの憶測がなされ、多くの意見が提供されるだろう。しかし、すべての者がそれぞれの異なった方法で、新しきことの先触れとして、健全な真理の伝達者として、彼らの心（ハート）に近いライフスタイルを示す者として、彼を見なすだろう。

もちろん、彼のアイディアに恐れを感じる者たちがおり、彼の（出現の）進行を止めよう

とするだろう。しかし、彼のことばの美しさと分別がますますすべての国の国民を鼓舞し、彼を彼らのスポークスマンとして、リーダーとして見るだろう。そのようになるだろう。民衆は、彼らに代わって世界全体に向けて語ることを、彼に呼びかけるだろう、そうして大宣言の日が発表されるだろう。

それはこれまでもかつてなく、そして今後もないだろう。その日は、マイトレーヤに、新しい時代の世界教師として、霊的ハイアラキーのリーダーとして、そしてすべての宗教団体が待望する方として、御自身の名前と御身分と目的を明かす機会を与えるだろう。彼の助けを必要とする者たちすべての友として教師として、御自身を紹介されるだろう。人間の苦しみと苦難を知っており、彼らのつらい運命を和らげることを求める簡素な男として、すべてを完全に条件なしに愛する者として、われわれに歓びへのステップを示すために来た者として、御自身を示されるだろう。

そのような方が今まさに世界の前に進み出ようとしており、すべての者に彼の助言を与えようとしている。それらのことばをわれわれは聞いたことがあるかもしれない。今や、彼の祝福と共に、われわれはそれらの意味を理解し、行動するのである。

マイトレーヤの手形（説明は次頁下段）



マイトレーヤの接近

わたしはあなたがたの前に素朴^{シンブル}な男としてやってくる。

わたしは一人の兄弟として、友としてやってくる。

わたしはあなたがたを本源へ連れ戻す。

わたしはこの時代^{エイジ}の終わりまで、あなたがたの中に居る。

わたしの愛は永遠^{とこしえ}に、あなたがたを取り巻く。

わたしの心はあなたがたの心^{ハート}と同じリズムで鼓動する。

わたしの手があなたがたを導き、保護する。

わたしの愛には境界がない。

(世界教師マイトレーヤからのメッセージ第90信より)

【右頁の写真】あらゆる信仰の人々（そして信仰を持たない人々）にまつわる奇跡の報告が世界のメディアに届く数はますます増大している。ベンジャミン・クレームの師（覚者）によれば、それは世界大師マイトレーヤの出現が非常に間近にせまっていることの徴である。

この写真はマイトレーヤ御自身の手形であり、スペインのバルセロナで洗面所の鏡の上に顕わされたのである。単なる手の痕ではなく、写真のように詳細な三次元のイメージである。

シェア・インターナショナル誌（2001年10月）にて最初発表されたこの「手」はマイトレーヤの癒しのエネルギーを喚起し、助けを求める一つの手段である。この手の上に（写真のコピーでも良い）自分の手を置いたり、あるいはただそれを見つめることによって、マイトレーヤの癒しと助けを喚起することができる（但し、カルマの法則の許す範囲内）。マイトレーヤが公に完全に姿を現して、私たちが彼の御顔を見るまで、これはマイトレーヤが私たちに接近することのできる最も近いものである。

光の勢力は集合する

覚者による記事（二〇〇七年三月号）

世界の多くの場所で重要な出来事が起こっている。至るところにいる人々は、その報告に驚嘆するだろう。それらは、われわれの近隣の惑星、特に火星と金星からの宇宙船がこれまででない数でわれわれの視界に見えることを含むだろう。地球の広大な範囲の領域で、このような活動の増大はこれまでに見られたことはないだろう。この現象のリアリティー（実相）を真剣に受けとめることを断固として拒否してきた人々は、それを否定することが難しいだろう。宇宙船の乗組員との接触についての報告がますます多く出てきて、彼らの存在の事実についての証言に加えられるだろう。あらゆる種類の奇跡的な出来事は続き、その数と種類は増していくだろう。人間の心（マインド）はこれらの不思議な事物に困惑し、驚くだろう。そしてこれが彼らに深く考え込ませるだろう。

この不思議な事物に満ち、驚異の目を見張る世界に、マイトレーヤは静かにお入りになり、彼の公の仕事を始められるだろう。彼らの疑いや不安を打ち消して、これらの出来事

を説明することを、マイトレーヤは頼まれるだろう。そして彼はそれらが確かな事実であることを請け合うだろう。これらの途方もない出来事は減ることなく続くだろう。その結果、多くの者たちが世の終わりを予言するようになるだろう。しかしながら、マイトレーヤは彼の単純なやり方を続け、これらの出来事を異なったように解釈されるだろう。

かくして、マイトレーヤは人間にいのちの驚嘆すべき雄大さと意図を見ることを鼓舞するだろう。その様々なたくさんさんの層を人間はまだほとんど知らない。マイトレーヤは、穏やかに、少しずつ、人間存在の基本的真理を、それを支配する法を、そしてこれらの法の範囲内で生きることによって達成される恩恵を、人間に紹介していかれるだろう。われわれの銀河の広大さを人間に熟知させ、そして、やがて時を経て、地球の人間は「空間」と「時間」を征服するだろうということを示されるだろう。人間が彼らの問題に対する答えを外と同様に裡に探すことを鼓舞されるだろう、そして人間のお互い同志との、そして宇宙との不変のつながりを確認するだろう。彼は人間に、彼らの長い歴史と、彼らが克服してきた多くの危難について思い出させるだろう。マイトレーヤはわれわれ自身の光り輝く未来についての信の種を蒔き、人間の永遠の神聖を保証するだろう。人生の道、進化の旅路は絶対確実に前進へ、そして上へと導かれることを示すだろう。そしてその旅路を、兄弟

姉妹として共に歩むことが最も確実な方法であり、最も歎びに灯された道であることを示すだろう。であるから、マイトレーヤのお出ましの合図を探し、それを広く知らせ、あなたの兄弟たちの希望を高めなさい。

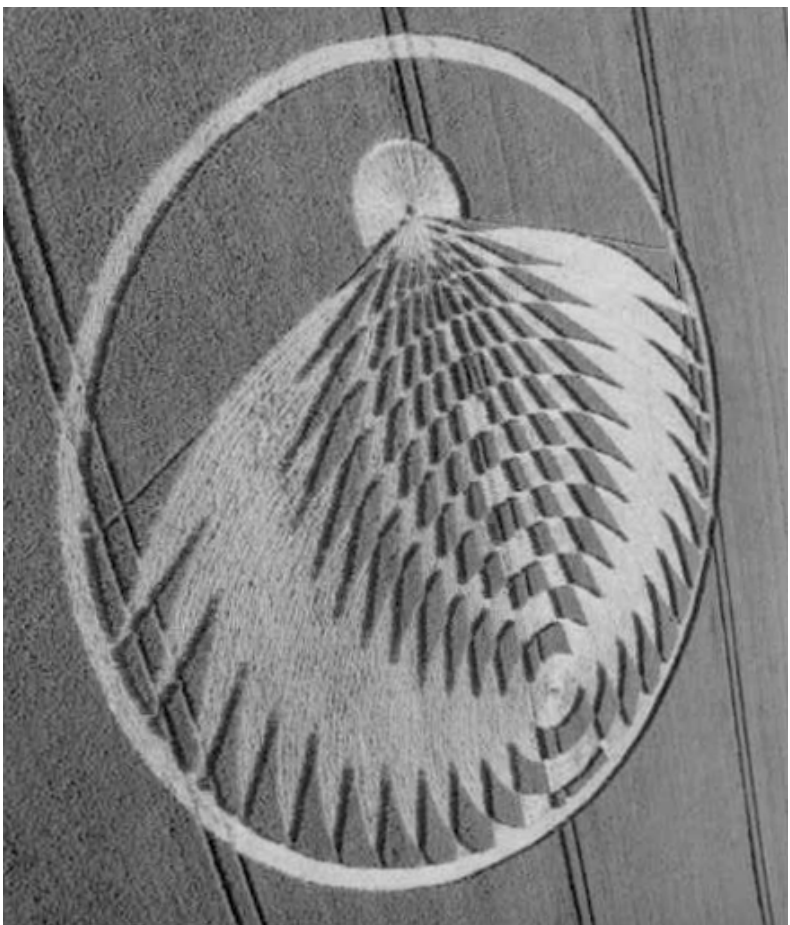
〔編註〕 覚者のこの記事で生き生きと描写されているように、宇宙船や様々な徴しるしがますます頻繁に世界中で目撃されるだろう。シエア・インターナショナル誌には世界中からの宇宙船の目撃の情報が掲載されている（二〇〇七年三月号参照）

ミステリーサークル

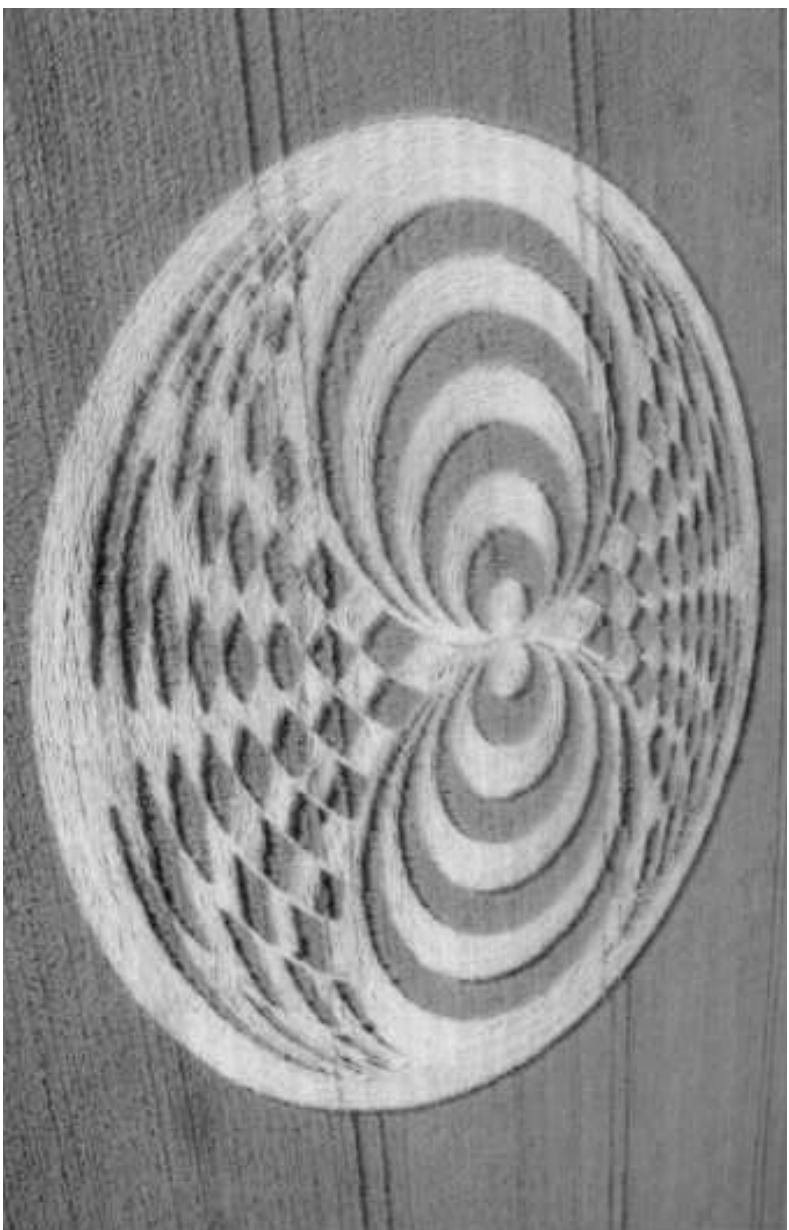
ミステリーサークルはUFOの移動によってしばしば収穫前の麦畑に作られる。主に火星と金星からのUFOであり、太陽系外からではない。太陽系の惑星にはすべて居住者がいる。とはいっても、火星や金星に行っても人の姿が見えることはなく、それは彼らがみな、より高位のエーテル体の体を持っているからである。UFOの出現はキリストの再臨やハイアラキーの仕事の具現化とはつきりと結びついており、彼らからは大変な恩恵を授かっている。UFOが地球を監視してくれていることは、世界にとって総合的、エネルギー的に有益なことなのである。

宇宙の兄弟たちが特にミステリーサークルに関して行っているのは、この惑星で磁気を発している場所、「碁盤目」をある程度表面上に再現させることである。こうしたミステリーサークル一つ一つがチャクラであり、見た目どおり、磁力の渦である。これらはイギリスを始め、世界中に広まっている。サークルはみな「表意文字」であり、古代のアトランティス文明の「表意文字」に精通しているなら解説できるものもあるだろう。「表意文字」は、それが示すところをそのままとらえるためのものではないが、確かに意味は持っていて、多くの人はそれらを「直感」する。ミステリーサークルは宇宙の兄弟たちと古代のつながりを示すものである。

(シェア・インターナショナル、二〇〇七年三月号)



イギリス、オクスフォードシア、ウインストン・キャッスル。2006年7月8日／© Steve Alexander



イギリス、パークシア、ストリート・ソレイ。2006年7月20日／© Steve Alexander

伝導瞑想について

「世界に対するダイナミックな奉仕と個人の強力な霊的発達の両方を提供するグループ瞑想である」

伝導瞑想はグループ瞑想であり、霊的エネルギーをその管理者であるこの惑星の霊的ハ
イアラキーの覚者方がよりよく分配するために確立されたものである。これらのエネルギー
を一般の人々により入手しやすく、使いやすいレベルに下げる（変換する）手段である。
人類のためになるより高位のエネルギーの渦、あるいはプールの創造であり、それはハイ
アラキーの覚者方との協同作業で行われる。

一九七四年三月にベンジャミン・クレームの師である覚者の指示のもとに、最初の伝導
瞑想グループがロンドンで形成された。今日世界中に何百という伝導瞑想グループが存在
し、絶えず新しいグループが次々とつくられている。

伝導瞑想グループがハイアラキーとの間に連結^{リンケ}を提供し、それによってハイアラキーは世界の必要に応えることができる。この仕事の第一の動機は奉仕であるが、しかしそれはまた個人の成長にとつての強力な様式でもある。多くの人々が世界をより良いものにするための何らかの方法を探している。この奉仕への願望が強いものであっても、われわれの忙しい生活の中でそれを満たすことはなかなか困難である。われわれの魂は奉仕への手段を必要とするが、われわれは必ずしもその呼び掛けに応えない。そうすると平衡を欠き、われわれ自身の裡^{うち}に葛藤^{うづも}が起こる。伝導瞑想はわれわれの時間とエネルギーの最小限の消費で強力に完全に科学的な方法で奉仕するためのユニークな機会を提供する。

ベンジャミン・クレームは世界中で伝導瞑想のワークショップを開く。伝導瞑想の間中、彼は世界教師マイトレーヤによってオーバーシャドウされる。それによってマイトレーヤはそこに参加している人々に大いなる霊的育みを授けることが可能になる。多くの人々がそのようなワークショップに参加した後で、鼓舞されて伝導瞑想をやり始める。そして多くの人々がその過程のなかで様々な治癒の体験を報告している。

伝導瞑想に関する詳細は、ベンジャミン・クレーム著『伝導瞑想——21世紀のヨガ』をご参照ください。

大祈願

神の御心の光の源より

光をあまねく人の心に流れ入れさせ給え

光を地上に降らせ給え。

神の御心の愛の源より

愛をあまねく人の心に流れ入れさせ給え

如来（キリスト）よ地上に戻られ給え。

神の意志、明らかなる中心より

大目的が人の貪^{とほ}しき意志を導かんことを

如来は大目的を識^しりこれに仕え給う。

我らが人類と呼ぶ中心より

愛と光の大計画を成させ給え

悪の棲^{すみ}処^かの扉^{とびら}を封じ給え。

光と愛と力とをもて

地上に大計画を復興させ給え。

『大祈願』は、1945年6月にキリスト（マイトレーヤ）によってはじめて使われ、人類に授けられた。世界を変え、マイトレーヤと覚者方の一団の帰還を可能にするエネルギーを、人類自身が呼び起こすことができるように与えられた。これはキリスト・マイトレーヤによって使われる形ではない。彼は神秘的な7つの節から成るいにしへの司祭のこゝばである古式文を使われる。それが人類が理解し、使用できる言語に（英語で）ハイアラキーによって訳され、今日世界中50数国語に訳されている。

新しい時代の祈り

わたしは宇宙の創造主である。

わたしは宇宙の父にして母である。

すべてがわたしから来る。

すべてがわたしに戻る。

心と生気と肉体はわたしの宮殿である。

真我はそのなかにわたしの至高の存在と生成を実現する。

世界教師マイトレーヤによって授けられた『新しい時代の祈り』は偉大なマントラ（言霊）であり、喚起の効果を伴う是認のことばである。人と神とは一体であり、分離したものではないことを、われわれが是認するようになるための強力な道具（ツール）である。

「わたし」はすべての創造の背後にある神聖な原理である。真我はそこからいずるものであり、神の原理と同等である。

このマントラを使う最も効果的な方法は、注目を眉間のアジュナチャクラに保って、集中した意志で唱えるか、思うことである。マインド（識心）からの概念の意味を把握し、同時に意志が加わる時、これらの概念は活性化され、マントラは働く。もし毎日、真剣にこの祈りを使うならば、われわれの裡に、われわれ自身が本当に真我であり、不滅の存在であるという認識が生じていくだろう。

アクエリアス（宝瓶宮）

天文学的には、今始まるうとしていて、およそ二千三百五十年続くアクエリアス（宝瓶宮）の時代をさす。秘教的には、水瓶の運搬人、マイトレーヤの時代を指し、またアクエリアスの靈的エネルギー、つまり統合と同胞愛のエネルギーを意味する。

悪

進化発展の過程を妨害するものすべて。

アジュナ・チャクラ

眉間にあるエネルギー・センター（チャクラ）。パーソナリティー（肉体人間）の指令センター。肉体（物質界）におけるその対応点は脳下垂体である。

アシユラム

智慧の大師（覚者）のグループを指す。靈的ハイアラキーには四十九のアシユラムがある。主要なアシユラムが七つと四十二のそれらの支部にあたるアシユラム。その各々は智慧の大師（覚者）に率いられている。

アストラル界

希望と不安、感傷的愛と憎しみ、幸福と苦しみのような反対の極にあるものを含む感情の界。幻想・錯覚（イリュージョン）の界であり、七つの垂界に分か

れている（最上亜界が第七）。

アストラル体

個人の感情・情緒体。

アストラル偏極

通常意識が働く座がアストラル体にある（偏極している）場合を指し、進化段階の1.5と1.6段階くらいでメンタル偏極がはじまるまでをいう。

アバター（大聖）

人類の呼び掛けと必要に応じて（遠方から）降ってこられる霊的存在。人間アバター、惑星アバター、そして宇宙レベルのアバターがいる。後者は「転生した神聖な存在」（例えば、サイババ）と呼ばれる。彼らの教えを人類が正しく理解し、徐々に応用すれば、われわれの理解を拡大し、進化発展の次の段階を提供してくれるものとなる。

アンタカラナ

肉体の脳と魂を繋ぐ架け橋となる目には見えない光の導管であり、瞑想と奉仕を通して築かれる。

アンチ・クリスト

神の意志の相のエネルギー。その下降局面においては、例えば時代の終わりに、クリスト原理の建設的エネルギーに道を整えるために、古い形態や関係を破壊する。ローマ時代にはネロ皇帝を通して、現代ではヒトラーと彼の六人の

イエス

側近を通して顕現した。

智慧の大師（覚者）であり、キリスト・マイトレーヤの弟子。洗礼から磔までの間キリストが彼を通して働くことができるようにした。次の時代にはキリスト教全体に再び息吹を吹き込み、再方向づけをするのに主要な役割を果たされるであろう。

イニシエーション

転生している人間とその魂の間に、そして聖なるモナドつまり「神の燃めき」との間に起こる継続的で段階的な統合と一体化の自発的な過程。各々の段階はそのイニシエートに神の大計画の意味と目的についてのより深い理解と、大計画における自分の役割についてのより十分な認識と、その成就に向けて意識的に知的に働く能力の向上を与える。惑星レベルのイニシエーションを指し、五段階ある。通常のイニシエーションの儀式はこれまでは眠っている間に行われ、物質界で行われるものではなかった。キリスト・マイトレーヤが公になられてやがて物質界で、最初の二段階のイニシエーションの儀式を司るようになるだろう。

イニシエート

少なくとも惑星レベルの第一段階のイニシエーションを受けた者、覚者方がイニシエートと呼ぶときは、第三段階かそれ以上のイニシエーションを受けた者を指す。

イマム・マーディ

モハメッドによって始められた仕事を完成するために戻って来る方として、イスラム教の幾つかの宗派に待望されている人物。

イリユージョン（錯覚）

メンタル界における幻想。魂がその道具として幻想下にあるマインドを使う時、現象界について歪んだ描写を得る。

永久原子

物質の三原子（肉体、アストラル、メンタル）の周りに新しい転生のための体が形成される。それらはその個人の死の瞬間の波動率を保持し、それまでに達成したエネルギー的進化の「地位」が次の転生へと持ち越されることを保証する。

エーテル界

ガス状物質よりさらに精妙な四つの物質の界。まだほとんどの人には見えない。

エーテル体

秘教の見地からは、顕在する宇宙全体にはエネルギーのみしか存在しない。エネルギーは様々な周波数で振動しており、特定の周波数がそのエネルギーの形態を決定する。エネルギーは思考によって活動を起こし、方向付けることができる。

エネルギー

秘教の見地からは、顕在する宇宙全体にはエネルギーのみしか存在しない。エネルギーは様々な周波数で振動しており、特定の周波数がそのエネルギーの形態を決定する。エネルギーは思考によって活動を起こし、方向付けることができる。

オーバーシャドウ

師（覚者または智慧の大師）の意識が一時的に弟子の肉体、感情体、メンタル体に入り、それらを通して働く自発的、協力的過程。

オカルト

“隠れた”の意。エネルギーの隠れた科学（秘教の項を参照）。

界

顕現のレベル。

覚者

（智慧の大師を参照）。

下降の孤（インポリューション）

霊がその対極にある物質に下降する過程。

神

この惑星に命（いのち）を吹き込む偉大な宇宙の存在。我々が見ることのできるもの、できないもののすべてを構成する。あらゆる法則とその法則に支配されるあらゆるエネルギーを体現する存在（ロゴスの項を参照）。

カルマ

原因と結果の法則の東洋における用語。この太陽系におけるわれわれの存在を支配する基本的な法則。われわれのあらゆる思考、行動が原因を始動させる。これらの原因が結果を生じ、それらがわれわれの人生を、良かれ悪しかれ形づくる。聖書には、「自らが蒔いた種を自ら刈り取る」と表現され、科学的には

キリスト

靈的ハイアラキーの長を指すのに用いられる言葉。世界大師（または世界教師）。覚者方のすべてのマスター（長）。現在主マイトレーヤが就任されている職務。

キリスト意識

宇宙のキリストのエネルギー、キリスト原理としても知られている。われわれのためにキリストによって体現されているこのエネルギーは、現在世界中の何百万の人々の心を覚醒している。つまり、進化のエネルギーである。

グラマー

アストラル界の幻想。アストラルレベルで生じた感情的衝動によってマインド（識心）が覆われて、心（マインド）の目ではっきりとリアリティー（実相）を見ることを妨げている状態。例えば恐怖心、自己憐憫、批判、疑惑、独善性、過剰な物質主義など。

クリシュナ

紀元前三〇〇〇年頃に現れた偉大なアバターで、白羊宮（エリアス）の時代に主マイトレーヤの顕現のための器となった。アストラル／感情体をコントロールする必要を顕示することで、クリシュナは第二段階のイニシエーションへの扉を開いた。ヒンドゥー教徒は暗黒の時代、カルキ・ユガの終わりにクリシュナの新しい転生を待ち望んでいる。

グル

靈的教師または導師。

原因と結果の法則（作用と反作用の法則）
（カルマの項を参照。）

コーザル体

コーザル界における魂の表現体。人の発達の進化段階の意識が保存される器。

コーザル界

高位メンタル界の四つの亜界の三つ目であり、魂が宿る界。

光線（レイ）

宇宙の神聖なエネルギーの七つの流れであり、各々が偉大なる大生命（いのち）の表現である。考えられうる限りの様々な振動による相互作用が太陽系、銀河系、宇宙を創造する。偉大なる生命の表現である。これらのエネルギーの動きは螺旋状の周期をなし、すべての存在を顕現の中へ、また外へと引き寄せ、特定の特質と属性でそれを彩り、漲らせる。各個人の魂およびパーソナリティーは様々な光線の特質に支配されており、国家にも国家の魂とパーソナリティーの光線がある。

再生誕の法則

（転生の項を参照。）

サナット・クマラ

世界の主。シャンバラに住むわれわれの惑星ロゴスのエーテル物質表現。一八

時代^{エーシ}

五〇万年前に金星から来られた偉大な存在であり、この惑星に魂（いのち）を入れられた存在のためのパーソナリティーの表現（器）となるために、御自身を犠牲にされたのである。われわれが知ることのできるもっとも近い神の相地球と太陽と黄道帯の十二の星団との関係によって決定される世界の周期であり、一つの時代はおよそ二千五百年である。

シャンバラ

この惑星における主要なエネルギーセンター（中心）。それはゴビ砂漠上方の上位二つのエーテル界に存在する。そこからシャンバラのエネルギー（意志または目的のエネルギー）が流れる。それは人間で言えば頭頂チャクラに対応する。

進化

物質の進化の過程。本源へ戻る道。幻想や錯覚の覆いを捨て去り、ついには宇宙意識へ至ること。

真我／モノド

神性の三重性を反映する純粹靈（Ⅱ）（1）聖なる意志またはパワー（父）（2）智慧・愛（子）（3）活動的知性（聖霊）。すべての人間の裡にある聖なる燐めき。

世界大師・世界教師

一定の世界周期における霊ハイアラキーの長を指す。覚者方すべての長（マスター）。現在は主マイトレーヤが就いている職務。

世界の主

(サナット・クマラの項参照)。

ソーラーロゴス(太陽ロゴス)

われわれの太陽系にいのちを吹き込まれる聖なる存在。

大宣言の日

世界中のテレビ・ラジオを通してマイトレーヤが御自身を世界に知らしめる日。テレビやラジオを見たり聴いたりしていない人々も、各人の自国語で思念伝達の方法でマイトレーヤの言葉を聞き、同時に何万何千の自然治療が世界中で起こるだろう。マイトレーヤの公の使命の始まりとなる日。

大祈願

われわれの世界を変換するエネルギーを人類が喚起するために、人類が用いるようにマイトレーヤによって授けられたマントラであり、ハイアラキーによって分かりやすい英文に訳された古(いにしえ)のマントラ。多くの国の言葉に翻訳され、何百万人の人々が毎日使っている。

魂

高位我、裡なる支配者、裡なるキリスト、マインドの子、ソーラーエンジェル。霊と物質、神とその形態、を結び付ける原理。形態のあらゆる顕現に意識と特色と特質を与える。

男女（肉体人間）

「ひとつなる霊（神）」の一個のきらめきである霊モナッド（真我）の物質界における顕現。

智恵の覚者（マスター・オブ・ウイスタム）

この世の生活が提供するあらゆる経験を通じて、その過程で完全に自分自身と自然界の法則に対するコントロールを習得し、第五段階のイニシエーションを受けた方々。進化の大計画の管理者であり、この惑星に入ってくる大計画の成就をもたらすあらゆるエネルギーの管理者である。しばしば単にマスター（覚者）と呼ばれる。

デーヴァ・天使

人類と並行して進化している自然界に属する天使または天人。人間以下のエレメンタルから惑星のロゴスのレベルの超人的存在までいろいろある。人類のメンタル体、感情体、肉体を含む、われわれが見るあらゆる形態をつくる資質を知的に扱う「活動的な建設者」である。

チャクラ

脊椎に関連するエーテル体にあるエネルギーセンター（渦）で、七つの重要な内分泌腺、すべての体（メンタル体、アストラル体、肉体）の調整と活性化、およびそれらと魂、すなわち意識の中核、との相関性を司る。七つの主要なチャクラと四十二の小チャクラがある。

転生（再生誕の法則）

魂が三重のパersonality（肉体人間）として、再生誕の法則の下に顕現す

ること。神が物質を完全に神の特質の染み込んだものにして自らの元へ戻すために、媒体（われわれ）を通してその反対の極である物質に自らを下降させる過程。進化の過程を通して人間が徐々にもっと如実にその生得の神性を顯示するまで、カルマの法則がわれわれを転生へと引き寄せる。

伝導瞑想

グループ瞑想と奉仕の特殊の形態で、参加者は覚者方の霊ハイアラキーから送られるエネルギーを変換しより低い波動（振動）に変える道具として、そのエネルギーセンター（チャクラ）を提供する。それはこの惑星に人類がより入手可能で有益な「エネルギーの貯蔵庫」を提供する。個人の霊的成長にとっても強力な手段である。

統合の大聖（アバター）

意志、愛、知性、さらにわれわれがまだ名前すら付けていないエネルギーを体現している偉大なる宇宙の存在。一九四〇年より、これらのエネルギーは世界に送られており、分裂を統合へと徐々に変換させている。

トライアングル（三角組）

数分間の創造的瞑想のために毎日想念の中で繋がる三人で構成されるグループ。大祈願を広く世界に広め、強力に使用する方法として紹介された。

乗り舟（器）

高位の存在が低位の界で表現を見つける手段となる形態。例えば、肉体、アストラル体、メンタル体は低位の界における魂の乗り舟（器）を形成する。

パーソナリティー（肉体 物質界における魂の三重の乗り舟。メンタル体、情緒（アストラル）体、肉体・エーテル体からなる。

ハイアラキー

（靈ハイアラキーを参照）。

秘教

人間および低位の自然界の進化の過程についての哲学。古くから蓄積された智慧の科学。宇宙とそこにおける人間の位置のエネルギー構造についての組織的かつ包括的説明を提供する。現象の世界の背後にある力（フォース）と影響力について述べる。またこれらのエネルギー／フォースを自覚し、徐々に征服していく過程。

波動

エネルギーの動き。すべてのエネルギーはそれぞれ特定の周波数で振動する。進化の過程は入ってくるより高位のエネルギーに対応して、振動率を上げることと進行する。

ヒエアロファント（導師）

イニシエーター。最初の二つの惑星レベルのイニシエーションではキリストが、三段階以上では世界の主（サナット・クマラ）が務める。

物質界

物質の最低の波動状態で、濃密な物質、液状物質、ガス状物質そしてエーテル物質を含む。

不朽の智慧の教え

世界のあらゆる宗教およびあらゆる科学的、社会的、文化的業績の根底にある古（いにしえ）からの霊的教えの体系。最初に一八〇〇年代後半にヘレナ・ペトロヴナ・ブラヴァツキーによって、そして今世紀になってアリス・A・ベイリー、ヘレナ・レーリツヒ、ベンジャミン・クレームによって、一般に書物を通して入手できるようになった教え。

仏陀

白羊宮（エリアス）の時代の最後のアバター。紀元前五〇〇年頃にゴータマ王子を通して顕現された前の世界教師。智慧の体現者。現在彼はシャンバラとハイアラキーの間の「聖なる仲介者」としての役割を果たしておられる。仏教徒はマイトレーヤ仏（弥勒菩薩）の名前で次の偉大な師の到来を待望している。

ブッディ

普遍の魂またはマインド（識心）、高位の理性、愛ある理解、愛と智慧。覚者方が経験される愛のエネルギーを指す。

ブッディ界

聖なる直観の界。

ブラック・ロτζ

物質性の大主方の司るロτζ、進化の上昇の弧上にある人間から見るとき、闇または悪とも言われる。霊ハイアラキーの覚者方の司るホワイト・ロτζと対照する。

ブララーヤ

死と再誕生の間のことかにおける存在の状態であり、非メンタル、非アストラル、非物質状態。そこではいのちの衝動は休止状態の中にある。次の転生に入る前の完全な平安と至福の経験。キリスト教徒の天国の概念に相当する。

平和または平衡の霊

彼のエネルギーでマイトレーヤをオーバシャドウすることでマイトレーヤの仕事をつたえている宇宙の存在。作用と反作用の法則を扱って働き、現在の混乱した状態を全く同じ度合いでその正反対の状態に変換するエネルギーである。

マイトレーヤ

アクエリアスの時代の世界教師。キリストであり、われわれの霊ハイアラキーの長である。すべての覚者方の長（マスター）。

マナス

高位マインド。

マントラ（言霊）

公式化された言葉または一種の語句の組み合わせで、正しく使われればエネルギーを喚起する。

瞑想

自己の魂と接触し、ついには魂と一体になる科学的手段。また霊的印象付けに敏感になり、そうすることで霊ハイアラキーと協力する過程。

メンタル界

マインドの界であり、メンタルプロセスが起こるところ。アストラル界の上位

にあり、四つの亜界に分かれる（最上亜界は第一）。

メンタル体

メンタル界におけるパーソナリティーの道具。

メンタル偏極

通常働く意識の座がメンタル界にある（偏極している）ことを指し、進化段階の16段階から徐々に始まり25段階くらいで霊的偏極がはじまるまでを指す。

モナッド／真我

（真我／モナッドの項を参照）。

ヨガ

低位の特質と高位の特質の融合。また、肉体、アストラル体、メンタル体のコントロールを習得するための様々な形態と技法。

霊

マイトレーヤによって用いられるときには、個人に命（いのち）を与え活性化するあらゆるエネルギー（いのちのフォース）の総体を意味する言葉。もっとも秘教的には、魂に反映されるモナッドを意味するのに用いられる。

霊性（スピリチュアリティ）

人間を現在の状態から進歩させ、どの様な形であれ・肉体的、情緒的、直観的、社会的・成長へと促す活動の特質。

霊ハイアラキー（聖白色

神の王国、霊の王国、魂の王国。覚者方とあらゆる段階のイニシエートから成

同胞団、啓発されたマイン
ドのソサイエティー）
心。その目的は神の大計画を実施すること。惑星上の愛と智慧のセンター（中

ロゴス

神。惑星（惑星のロゴス、太陽系（太陽のロゴス、銀河系（銀河系のロゴス
など無限にあるものにいのちを吹き込む（魂を入れる）宇宙の存在。

惑星のロゴス

惑星に魂（いのち）を吹き込む神聖な存在。

ベンジャミン・クレームの著書

マイトレーヤ かくしゃがた こうりん 世界大師と覚者方の降臨

ベンジャミン・クレーム著／石川道子訳

ベンジャミン・クレームはこの最初の著書で、いま明けようとしている新しい時代の世界大師マイトレーヤ（キリスト）の出現に関する背景と関連情報を提供している。あらゆる宗教グループによって様々な名称で待望されてきたマイトレーヤは、われわれが多くのイデオロギー派閥の間で協力を創造するのを助け、世界の善意と分かち合いを喚起し、広い範囲にわたる政治、社会、経済、環境面の改革を鼓舞するためにやって来られる。ベンジャミン・クレームは、過去2000年間で最も深遠な出来事をその正しい歴史的、秘教的な文脈の中でとらえ、世界大師の存在が世界の諸々の制度機構および平均的な人の両方に対してどのような影響を与えるかを描写している。クレームは智恵の覚者とのテレパシーによる接触を通して、魂と輪廻転生、死の恐怖、テレパシー、瞑想、核エネルギー、古代の文明、UFO、開発途上国世界の問題、新経済秩序、アンチ反キリスト、“最後の審判”などについて洞察を提供している。

初版1979年、改訂版1998年 B6判／378頁

マイトレーヤからのメッセージ いのちの水を運ぶ者

ベンジャミン・クレーム伝／石川道子訳

マイトレーヤは御自身の出現に向けた準備期に、1977年から1982年まで、ロンドンでのベンジャミン・クレームの公開講演会のときに、彼を通して140信のメッセージを伝えた。使用された方法はメンタル・オーバーシャドウと、それによって確立されたテレパシー（思念伝達）であった。

分かち合い、協力、和合を訴えるマイトレーヤのメッセージは、読者に対して、彼の再臨のニュースを広め、そして豊かな世界で貧困や飢餓のために苦しんでいる何百万もの人々の救済に緊急に取り組むことを鼓舞する。マイトレーヤはメッセージ第11信で次のように述べている。

「あなたがたを取り巻く問題を切り抜ける道は、あなたがたの心の裡なる神のまことの声に再び声を傾けることであり、この世の豊かな産物を世界中すべて

の兄弟姉妹たちと分かち合うことである。これをあなたがたに示すことがわたしの計画である……」

マイトレーヤの言は、世界が変化するこの重大な時期において、智慧、希望、救済の独特な源泉となっており、声に出して読むとき、こうした深遠だが単純なメッセージは彼のエネルギーと祝福を喚起する。

改訂初版1999年、B6判／448頁

伝導瞑想 — 21世紀のヨガ

ベンジャミン・クレーム著／石川道子訳

伝導瞑想は、霊的エネルギーを“ステップ・ダウン”(変換)することを目的としたグループ瞑想の一形態である。このようにしてそのエネルギーは、一般の人々にとって利用しやすく有益なものとなる。伝導瞑想は、覚者方のハイアラキーと協力しながら、人類の利益のために高度なエネルギーの渦もしくは貯蔵池を創造することである。

覚者の指導のもとにベンジャミン・クレームによって1974年に紹介されたこの瞑想は、簡単にできる奉仕の一形態であると同時に、強力な個人的成長の手段ともなっている。この瞑想は二つのヨガ、カルマ・ヨガ(奉仕のヨガ)とラヤ・ヨガ(エネルギーまたはチャクラのヨガ)を組み合わせたものである。それは、「新しい時代」に入るにあたって、そしてその先もずっと、人類の進化を助けているという知識のうちに、生涯にわたって関与することのできる奉仕である。世界中の多くの国で何百という伝導瞑想グループが活動している。

ベンジャミン・クレームはこの実際の啓発的な著書の中で、弟子の発達に向けた瞑想の根底にある目的のほか、伝導瞑想の目標、テクニック、結果も描写している。

改訂三版1997年、A5判／248頁

叢知の種

覚者は語る

ベンジャミン・クレーム／石川道子訳

人類は舞台の背後から、高度に進化した光明ある一団によって導かれている。

これらは智慧の覚者方と呼ばれ、進化の旅路をわれわれよりも先に歩まれた方々である。めったに公に世界に姿を現すことはなく、通常、弟子たち——科学、教育、芸術、宗教、政治など人生のあらゆる部門で活躍し社会に影響力を及ぼす男女——を通して働く。

英国の画家ベンジャミン・クレームはある覚者の弟子であり、テレパシーによって密接に連絡を取り合っている。クレームの師である覚者は、クレームが編集長を務める『シェア・インターナショナル』誌に、その創刊号（1982年）以来、人々を奮起させるような記事を毎月寄稿してこられた。その記事は、理性と直観、新しい文明、健康と治療、生きる技、統合の必要、正義は神聖なり、人の子、人権、再生誕の法則、飢餓の終わり、平和のための分かち合い、民衆のパワーの盛り上がり、最も輝かしい未来、協力など、幅広い主題に及んでいる。

これらの記事の主要な目的は、現在および間近な将来の必要について人々の注目を引くこと、さらにすべての覚者方の長であるマイトレーヤの教えについての情報を提供することである。本書には『シェア・インターナショナル』誌の創刊以来22年間にわたる223の記事すべてが収録されている。

初版2004年、B6判／640頁

マイトレーヤの使命 第1巻

ベンジャミン・クレーム著／石川道子訳

世界大師マイトレーヤの出現と教えについて説明した三部作の最初の作品である。人間の意識が着実に成熟するにつれて、今や古代の「神秘」の多くが明かされようとしている。本書は、進化の旅路を歩む人類にとっての手引書と見なすことができる。キリストの新しい教えから瞑想やカルマに至るまで、死後の生命と輪廻転生から治療や社会変革、イニシエーションと奉仕の役割から七種光線、そしてレオナルド・ダ・ヴィンチやモーツァルトからサティア・サイババに至るまで、この本が網羅する範囲は広大である。本書は世界大師マイトレーヤの仕事のために、そしてすべての者にとっての新しいより良い生活の創造のために、背景状況を説明して道を整えている。本書は力強い希望のメッセージである。

再改訂版1998年、A5判／432頁

マイトレーヤの使命 第2巻

ベンジャミン・クレーム著／石川道子訳

この心を鼓舞し温めてくれる本は、黄金時代の入口にあって苦悩している世界に新たな希望と手引きを提供している。本書は世界大師マイトレーヤの教えを、外的な実際のレベルと内的な霊的レベルの両方において提示している。世界の出来事についての比類なく正確な予報は国際的なメディアを驚嘆させ、奇跡的な顕現は何千もの人々に希望とインスピレーションをもたらしている。本書はベンジャミン・クレームの覚者との一連の独特なインタビューも収録しており、それは人類が直面する最大の問題のいくつかに光を当てるものである。

本書はとてつもなく広い範囲を網羅している。マイトレーヤの教え、意識の成長、新しい統治形態、商業至上主義と市場のフォース、分かち合いの原則、新しい時代、壁のない学校、光のテクノロジー、ミステリーサークル、真我、テレパシー、病氣と死、エネルギーと思考、伝導瞑想、魂の目的などである。また、「恐怖心の克服」や「奉仕への呼びかけ」に関するベンジャミン・クレームの啓発的な講話の内容を編集したものも含まれている。

改訂版1998年、A5判／768頁

マイトレーヤの使命 第3巻

ベンジャミン・クレーム著／石川道子訳

ベンジャミン・クレームは心踊るような未来のビジョンを提供する。世界大師マイトレーヤとその弟子たち、つまり智慧の覚者方が公に導きを与えてくれるため、人類はその神聖な潜在能力に値するような文明を創造するだろう。平和が確立され、世界の資源の分かち合いが普通のことになり、環境を維持することが最優先事項になるだろう。新しい教育は魂の事実と意識の進化について教えるだろう。世界の都市は偉大な美のセンターへと変容するだろう。

この本は広範囲な話題に関してこうした貴重な智慧を提供する。それには将来に向けたマイトレーヤの最優先事項や、「21世紀の挑戦」についての智慧の覚者とのインタビューも含まれている。カルマと輪廻転生、人類の起源、瞑想と奉仕、進化の大計画、不朽の智慧の教えの基本的な概念などが本書で探求さ

れている。画家でもあるベンジャミン・クレームが——レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、レンブラントといった——10人の巨匠を、秘教的で霊的な観点から評論する興味深い講話の内容が収録されている。

本書は『マイトレーヤの使命』シリーズの最初の二冊のように、深遠な霊的真理と、今日最も頭の痛い問題に対する実際的な解決策とを組み合わせている。本書はまさしく、「この世界がかつて見たこともないような文明の創造を始める」用意の出来た人類にとって、希望のメッセージとなっている。

初版1997年、A5判／704頁

大いなる接近 —— 人類史上最大の出来事 ——

ベンジャミン・クレーム著／石川道子訳

この予言的な書は、われわれの混沌とした世界の問題に焦点を当て、世界大師マイトレーヤと一緒に9万8000年ぶりに世界に公に戻って来ようとしている完璧なる方々の一団、つまり智慧の覚者方の影響のもとで徐々に変化していく世界を描いている。

本書が網羅している話題には、困惑のアメリカ、民族紛争、犯罪と暴力、環境と汚染、遺伝子工学、科学と宗教、光の特性、健康と治療、教育、奇跡、魂と転生などがある。この書は途方もない智慧の統合であり、未来にサーチライトを投射して、明確なビジョンをもって、われわれが達成する最高の業績と、前方に横たわる驚嘆すべき科学的発見を明らかにする。戦争は過去のものとなり、すべての人間の必要が満たされる世界がわれわれに示されている。

初版2001年、B6判／448頁

協力の術^{すべ}

ベンジャミン・クレーム著／石川道子訳

本書は現代の最も切迫した問題と、不朽の智慧の教えの観点から見たその問題の解決策について論じている。この教えは数千年もの間、外的世界の根底にあるフォース（エネルギー）を明らかにしてきた。ベンジャミン・クレームはこうした教えを現代へとよみがえらせ、世界大師マイトレーヤと智慧の覚者方の一団の間近に迫った出現のために道を整えている。マイトレーヤはこのま

ます高まっている認識をわれわれの中に鼓舞しようとされるだろう。

本書は、大昔からの競争の中にがんじがらめになり、古くて役に立たない方法でそれらの問題を解決しようとしている世界を見る。問題解決の答え——協力——は、われわれの手の中にある。すべての生命の根底にある和合の大切さをますます認識することを通して、正義と自由と平和の世界への道を示す。

本書で扱う話題には、協力の必要性、アメリカ合衆国と競争、有機体と組織体、奉仕の機会、失うことへの恐れ、カルマ、愛、勇気と無執着、グラマーの克服、覚者方の教え方、多様性の中の和合、合意、信頼などが含まれる。

初版2002年、B6判／358頁

いのちの法則（マイトレーヤの教え）

ベベンジャミン・クレーム監修／石川道子訳

かつての世界大師の教えは、その存在がある程度知られるようになる以前に与えられたものについてはその断片すらも伝わっていない。キリスト、仏陀、クリシュナの教えは、のちの信奉者の目から見たものしか伝わっていない。計り知れないほど高位の存在者の見解や洞察の一端が伝えられたのは今回が初めてであり、われわれは前途に広がる進化の旅路を理解できるようになった。世界大師はそのような旅路の概略を描くためにやって来られた。大師から受ける印象は、その知識と認識の広がりや深さには限りがないということ、大師は想像を絶するほど寛容で賢明であるということ、そして驚くほど謙虚であるということである。

本書を読んで内奥の変化を経験しない人はいないであろう。世界の事象に対する途方もなく透徹した洞察に大きな関心を抱く人もいるだろうし、自己実現の秘訣の明示、体得された真理についての簡潔な描写に啓示を受ける人もいるだろう。いのちの法則を理解することを願うすべての人にとって、こうした精妙で含蓄の深い洞察によって、読者はいのちの本源へと導かれ、山の頂きへと伸び広がる単純な道を示される。すべての生命の本質的な一体性が明瞭で味わいのある方法で強調されている。われわれの生活を支配する法則がこれほどまで自然で伸びやかに見えたことはこれまで一度もなかったように思われる。

初版2005年、B6判／400頁

生きる術^{すべ}

ベンジャミン・クレーム著／石川道子訳

二人の智慧の覚者方、つまりジュワル・クール覚者と、とりわけベンジャミン・クレーム自身の師である覚者の著作に刺激を受けて、本書の第一部は、絵画や音楽のような芸術の一形態として「生きる」という経験が考察されている。高度な表現レベルに達するには、特定の基本的原則についての知識と遵守が必要とされる。生きるという^{アート}芸術（術）においては、原因と結果の大法則とそれに関連した再生誕の法則を理解してこそ、われわれは他者に害を与えない落ち着いた生活を実現し、それが個人的な幸せや、正しい人間関係、すべての人間にとっての、進化の旅路における正しい道へとつながっていく。

第二部「相対立する二極」と第三部「イリュージョン（錯覚）」では、人間が自分の内面においても外的な生活においても、限りなく続くように思われる苦悶を経験するのは、人間が進化計画の中で独特な位置——霊と物質が出合う地点——にあるからだと示唆される。イリュージョンの霧を脱出して、自分自身の二つの様相を一つの完全なる全体へと統合させる手段は、ますます無執着になり客観的な自己認識を高めながら、人生そのものを生きることにある。

初版2006年、B6判／352頁

心の扉シリーズ①

不安感 一挙に乗り越え自在心

ベンジャミン・クレーム著／石川道子訳

本書は、人間の感情の中で最も深く破壊的な抑圧的な感情である恐怖心をいかにして克服するか、それを一挙に乗り越える方法があるのか、恐怖や不安から解放されて自在に生きることが可能なのかなどについて、非常に分かりやすく説いている。『マイトレーヤの使命 第二巻』に掲載された「恐怖心の克服」の章を単行本の形で出版したもの。

初版2000年、B6判／142頁

心の扉シリーズ ②

私は誰か 不朽（ふきゅう）の智慧の教えに学ぶ

ベンジャミン・クレーム著／石川道子訳

人類の霊的遺産についての概観を示し、不朽の智慧の教えへの明快な理解しやすい紹介である。ベンジャミン・クレームとのインタビュー形式で秘教の基本的な概念を説明する——教えの源、世界大師（教師）の出現、再生誕と輪廻転生、原因と結果の法則、進化の大計画、人間の起源、瞑想と奉仕などを含む。『マイトレーヤの使命 第三巻』にある「不朽の智慧の教え」の部分を単行本の形で出版したもの。

初版2000年、B6判／162頁

月刊『シェア・インターナショナル』

シェア・インターナショナル誌は新しい時代の思考の二つの主な方向——政治的と霊的——を統合する。現在、世界的規模で起こっている政治的、社会的、経済的、霊的な変化の底に横たわる統合を示し、この世界をより正しい、慈悲深い線にそって再建するための実際的な行動を刺激することを意図する。

世界大師マイトレーヤの提示する優先順位——適切な食糧の供給、すべての者のための適切な住居、普遍的権利としての健康管理と教育、世界の生態均衡の維持——に関係するニュース、出来事、コメントを網羅する。

『シェア・インターナショナル』誌の特徴的記事は、ハイアラキーの覚者からの寄稿、新しい時代の世界教師としてのマイトレーヤの出現についての最新情報、秘教の教えの拡大、世界における政治、経済、環境、霊的变化に関するマイトレーヤの教えや洞察、世界の変容についての肯定的な展開のニュース、ベンジャミン・クレームによる読者質問欄、世界中の読者からの通信欄「編集長への手紙」などを含む。

発行 シェア・ジャパン

年間購読料 7000円（送料込み）

申込先 郵便振替 00880-2-75597

口座名「シェア・インターナショナル」

問い合わせ先：電話／FAX 042-799-2915

著者について

ベンジャミン・クレーム

スコットランド生まれの画家で秘教学徒のベンジャミン・クレームは、過去30年間にわたり人類史上最大の出来事に対して世界の準備を整えるために活動してきた。

彼の師である覚者の訓練・監督のもとで、1974年から公の活動を始めて以来、世界中のテレビ、ラジオ、ドキュメンタリーに出演するとともに、世界各地で幅広くこの希望のニュースを伝える講演を行ってきた。本書を含む彼の11冊の著書は多くの言語に翻訳発行されている。世界70余カ国に購読者をもつ国際月刊誌『シェア・インターナショナル』の編集長でもある。

訳者について

石川道子(いしかわ みちこ)

東京に生まれる。最終学歴はアメリカのエール大学大学院修士号 国際政治学、特に第三世界開発問題の研究。後に、アメリカで新しい教育形態の実験的プログラムの開発および運営に従事する。1981年以来、ベンジャミン・クレームの共働者の一人として日米を中心に世界のネットワークの中で奉仕活動が続けている。クレームの著書を中心に編集、翻訳、出版の活動、さらに国際月刊誌『シェア・インターナショナル』日本語版の監修責任、他を務めている。

全人類のための世界教師

2007年5月1日 第1刷発行

定価：本体1200円+税

著者	ベンジャミン・クレーム
訳者	石川道子
発行者	石川道子
発行所	有限会社シェア・ジャパン出版 〒164-0003 東京都中野区東中野1丁目10-8-304 電話／ファクス 042-799-0275 振替 00100-8-150964
印刷所	ヨツハシ株式会社

© 2007 Benjamin Creme
ISBN4-916108-16-7 C ¥1200E